

だい じうつのみやしこくさいかすいしんけいかく  
**第2次宇都宮市国際化推進計画**

うつのみやし こくさいか けいかく  
宇都宮市の 国際化のための 計画



へいせい ねん ねん がつ  
平成26年（2014年）3月

うつのみやし  
宇都宮市

**UTSUNOMIYA CITY**



## はじめに

宇都宮市は、昭和57年（1982年）のニュージーランドマヌカウ市（現在オークランド市）との姉妹都市提携以来、海外5つの姉妹（友好）都市、文化友好都市と交流を続けてまいりました。これらの交流を通じて、海外の異なる文化や生活習慣に直接触れられますことは、本市にとりまして、大きな財産であり、国際化推進の基礎となっております。

近年、諸外国は身近なものとなり、海外の情報も容易に得られるようになるなど、私たちを取り巻く環境は急速に変化し、多くの分野でグローバル化が進展しています。人・モノ・情報は、これまでにない規模やスピードで、国境を越えて移動しており、海外の経済状況が市民生活に直接、影響を及ぼすなど、国際化は市民に身近なものになりました。

このような中、本市が持続的に発展するためには、市民一人ひとりが国際感覚を身につけ、積極的に海外に向けて本市の魅力を発信するなど、世界を視野に入れたまちづくりが、より重要になっております。

また、世界の様々な国や地域から来日し、本市に生活の基盤を置いて生活している外国人住民は、年々増加しております。地域や学校などにおきまして、市民が外国人住民と接する機会は、ますます増えることが予想されますことから、「日本人住民と外国人住民の相互理解の促進」に加えて、「外国人住民の地域社会への参加促進」が、より一層必要になっております。

本市では、こうした変化に対応し、今後も国際化を着実に推進するため、引き続き「多文化共生の地域社会づくり」に重点を置くとともに、新たに都市としての魅力と活力の向上に資する「国際感覚豊かな人材の育成」に積極的に取り組むための「第2次宇都宮市国際化推進計画」を策定いたしました。

今後、この計画の推進に当たりましては、市民、関係団体、企業、教育機関等の皆様と連携を図りながら取り組んでまいりますので、これまで以上に、皆様の深い御理解と御協力をお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定に当たり、貴重な御意見を頂きました宇都宮大学国際学部長の田巻松雄教授を始め、特定非営利活動法人宇都宮市国際交流協会の皆様、外国人住民アンケート調査やパブリックコメントに御協力くださいました多くの皆様に心から御礼申し上げます。

平成26年（2014年）3月

宇都宮市長 佐藤 栄一

## 目 次

### 第1章 計画策定にあたって

1	計画策定の趣旨	1
2	計画の位置づけ	1
3	計画の期間	2
4	計画の役割	2

### 第2章 国際化をめぐる現状と課題

1	現行計画の実績評価に基づく現状と課題	3
2	社会変化からの現状と課題	7
3	外国人住民意識調査	10
4	課題のまとめ	17

### 第3章 計画の基本的な考え方

1	基本理念	19
2	基本目標	19
3	施策の体系	20
4	目標値の設定	24
5	重点事業	26
6	多様な主体に期待される役割	27

### 第4章 施策の展開

1	基本目標Ⅰ 誰もが暮らしやすい多文化共生の地域づくり	29
2	基本目標Ⅱ 国際理解・国際交流のための環境づくり	38
3	基本目標Ⅲ 国際化にふさわしい都市機能の充実	44

### 第5章 計画の推進に向けて

1	計画の推進体制	51
2	計画の進行管理	51

### 参考資料

参考資料1	計画策定にかかる基礎データ	52
参考資料2	各指標の達成状況	56
参考資料3	外国人住民意識調査 調査票	59
参考資料4	外国人住民意識調査 結果	69

# 第1章 計画策定にあたって

## 第1章 計画策定にあたって

## 1 計画策定の趣旨

本市においては、平成20年度に策定した「宇都宮市国際化推進計画」（平成21年度～平成25年度）に基づき、「外国人住民との共生を中心とした地域づくり」や「国際化に対応した都市づくり」に取り組んできました。

この間における外国人住民の生活を取り巻く環境は、世界同時不況や東日本大震災の影響により大きく変化しており、市内に在住する外国人数が平成21年10月をピークに減少傾向にある中で、永住者の在留資格を持つ外国人は増加の一途にあり、平成25年5月には外国人住民の約40%を占めています。

また、新しい在留管理制度の導入や外国人登録制度の廃止、住民基本台帳法の改正など、外国人を一時的な滞在者ではなく、生活者として受け入れていくための仕組みが整ってきている状況にあります。

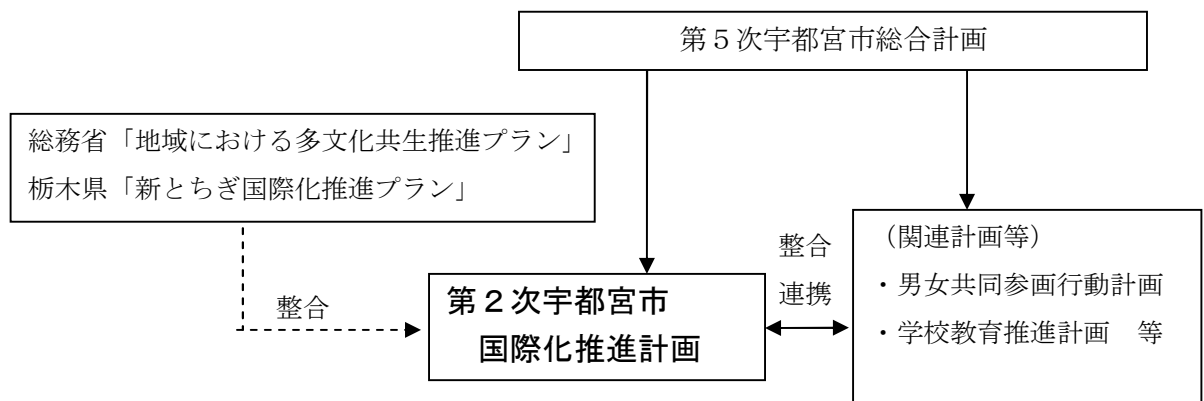
こうした外国人住民の定住化傾向が強まる中で、外国人との共生社会の実現に向けた環境整備が求められており、これまで以上に、外国人住民と日本人市民との相互理解の促進や外国人住民の生活環境の充実、外国人住民の地域社会への参画促進など、多文化共生社会の実現に向けた施策・事業を推進する必要があります。

また、経済活動のグローバル化や高度情報化の進展を踏まえ、市民主体の国際交流を促進するとともに、世界の様々な文化や価値観への理解を深め、その違いを認め合うことができる国際感覚を持ち、広い視野に立って考え、活躍できる人材を育成していく必要があります。

このようなことから、本市の更なる国際化に取り組み、より一層の効果を上げるためのプランとして、「第2次宇都宮市国際化推進計画」を策定します。

## 2 計画の位置づけ

この計画は、第5次宇都宮市総合計画基本計画の「Ⅵ 持続的発展が可能な都市の自治基盤を確立するために」のうち、基本施策「市民の相互理解と共生のこころを育む」の「多文化共生の推進」の施策の分野別計画として、本市の国際化推進に係る「基本理念」、「基本目標」、「施策の体系」、「重点事業」等を表すものです。



### 3 計画の期間

平成26年（2014年）度から平成30年（2018年）度までの5か年計画とします。ただし、社会環境の変化や計画の進捗状況等によって、必要に応じた計画の見直しを行います。

### 4 計画の役割

#### （1）多文化共生社会の実現に向けた取組を重点的に推進する計画

- ・多文化共生社会に実現に向け、外国人住民と日本人住民との相互理解の促進や外国人住民の生活環境の一層の充実、外国人住民の地域社会への参画促進を示す計画です。

多文化共生社会とは、国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、地域社会の構成員として共に生き、共に支え合う社会を指します。多文化共生社会の実現のためには、外国人が置かれている状況や直面している課題に向き合いながら、「共に生きていく」ということはどういうことなのかについて絶えず問い直していく視点が必要とされています。

#### （2）国際化に対応した人づくりの方向性を示す計画

- ・多様な文化や考え方を理解し、その違いを認め合うことのできる国際感覚を持ち、広い視野に立って考え、活躍できる市民の育成の方向性を示す計画です。



## 第2章 国際化をめぐる現状と課題

## 第2章 国際化をめぐる現状と課題

## 1 現行計画の実績評価に基づく現状と課題

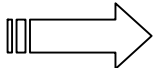
現行の「宇都宮市国際化推進計画」は、「誰もが暮らしやすい多文化共生の地域づくり」、「国際理解・国際交流のための環境づくり」及び「国際化にふさわしい都市機能の整備」の3つの基本目標を達成するため、9つの「施策の方向」を定め、国際化に関する施策・事業を推進してきました。現行計画の実績評価について、全庁的に調査を実施し、集約した結果を記載するとともに、現状と課題を整理しました。

### 基本目標1 誰もが暮らしやすい多文化共生の地域づくり

「相互理解の促進」、「在住外国人の生活環境の充実」、「多文化共生の地域づくり」等に取り組んできましたが、成果指標である「宇都宮市にずっと住み続けたいと感じる在住外国人の割合」（平成25年度の目標値：55%）は、平成25年度44.5%と目標値には届きませんでした。

#### 【成果指標】

「宇都宮市にずっと住み続けたいと感じる在住外国人の割合」

H20		H25	H25（目標値）
47.7%		44.5%	55%

（出典：外国人住民意識調査）

#### （1）実績評価

- ・外国人住民のコミュニケーション支援や相談体制の充実など、外国人住民を支援する仕組みは整いつつあるが、効果的な事業の展開に結びついていないものもあります。
- ・多文化共生の地域づくり事業は、峰地区の夏祭りに宇都宮大学の留学生が参加する取組を平成24年から開始したばかりであり、日本人住民への意識啓発や外国人住民の地域活動への参加はあまり進んでいません。また、外国人住民のニーズを把握する方法についても取組が十分ではありません。

#### （2）現状と課題

##### ア 施策の方向1 相互理解の促進

外国人住民と日本人の言葉やコミュニケーションの障壁をなくし、多様な文化や価値観が相互に理解できるよう、コミュニケーション支援や異文化理解の促進に取り組んできましたが、会話サポートシステムとして構築した「多言語通訳ボランティア登録派遣制度」が効果的に機能していないなど、取組がまだ十分ではないことから、引き続き、コミュニケーション支援に取り組んでいく必要があります。

ます。

#### イ 施策の方向2 在住外国人の生活環境の充実

外国人相談については、5か国語による生活相談や行政書士による専門相談に取り組んできましたが、年々、相談案件が複雑化・高度化する傾向にあることから、「法テラス」など関係機関との連携を一層進めるとともに、複雑な事案に対しては、多文化共生ソーシャルコーディネーター（複雑化する相談案件に対応するため、公共機関や病院などに同行し、相談者の支援を行うため、平成21年度に本市が養成した人）による支援を拡充していく必要があります。

また、外国人住民の防災意識の高揚につながるよう、様々な機会を捉えて情報提供していくとともに、防災訓練などへの積極的な参加を働きかける必要があります。

さらに、外国人住民が生活に必要な情報を簡単に入手できるよう、多言語化に加えて、やさしい日本語による情報の伝達手段を充実する必要があります。

#### ウ 施策の方向3 多文化共生の地域づくり

日本人市民が外国人住民に対して仲間意識を持ち、互いに支えあって暮らすことができる地域社会の実現に向けて取り組んできましたが、外国人住民を身近な存在と感じている日本人市民が少ないことから、日本人住民への意識啓発や外国人住民の地域事業への参加を促進するとともに、キーパーソンとなる地域リーダーの育成を今後とも進めていく必要があります。

#### エ 施策の方向4 多文化共生の仕組みづくり

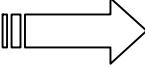
外国人住民の生活や意識に関する調査を定期的実施し、外国人住民の意識等の把握に取り組んできましたが、外国人住民のニーズを把握するまでには至っていないことから、引き続き、外国人住民のニーズの把握に努めるとともに、外国人住民の「生の声」をまちづくりに反映させていく必要があります。

## 基本目標Ⅱ 国際理解・国際協力のための環境づくり

「国際理解の促進」、「国際交流の促進」に取り組んできましたが、成果指標である「日本人と積極的に交流したいと考える在住外国人の割合」（平成 25 年度の目標値：35％）は、平成 25 年度 23.7％と目標値には届きませんでした。

### 【成果指標】

「日本人と積極的に交流したいと考える在住外国人の割合」

H 2 0		H 2 5	H 2 5（目標値）
2 3 . 6 %		2 3 . 7 %	3 5 %

（出典：外国人住民意識調査）

### （1）実績評価

- ・国際理解講座や国際交流イベントに関する取組は、活発に行われていますが、市民の国際化意識の向上のための取組は十分ではありません。
- ・国際交流活動団体に対する支援により、市民活動の活性化が図られていますが、相互の都市の発展につながるような交流には至っていません。
- ・姉妹都市への青少年派遣事業は、新型インフルエンザや東日本大震災などの影響により、事業の中止が相次ぎ、平成 2 4 年ではタルサ市への中学生派遣（2 0 名）のみとなっています。

### （2）現状と課題

#### ア 施策の方向 1 国際理解の促進

国際理解や交流機会の充実に関する取組により、市民の国際理解は進んできていますが、今後さらに、市民が主体的に異なる言葉や文化に関心を持ち、国際理解を深めるため、講演会、研修会等により、市民の国際化意識の向上を図る必要があります。

#### イ 施策の方向 2 国際交流の促進

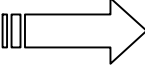
宇都宮市国際交流協会と連携を図ることにより、国際交流活動団体の活動が活性化してきていますが、今後も、市民主体の交流を基本として、相互の都市の発展につながる交流・テーマや目的を持った市民レベルの交流を支援していく必要があります。

## 基本目標Ⅲ 国際化にふさわしい都市機能の整備

「都市環境の充実」、「国際感覚豊かな人材の発掘・支援」等に取り組んできましたが、成果指標である「宇都宮市を暮らしやすいと感じる在住外国人の割合」（平成25年度の目標値：70%）は、平成25年度82.2%と目標値を大きく上回りました。

### 【成果指標】

「宇都宮市を「暮らしやすい」と感じる在住外国人の割合」

H20		H25	H25（目標値）
60.8%		82.2%	70%

（出典：外国人住民意識調査）

### （1）実績評価

- ・各種情報の多言語化については、徐々に浸透してきていますが、国際感覚豊かな人材の発掘・支援に関する取組は十分ではありません。

### （2）現状と課題

#### ア 施策の方向1 都市環境の充実

各課の窓口では、「暮らしの便利帳」や通訳相談員を活用して対応していますが、分かりやすい情報の提供を充実させるため、多言語化に加えて「やさしい日本語」による表記に取り組む必要があります。

#### イ 施策の方向2 国際感覚豊かな人材の発掘・支援

国際感覚豊かな人材の発掘に取り組んでいますが、施策・事業の効果的な展開には結びついていないことから、今後とも発掘に努め、本市の国際化・多文化共生の担い手となるよう、活躍機会の創出に努める必要があります。

#### ウ 施策の方向3 国際協力の推進

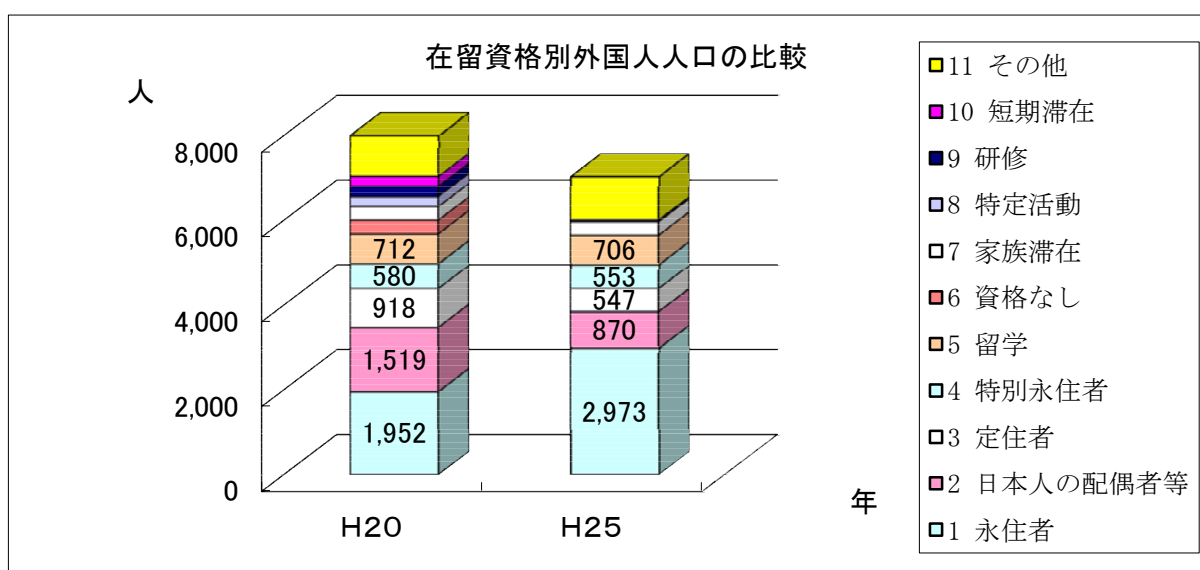
国際的課題の解決にあたっては、可能な範囲で国や国際的関係機関との連携を図っていく必要があります。

## 2 社会変化からの現状と課題

### (1) 本市における外国人住民の定住化傾向

本市に在住する外国人は、平成25年度は約7,000人で、永住者、日本人の配偶者等、定住者など、滞在期間が長期にわたる在留資格を持つ人が約70%を占めています。特に、永住者の在留資格を持つ人は、平成20年度は1,952人でしたが、平成25年度には2,973人となり、5年間で1,000人以上増加しています。

本市としては、これまで以上に、外国人住民と日本人の相互理解を進めるとともに、日本人の市民へ共生社会に対する意識啓発を行う必要があります。



No.	在留資格	H 2 0	H 2 5
1	永住者	1,952	2,973
2	日本人の配偶者等	1,519	870
3	定住者	918	547
4	特別永住者	580	553
5	留学	712	706
6	資格なし	322	0
7	家族滞在	320	315
8	特定活動	240	43
9	研修	238	0
10	短期滞在	232	0
11	その他	1,066	1,016
	合 計	8,099	7,023

## (2) 国・県の動向

国においては、平成18年3月の「多文化共生推進プラン」において、自治体にコミュニケーション支援、生活支援、多文化共生の地域づくり、体制整備を軸に施策を進めることが求められておりますが、平成24年8月の『外国人との共生社会』実現検討会議『中間的整理』において、日本で生活する外国人との共生社会実現に向けた環境整備の推進が打ち出されました。

また、平成24年7月9日より、外国人登録制度を廃止し、中長期在留者を対象に在留カードを発行する「出入国管理及び難民認定法及び日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法の一部を改正する法律等の法律」がスタートしました。さらに、「住民基本台帳法の一部を改正する法律」も同時施行され、日本人と同様に外国人も住民基本台帳法の対象となり、これまで「在住外国人」と表記していた外国人住民に対し、基礎的行政サービスを提供する基盤が整備されました。

県においては、平成23年3月の「新とちぎ国際化推進プラン」においても、「グローバル化社会に対応できる人材の育成」、「多文化共生地域づくりの推進」、「グローバル化社会における地域経済の活性化」が施策の柱として位置づけられました。

本市としては、これらの計画と施策の整合を図り、事業実施に当たり、連携強化を図っていく必要があります。

## (3) 協働化の進展

市民協働のまちづくりを確立するため、行政・地域コミュニティ・市民活動団体・企業などがそれぞれの役割と責任を担い、その責務をより一層明確にし、それぞれとの相互連携が求められています。

本市としては、市民のボランティア活動や市民活動が活発に行われ、各主体が課題を共有し、連携強化を図れるよう、仕組みづくりや活動支援を行う必要があります。

## (4) 経済活動のグローバル化・高度情報化の進展

人・モノ・情報等は国境を越えてグローバル化<sup>1</sup>が進み、海外とのビジネスや交流がより速く、より大きな規模で行われています。また、国境を越えた情報発信・収集は、技術の高度化によって、これまで以上に容易にできるようになっています。

本市としては、企業や市民の活動拠点としての存在感を高めるための情報発信・機能の充実を図って行くことが必要です。

---

<sup>1</sup>グローバル化：「人・モノ・情報」などの移動が国境を越えて地球規模で盛んになり、世界が社会的に縮小すること及び一つの全体としての世界という意識が増大すること。



### (5) 地球規模的課題への対応

社会経済のボーダレス化<sup>2</sup>が進み、国境を越えた様々な問題が生じています。地球温暖化による影響や経済発展に伴う大気汚染問題など、地球規模で顕在化する課題に対し、身近な地域から考えなくてはならない時代を迎えています。

本市としては、国際的な課題解決に寄与できる取組や、国際協力・国際貢献につながる取組を積極的に行う必要があります。

---

<sup>2</sup>ボーダレス化：国や地域の境目がない、またははっきりしない状態

### 3 外国人住民意識調査

#### 《外国人住民意識調査》

今回、計画策定のための基礎資料として、外国人住民へのアンケートを実施し、言葉や生活、近所との付き合い、本市への定住意向などを調査し、外国人住民が抱える問題や支援策に関する課題を整理しました。

##### 【調査実施の概要】

##### 1 調査設計

- ・対象及び件数：市内在住の外国人住民2,500名を無作為抽出し、ルビつきの日本語のほか、出身国にあわせ英語・中国語・ポルトガル語・スペイン語・タイ語・ハンガルの6か国語で実施（市内在住の外国人の35.7%に送付）
- ・実施方法：郵送
- ・実施期間：平成25年5月2日～6月7日

##### 2 調査項目

- （1）基本属性 出身国・性別・年齢・在留資格・生活年数 等
- （2）言語
- （3）宇都宮市での生活について
  - ①情報・相談について ②医療について ③仕事について
  - ④災害について
- （4）地域活動について
  - ①日本人との付き合いについて ②地域活動への参加の有無
- （5）今後の定住意向

##### 3 回収結果

- ・送付内訳：言語別：中国語 1,183件、英語 563件、ハンガール 246件  
スペイン語 74件、ポルトガル語 210件、タイ語 224件、  
男女別：男性 1,250件 女性 1,250件
- ・返戻件数：150件
- ・回収件数：472件（回収率 20.1%）
- ・回収内訳：男性 189件 女性 258件 未記入 25件

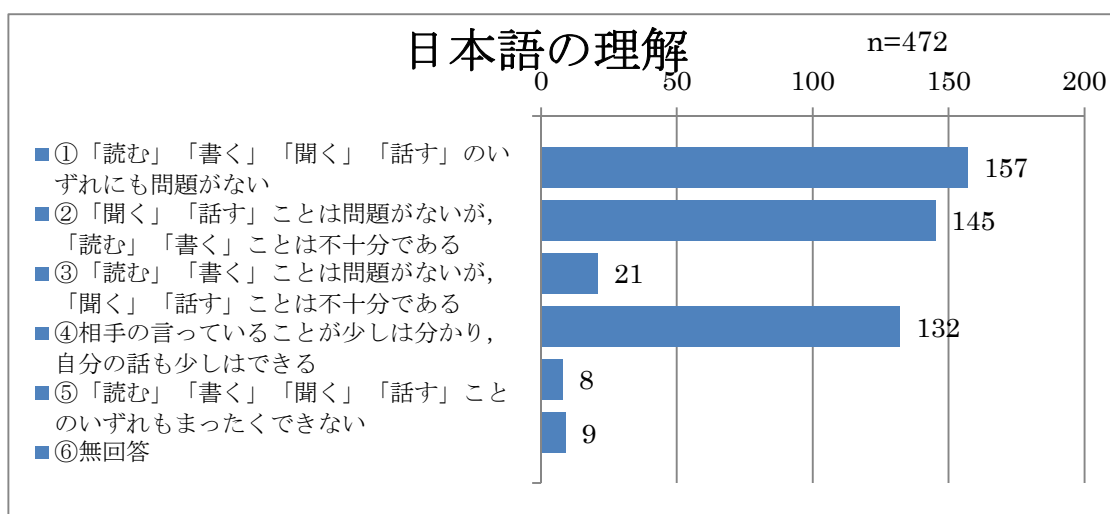
【調査結果の概要と課題】

① 言語について

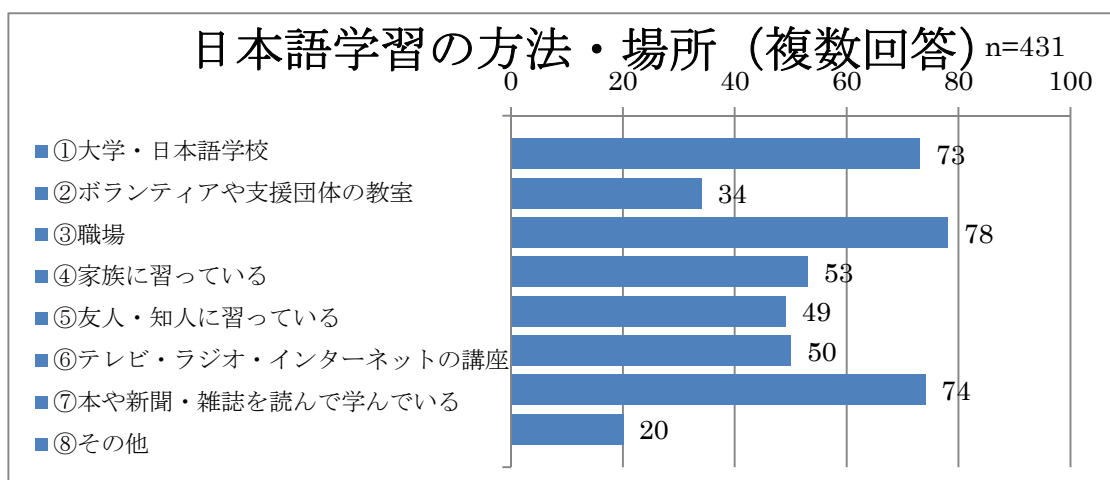
《課題》

- ・外国人住民の日本語学習支援や学習する機会の充実を図る必要があります。

(ア)「日本語を理解できる程度」に関しては、「『読む』『書く』『聞く』『話す』のいずれにも問題がない」と回答した人は 157 人(33.3%)でした。また、「『聞く』『話す』ことは問題がないが、『読む』『書く』ことは不十分」と回答した人は 145 人(30.7%)でした。一方、「相手の言っていることが少しは分かり、自分の話も少しはできる」と回答した人は 132 人(28.0%), 「『読む』『書く』『聞く』『話す』ことのいずれもまったくできない」と回答した人は 8 人(1.7%)でした。



(イ)「日本語学習の方法・場所」に関しては、「職場」「本や新聞・雑誌」「大学・日本語学校」と回答した人が多く、「ボランティアや支援団体の教室」と回答した人は 34 人(7.9%)で最も低い結果となりました。

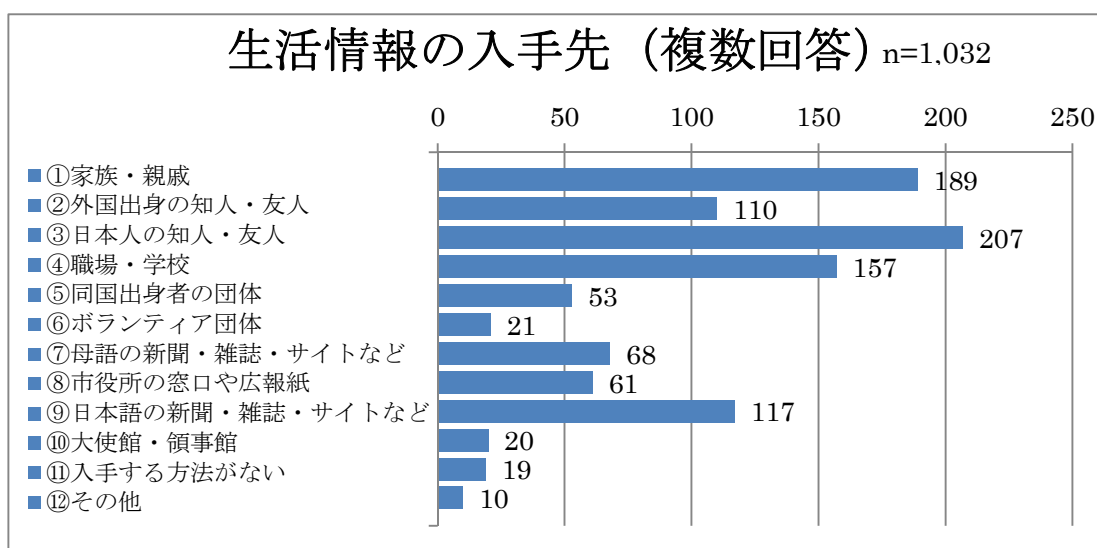


② 情報・相談について

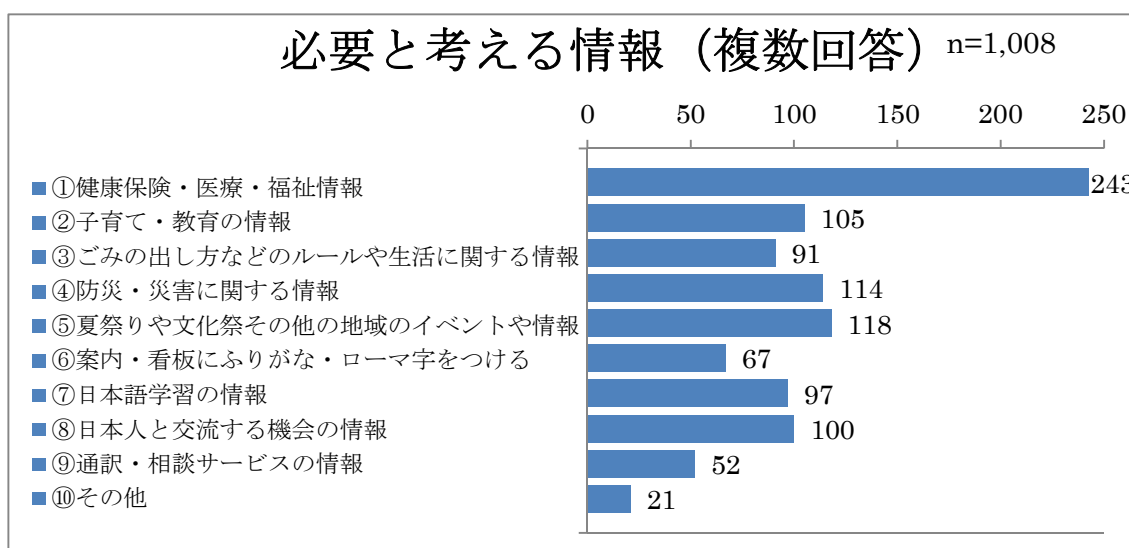
《課題》

- ・ ニーズの高い健康保険・医療・福祉など生活に密接に関連する情報提供の質や量をより充実させる必要があります。
- ・ 暮らしの便利帳などの活用や情報の多言語化により、行政サービスの周知に努める必要があります。

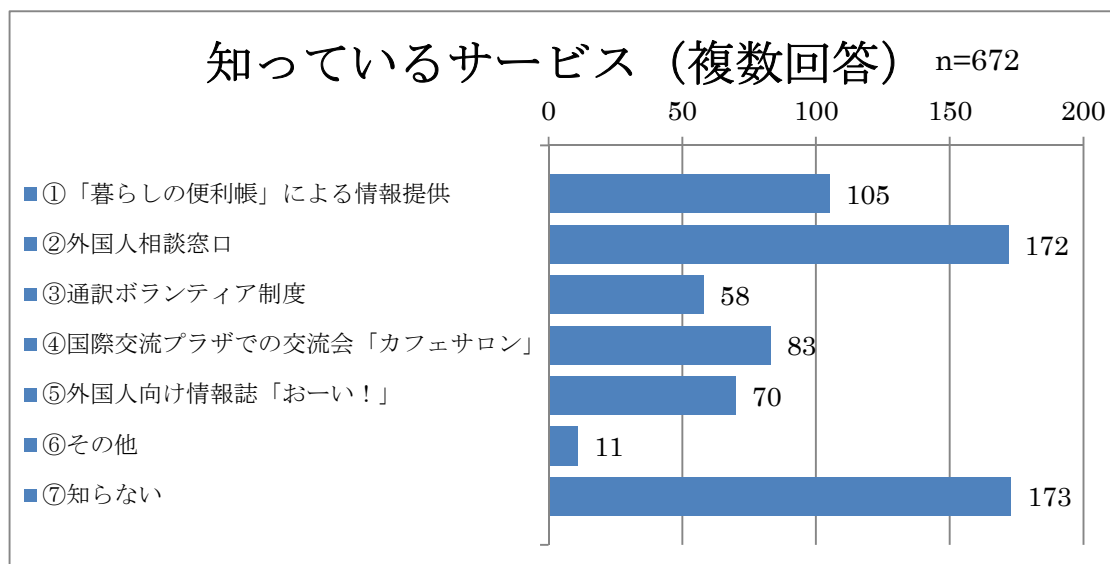
(ア)「生活情報の入手先」に関しては、「日本人の知人・友人」、「家族・親戚」、「職場・学校」など、日常に身近な範囲の回答が特に多い結果となりました。



(イ)「特に必要と考える情報」に関しては、「健康保険・医療・福祉の情報」が重要であると回答した人が243人(24.1%)で最も多く、次いで「夏祭りなどの地域のイベントや情報」が118人(11.7%)、「防災・災害に関する情報」が114人(11.3%)、「子育て・教育の情報」が105人(10.4%)で、同程度に必要という結果になりました。



(ウ)「あなたの知っている宇都宮市の行政サービス」に関しては、「外国人相談窓口」と回答した人が172人(25.6%)と最も多く、次いで「『暮らしの便利帳』による情報提供」と回答した人が105人(15.6%)という結果になりました。一方、「知らない」と回答した人は173人(25.8%)に上りました。

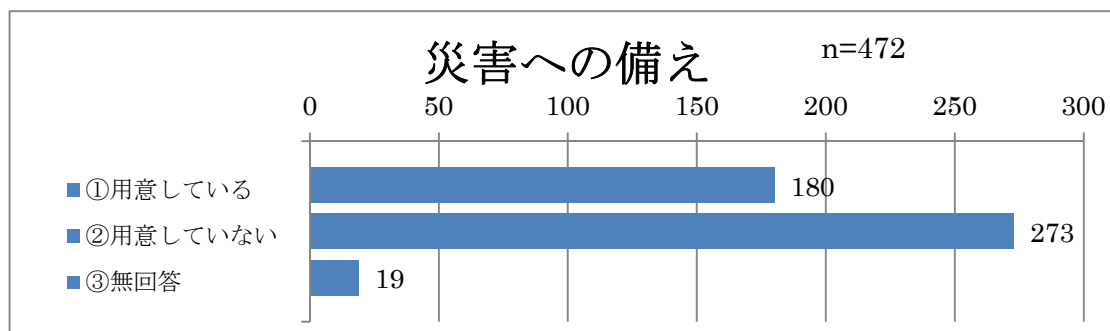


### ③ 災害について

#### 《課題》

- ・ 防災情報の提供や防災訓練への参加を促すことにより、防災意識を高めていくことが必要です。

「災害への備え」については、273人(57.9%)が「用意していない」と回答しました。



④ 日本人との交流について

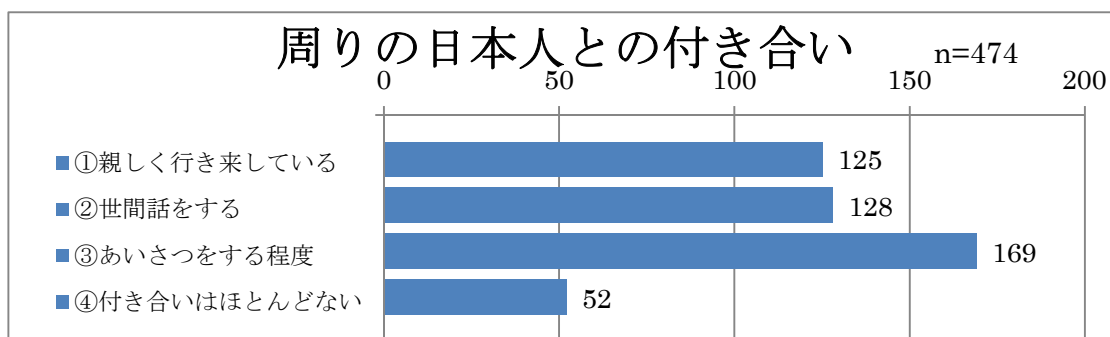
《課題》

- ・地域イベントやボランティア活動への参加など，日本人と交流する機会の設定や参加を促進する取組が必要です。

※相互理解や日本人との交流のきっかけとして，母語や日本語を教えあうボランティア活動は有効と考えられます。

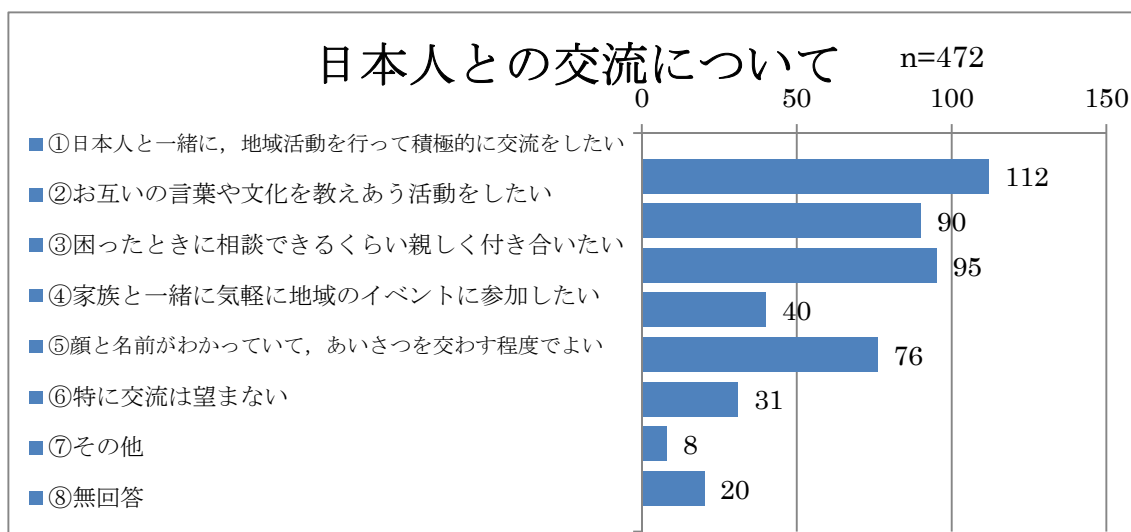
(ア) 周りの日本人との付き合いについて

「日ごろの日本人との付き合い」については、「あいさつをする程度」が169人(35.6%)，「世間話をする」が128人(27.0%)，「付き合いはほとんどない」が52人(11.0%)で，「親しく行き来している」は125人(26.4%)でした。



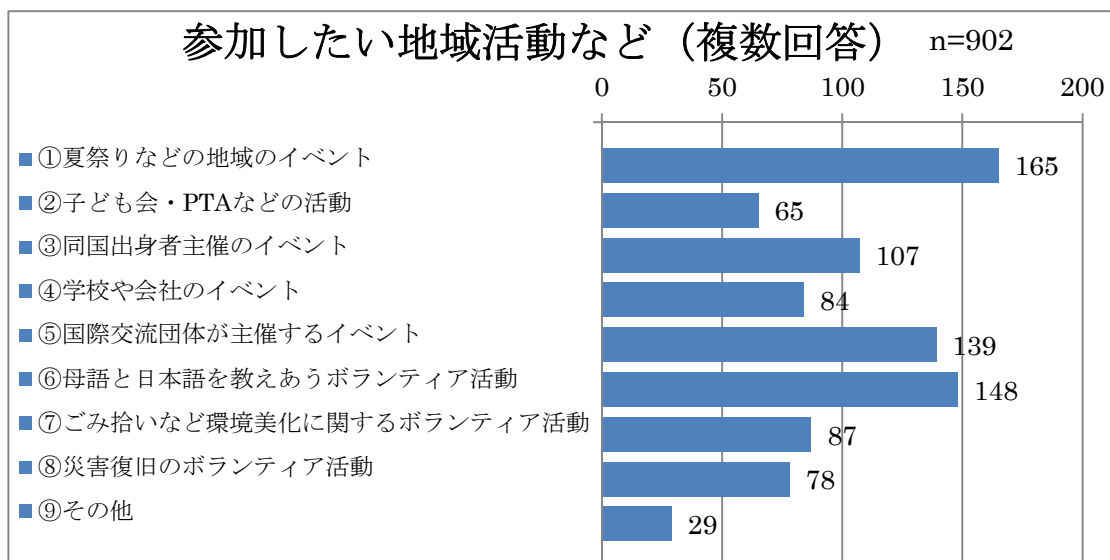
(イ) 日本人との交流意向について

「日本人との交流」については、「日本人と一緒に，地域活動を行って積極的に交流をしたい」が112人(23.7%)，「困ったときに相談できるくらい親しく付き合いたい」が95人(20.1%)，「お互いの言葉や文化を教えあう活動をしたい」が90人(19.1%)で，「特に交流は望まない」は31人(6.6%)でした。



(ウ) 参加してみたい活動について

「参加したい活動」については、「夏祭りなどの地域イベント」が165人(18.3%)、「母語と日本語を教えあうボランティア活動」が148人(16.4%)、「国際交流団体が主催するイベント」が139人(15.4%)、「同国出身者主催のイベント」が107人(11.9%)でした。



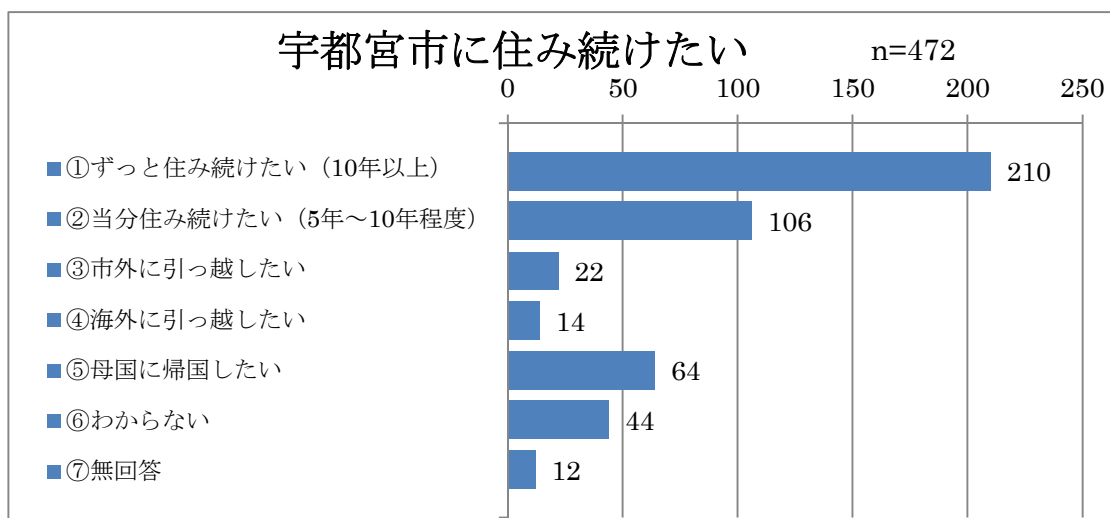
⑤ 今後の定住意向について

《課題》

- ・今後の定住意向が強いことから、日本人住民と同様の行政サービスを提供する取組の充実が必要です。

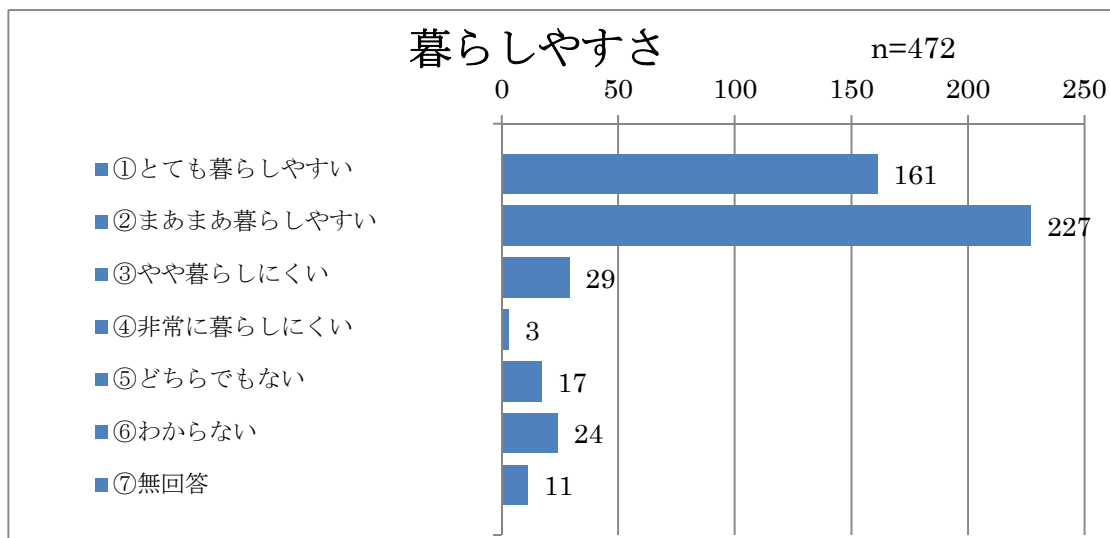
(ア) 宇都宮市に住み続けたいか

「今後の本市での在住予定」については、「ずっと住み続けたい（10年以上）」が210人(44.5%)、「当分住み続けたい（5年～10年）」が106人(22.4%)でした。



(イ) 暮らしやすさについて

「暮らしやすさ」については、「まあまあ暮らしやすい」が227人(48.1%),「とても暮らしやすい」が161人(34.1%),「やや暮らしにくい」が29人(6.2%)でした。





## 4 課題のまとめ

国・県の計画を踏まえ、現行計画の評価、社会変化、外国人市民意識調査の3つの観点から課題を整理しました。

### (1) 誰もが暮らしやすい多文化共生の地域づくり

#### ア 相互理解の促進

- ・ 日本人住民への意識啓発の拡充が必要です。
- ・ 外国人住民の定住化傾向の進行に伴い、一層の相互理解の促進が必要です。

#### イ 外国人住民の生活環境の充実

- ・ 「法テラス」など関係機関との連携強化など、外国人相談の一層の充実が必要です。
- ・ 複雑な事案については、多文化共生ソーシャルコーディネーターによる支援につなげていくことが必要です。
- ・ 外国人住民の防災意識を高めていくことが必要です。
- ・ 日本語学習の支援を引き続き継続していくことが必要です。
- ・ 生活に密着した情報の質や量の充実と情報の多言語化とやさしい日本語の普及を進めることが必要です。
- ・ 通訳ボランティア制度など、コミュニケーション支援の一層の充実が必要です。

#### ウ 多文化共生の地域社会づくり

- ・ 地域における日本人住民及び外国人住民双方への意識啓発の拡充が必要です。
- ・ 外国人住民の地域活動への参加を促進することが必要です。
- ・ 地域において多文化共生の必要性を認識し、主体的に取り組むリーダーとなる人材が必要です。
- ・ 外国人住民を支援する活動に取り組む団体等と課題を共有し、連携を図っていくことが必要です。

#### エ 多文化共生の仕組みづくり

- ・ 外国人住民からの定期的な意見聴取とニーズ把握に努めることが必要です。

### (2) 国際理解・国際交流のための環境づくり

#### ア 国際理解のための相互交流機会の充実

- ・ 市民が国際感覚を養い、異文化理解のきっかけとなる機会を充実させることが必要です。

- ・ 言葉や文化が異なる人とコミュニケーションを図ることができるよう、国際理解教育の機会を充実させることが必要です。

**イ 海外都市との互恵性のある交流の進展**

- ・ 特定のテーマごとの互恵性ある都市交流を進展させることが必要です。

**ウ 国際理解・国際交流に関わる市民活動の支援**

- ・ 国際理解，国際交流活動団体等に対する活動環境の活性化に向けた効果的な支援策が必要です。
- ・ 本市を拠点として，海外との様々な活動を行う市民や団体・企業に対する適切な支援を行うことが必要です。

**エ 市民・行政・企業・ボランティア団体などの各主体の課題の共有・連携**

- ・ 外国人と日本人の相互理解の促進や幅広い分野における国際交流の活性化のため，関係する各主体が課題を共有し，連携を強化することが必要です。

**(3) 国際化にふさわしい都市機能の充実**

**ア 分かりやすい情報提供の充実**

- ・ 分かりやすい情報の提供を充実させるため，多言語化に加えて「やさしい日本語」による表記に取り組むことが必要です。

**イ 国際化社会に対応できる人材の育成**

- ・ 国際交流活動や多文化共生の核となる人材を育成するための取組が必要です。
- ・ 国際感覚豊かな人材の発掘及び活躍の機会を創出することが必要です。

**ウ 国際的な課題解決への取組**

- ・ 環境問題や平和など，国境を越えて取り組むべき課題への対応が必要です。
- ・ 国際協力に関する政府系関係機関と連携した取組が必要です。

## 第3章 計画の基本的な考え方

### 第3章 計画の基本的な考え方

## 1 基本理念

本市の国際化を進めるためには、外国人住民と日本人の意識の隔たりを取り除き、言葉、文化、価値観の違いを認め合って、互いに理解・協力し合いながら、対話・交流が行われ、外国人住民も地域の一員として活躍し、安心して生活できる多文化共生の地域社会を実現していく必要があります。

また、グローバル化が進む中で、市民主体の国際交流、国際協力が活発に行われ、人・モノ・情報が活発に行きかう都市となるためには、利便性の高い都市環境や国際感覚豊かな人材など、国際化にふさわしい機能を備えた都市を実現していく必要があります。

そこで、本計画では、現計画の基本理念を引き継ぐこととし、

### 「多文化共生の地域社会と世界を視野に入れた国際都市の実現」

を基本理念として掲げます。

## 2 基本目標

本市が目指す国際化の推進のための3つの基本目標を掲げます。

### 基本目標Ⅰ 誰もが暮らしやすい多文化共生の地域づくり

#### 【基本目標が達成された姿】

言葉や生活習慣、文化の違いを超えて相互に理解しあい、誰もが生活者、地域の一人として幸せに暮らせる多文化共生のまちが形成されています。

### 基本目標Ⅱ 国際理解・国際交流のための環境づくり

#### 【基本目標が達成された姿】

民間団体・地域・市民が主体的かつ積極的に外国人住民・海外と交流し、国際理解・国際交流活動が活発に進んでいます。

### 基本目標Ⅲ 国際化にふさわしい都市機能の充実

#### 【基本目標が達成された姿】

国際都市としてのハード・ソフトが整い、まちづくりを担う人材があらゆる分野で活躍しているまちが実現しています。

### 3 施策の体系

【基本目標】

I 誰もが暮らしやすい多文化共生の地域づくり

【施策の方向】

1 相互理解の促進

2 外国人住民の生活環境の充実

3 多文化共生の地域社会づくり

4 多文化共生の仕組みづくり

【取り組むべき施策】	No. 【主要な事業】
1 多文化共生意識の醸成	1 ・広報・普及啓発活動の充実 ☆は新規拡充事業, 網掛けは重点事業
2 異文化理解の促進	2 ・異文化理解講座の充実
1 外国人住民の生活支援	3 ・生活オリエンテーションの充実 4 ・相談体制の充実 5 ・ソーシャルコーディネーターによる支援 6 ・外国人向け災害対策の充実 7 ・外国人の居場所の充実 8 ・コミュニケーション支援の充実
2 情報提供の充実	9 ・情報手段の充実 10 ☆やさしい日本語の普及
3 日本語学習支援	11 ・外国人児童生徒日本語指導事業 12 ・日本語学習ボランティア育成事業
1 多文化共生に関する意識啓発	13 ・多文化共生に関する意識啓発の充実
2 地域社会への参加促進	14 ☆地域団体, ボランティア等との連携・支援 15 ・地域事業への参加促進 16 ・地域リーダーの育成・支援
1 外国人住民の意見反映の仕組みづくり	17 ・外国人住民意識調査の定期的実施 18 ・外国人住民意見交換会の実施 19 ・留学生等との意見交換
2 関係機関との連携	20 ・国県等の関係機関との連携 21 ・教育機関との連携

【基本目標】

Ⅱ 国際理解・国際交流のための環境づくり

【施策の方向】

1 国際理解の促進

2 国際交流の促進

Ⅲ 国際化にふさわしい都市機能の充実

1 都市環境の充実

2 国際化社会に対応できる人材の育成

3 国際協力の推進



【取り組むべき施策】	No. 【主要な事業】
1 国際感覚の醸成	22 ・国際理解に関する講座の充実
	23 ・国際理解に関する意識啓発の推進
2 交流機会の充実	24 ・イベントの充実
3 国際理解教育の推進	25 ・学校等での国際理解教育の推進
1 互恵性ある国際交流の促進	26 ・姉妹都市との交流
	27 ・テーマを持った交流の促進
2 国際交流活動の支援	28 ・ボランティア活動の支援
	29 ・海外で活躍する市民との連携
3 国際交流活動団体の支援	30 ・中核団体の支援
	31 ・民間団体の支援
4 民間団体の連携促進	32 ・ボランティア、NPO、NGO等団体のネットワーク形成促進
1 分かりやすい情報提供の充実	33 ・分かりやすいサイン・表記の推進
	34 ・各種情報の多言語化の推進
	35 ・善意通訳者団体との連携
2 都市の魅力の発信	36 ・コンベンションの誘致
	37 ・海外への情報発信の充実
1 国際感覚豊かな人材の発掘・支援	38 ・国際経験・語学能力を有する人材の発掘・支援
	39 ☆国際感覚豊かな人材が活躍できる機会の充実
2 国際化時代を担う人材の育成	40 ・海外への派遣研修の実施
	41 ☆国際感覚を持ち、世界的な視野で活躍できる人材の育成
1 国際的課題への取組の充実	42 ・政府系機関・国際機関との連携
2 国際社会への貢献	43 ・国際協力団体への支援・協力

## 4 目標値の設定

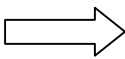
### (1) 目標値設定の考え方

基本目標ごとに成果指標を設定し、施策の方向単位ごとに活動指標を設定します。  
基本目標の実現のため、達成度及び進捗の度合いを確認します。

### (2) 基本目標ごとの成果指標及び活動指標

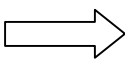
#### ア 基本目標Ⅰ

《成果指標》 「多文化共生の推進が重要である」と考える市民の割合

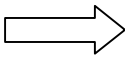
現状値 (H25)		目標値 (H30)
60.2%		70%

《活動指標》

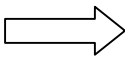
施策の方向1 異文化理解講座の参加者数

現状値 (H24)		目標値 (H30)
277名		330名

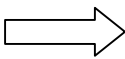
施策の方向2 外国人相談窓口の認知度

現状値 (H25)		目標値 (H30)
36.4%		50%

施策の方向3 日本人と親しく行き来している外国人住民の割合

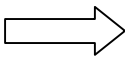
現状値 (H25)		目標値 (H30)
26.4%		30%

施策の方向4 外国人住民や留学生との意見交換の実施回数

現状値 (H24)		目標値 (H30)
1回		4回

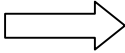
#### イ 基本目標Ⅱ

《成果指標》 「日本人と積極的に交流したい」と考える外国人住民の割合

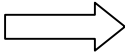
現状値 (H25)		目標値 (H30)
23.7%		30%

《活動指標》

施策の方向1 国際理解講座の開催主催者数

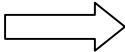
現状値 (H24)		目標値 (H30)
10団体		20団体

施策の方向2 市内の国際交流活動団体数

現状値 (H24)		目標値 (H30)
71団体		75団体

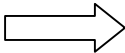
ウ 基本目標Ⅲ

《成果指標》 「宇都宮市が暮らしやすい」と感じる外国人住民の割合

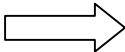
現状値 (H25)		目標値 (H30)
82.2%		85%

《活動指標》

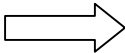
施策の方向1 ①多言語を用いた行政情報・表示の種類

現状値 (H24)		目標値 (H30)
27種類		35種類

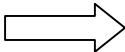
②「やさしい日本語」を用いた行政情報の種類

現状値 (H24)		目標値 (H30)
—		10種類

施策の方向2 国際理解講座の講師数

現状値 (H24)		目標値 (H30)
32人		50人

施策の方向3 市内の国際協力ボランティア団体数

現状値 (H24)		目標値 (H30)
22団体		25団体

## 5 重点事業

### (1) 重点事業設定の考え方

- ア 多文化共生の地域社会の実現に向け、引き続き取り組むことが必要な事業
- イ 国際理解の促進や市民主体の国際交流の推進に寄与する事業
- ウ 国際感覚豊かな人材が活躍している都市の実現に寄与する事業

### (2) 重点事業の設定(☆は新規拡充事業)

上記「重点事業設定の考え方」に基づき、重点事業を設定するとともに、「多文化共生社会の実現に向けた取組」と「国際化に対応した人づくり」に資する事業で、これまでの取組において不足していた点を補うため、「やさしい日本語の普及」、「地域団体、ボランティア等との連携・支援」、「国際感覚豊かな人材が活躍できる機会の充実」、「国際感覚を持ち、世界的な視野で活躍できる人材の育成」の4つの事業を「新規拡充事業」として、新たに計上します。

#### 【基本目標】Ⅰ 誰もが暮らしやすい多文化共生の地域づくり

No.	施策・事業
2	異文化理解講座の充実
4	相談体制の充実
6	外国人向け災害対策の充実
10	☆やさしい日本語の普及
13	多文化共生に関する意識啓発の充実
14	☆地域団体、ボランティア等との連携・支援
15	地域事業への参加促進
16	地域リーダーの育成・支援
18	外国人住民意見交換会の実施

#### 【基本目標】Ⅱ 国際理解・国際交流のための環境づくり

No.	施策・事業
22	国際理解に関する講座の充実
29	海外で活躍する市民との連携

## 【基本目標】Ⅲ 国際化にふさわしい都市機能の充実

No.	施策・事業
34	各種情報の多言語化の推進
39	☆国際感覚豊かな人材が活躍できる機会の充実
41	☆国際感覚を持ち、世界的な視野で活躍できる人材の育成

## 6 多様な主体に期待される役割

国際化に関する施策の推進に当たっては、各主体が役割と責任のもと、互いに連携を深め、協働で取り組むことが基本であり、かつ、最も大切です。それぞれの主体には、次のような役割を担うことが期待されます。

### (1) 市民の役割

- ・ 国際化、国際交流に関する主体としての取組
- ・ 異なる言葉や文化への理解、多文化共生の地域社会づくりへの参加・協力

### (2) 民間団体等の役割

#### ア 活動団体・ボランティア

- ・ それぞれの特色を生かした国際化、国際交流に関する事業の実施
- ・ 外国人住民へのきめ細かな自立化支援・生活支援
- ・ 外国人住民との共生・融和

#### イ 教育機関の役割

- ・ 外国語教育や国際理解教育の推進
- ・ 人的・知的資源や研究を通じた地域との交流

#### ウ 企業の役割

- ・ 外国人従業員の雇用に当たっての就業・生活環境等の整備
- ・ 国際交流・国際協力活動への支援・協力

### (3) 中核的団体としての特定非営利活動法人宇都宮市国際交流協会の役割

- ・ 市内の民間国際交流団体の先導となり、行政との橋渡し役を担う中核的団体としての機能発揮、団体間の調整
- ・ ノウハウやネットワークを活用した国際化・多文化共生に関する先駆的な事業実施

#### (4) 行政の役割

##### ア 国の役割

- ・ 外国人政策に関わる基本的考え方の提示
- ・ 各種制度見直し，法制度の整備 等

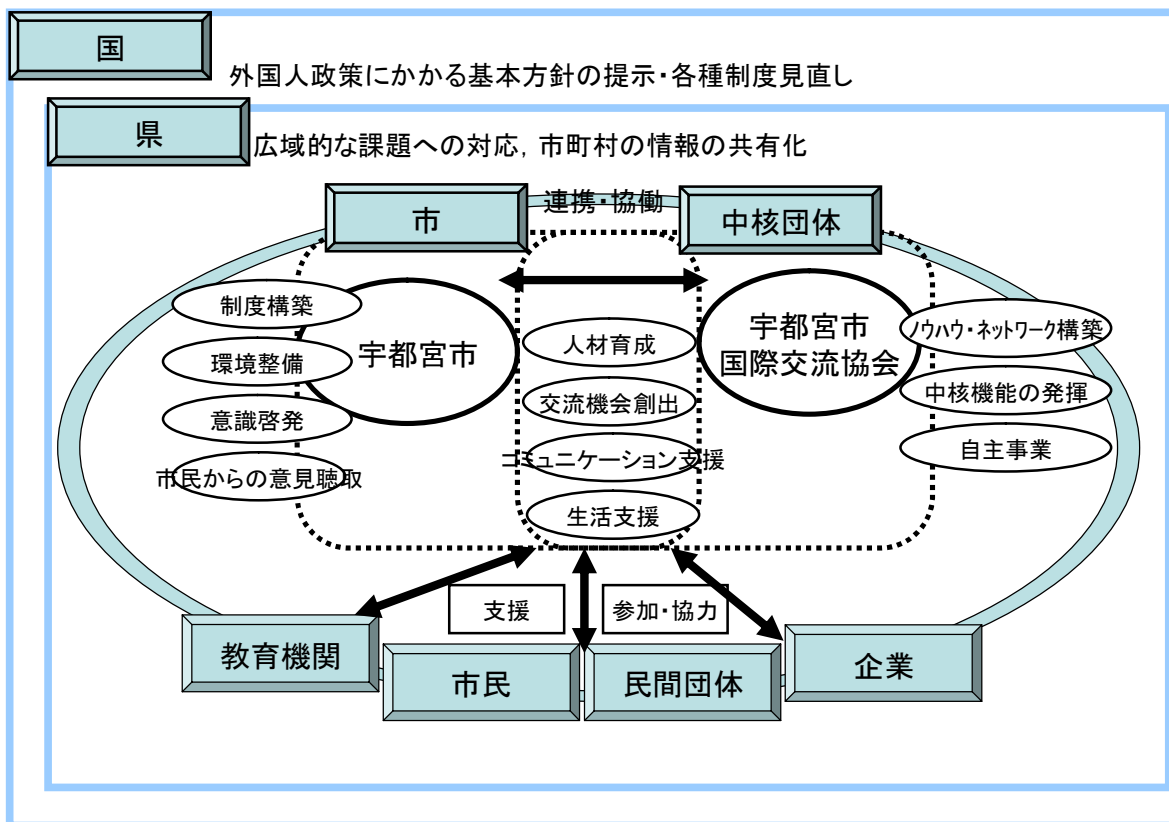
##### イ 県の役割

- ・ 市町村の境界を越えた広域的な課題への対応
- ・ 市町村情報の共有化・関係機関相互の総合調整 等

##### ウ 市の役割

- ・ 国際化推進にかかる施策・事業などの企画立案及び実施
- ・ 民間団体への支援，調整
- ・ 姉妹・文化友好都市との連携
- ・ 市民等への国際化意識の啓発，人材育成
- ・ 関係機関・民間団体等とのコーディネート

(参考) 関連イメージ図



## 第4章 施策の展開

## 第4章 施策の展開



## 基本目標Ⅰ 誰もが暮らしやすい多文化共生の地域づくり

### ○基本目標が達成された姿

言葉や生活習慣、文化の違いを超えて相互に理解しあい、誰もが生活者、地域の一人として幸せに暮らせる多文化共生のまちが形成されています。

### ○施策の基本方向

現在、本市では約7,000人の外国人住民が生活しており、かつ、在住も長期化が顕著になり、生活上のトラブルや教育問題（例：ゴミの分別が不十分であることから生じるゴミステーションの利用におけるトラブルや学齢期に達している児童生徒の未就学や学校側の受け入れ態勢が追いついていないことなど）などが顕在化し、これまで以上に多文化共生の地域づくりが重要となっています。

そのため、言葉や生活習慣、文化の違いを超えて相互に理解するための「相互理解の促進」、本市で安心・安全に生活するための「外国人住民の生活環境の充実」、互いの文化理解や地域活動参加を促進するための「多文化共生の地域社会づくり」、外国人住民のまちづくりへの参加を促進するための「多文化共生の仕組みづくり」に取り組んでいきます。

### ○成果指標

言葉や生活習慣、文化の違いを超えて相互に理解しあい、誰もが安心して暮らすことのできる地域社会づくりの重要性の度合いを示す『多文化共生の推進』が重要であると考えられる市民の割合」を指標として設定します。

指 標	現状値 (H25)	H27	H30	出 典
「多文化共生の推進が重要である」と考える市民の割合	60.2%	65%	70%	市民意識調査

## 施策の方向1 相互理解の促進

多文化共生社会を実現するため、言葉や生活習慣、文化の違いを超えて相互に理解できるよう、多文化共生意識の醸成や、異文化理解の促進を図ります。

(活動指標)

日本人と外国人住民の相互理解を促進し、多文化共生意識を醸成する機会となる「異文化理解講座の参加者数」を指標として設定します。

指標	現状値 (H24)	H27	H30	出典
異文化理解講座の参加者数	277名	300名	330名	国際交流プラザ調べ

### 取り組むべき施策1 多文化共生意識の醸成

多文化共生についての理解を深め、意識の高揚を図るため、広報紙やリーフレットによる情報提供などを通して、広報・普及啓発活動に取り組みます。

(主要な事業)

No.	主要な事業（網掛けは重点事業）	事業の概要	推進状況
1	広報・普及啓発活動の充実	リーフレットによる情報提供等により、多文化共生に関する広報・普及啓発活動を充実します。	継続

### 取り組むべき施策2 異文化理解の促進

外国人住民の日本の生活習慣や文化への理解を促進するとともに、日本人に対しても、異なる文化や言語を持つ市民と共に生活していく必要性の周知・啓発を進めます。

(主要な事業)

No.	主要な事業（網掛けは重点事業）	事業の概要	推進状況
2	異文化理解講座の充実	日本人が外国人を理解し、外国人が日本人を理解するための異文化理解講座を実施します。	継続

## 施策の方向2 外国人住民の生活環境の充実

外国人住民が生活上の悩みを解消し、多くの情報を入手することができ、また生活に必要な日本語を学びながら、本市で安心して暮らすことができるよう、生活支援の充実や情報提供、日本語学習の支援を行います。

### (活動指標)

外国人住民が生活していく上での不安や悩みが解消・軽減し、多くの外国人住民が気軽に利用できる相談窓口となるよう、「外国人相談窓口の認知度」を指標として設定します。

指 標	現状値 (H25)	H27	H30	出 典
外国人相談窓口の認知度	36.4%	40%	50%	外国人住民意識調査

## 取り組むべき施策1 外国人住民の生活支援

外国人住民を対象として、多言語による相談窓口や多文化共生ソーシャルコーディネーターによる支援など、相談機能を充実します。また、転入者向けのオリエンテーション事業を充実させ、日本の生活理解や、交流のきっかけづくりとともに、外国人住民の防災対策に取り組みます。

### (主要な事業)

No.	主要な事業（網掛けは重点事業）	事業の概要	推進状況
3	生活オリエンテーションの充実	転入者向けの生活ガイド・案内を充実させるとともに、学校や企業が実施しているオリエンテーション事業を支援します。	継続
4	相談体制の充実	多言語での相談体制、内容を充実するとともに、関係機関や専門家との連携を図ります。	継続
5	ソーシャルコーディネーターによる支援	外国人相談事案のうち、関係者が複数に及び、窓口だけの解決が難しい事案に対して、同行通訳や関係者への助言等、個別に支援します。	継続

No.	主要な事業（網掛けは重点事業）	事業の概要	推進状況
6	外国人向け災害対策の充実	様々な機会を通し、適切な情報提供や防災活動への参加の促進を図ります。	継続
7	外国人の居場所の充実	外国人住民が社会の中で孤立することがないように、拠点施設である国際交流プラザ内において交流や仲間づくりができる機会を充実します。	継続
8	コミュニケーション支援の充実	日常生活の様々な場面で、外国人住民と日本人住民との対話の機会を増やすため、コミュニケーションツールの充実や多言語の通訳ボランティアの登録・派遣を行います。	継続

## 取り組むべき施策2 情報提供の充実

外国人住民が生活に必要な情報を簡単に入手し、生活の利便性が向上するようにするため、多言語による情報の伝達手段の充実に努めます。

（主要な事業）

No.	主要な事業（網掛けは重点事業）	事業の概要	推進状況
9	情報手段の充実	暮らしの便利帳やニュースレターなど、外国人住民向けの情報手段の充実、相談のマニュアル化など、よりきめ細かな行政等の情報提供に取り組みます。	継続
10	☆やさしい日本語の普及	外国人住民への行政、生活情報の提供の手段として、「やさしい日本語」の導入、普及に努めます。	新規

### 取り組むべき施策3 日本語学習支援

外国人住民と日本人との交流を深め、地域社会の一員として安心して生活できるよう、児童生徒への日本語指導や日本語を教えるボランティアの育成、外国人住民の日本語学習への支援を行います。

(主要な事業)

No.	主要な事業（網掛けは重点事業）	事業の概要	推進状況
1 1	外国人児童生徒日本語指導事業	日本語学習に支援が必要な児童生徒に対し、母国語による指導や日本語学習への支援を行います。	継続
1 2	日本語学習ボランティア育成事業	外国人住民への日本語学習を支援することができるボランティアを育成し、活動を支援します。	継続

## 施策の方向3 多文化共生の地域社会づくり

日本人の市民が外国人住民に対して仲間意識を持ち、互いに支えあって暮らすことのできる地域社会の実現を目指すことができるよう、多文化共生に関する意識啓発に取り組むとともに、外国人住民の地域活動への参加を促進します。

### (活動指標)

多くの外国人住民が地域社会で日本人と交流し、相互理解に基づき地域の一員として生活できるよう、近隣の日本人と「親しく行き来している外国人住民の割合」を指標として設定します。

指標	現状値 (H25)	H27	H30	出典
日本人と親しく行き来している外国人住民の割合	26.4%	28%	30%	外国人住民意識調査

## 取り組むべき施策1 多文化共生に関する意識啓発

多文化共生社会への理解を深めるため、地域・企業・学校など身近な地域において、積極的な広報・啓発活動を充実するとともに、日本人が、外国人住民とともに地域をつくるという考えを持ち、積極的な対話や交流ができるよう、多文化共生意識の啓発に努めます。

### (主要な事業)

No.	主要な事業（網掛けは重点事業）	事業の概要	推進状況
13	多文化共生に関する意識啓発の充実	地域、企業、学校等に対し、出前講座などを実施し、地域社会における多文化共生の重要性についての啓発活動を充実します。	継続

## 取り組むべき施策2 地域社会への参加促進

多文化共生社会の形成に当たっては、最も身近な地域において、外国人住民と日本人が言葉や生活習慣の違いを超えて相互に理解しあいながら、共生できる環境を整備することが最も大切です。地域団体・ボランティア等との連携・支援、外国人住民の地域事業への参画促進、キーパーソンとなる地域リーダーの育成に取り組みます。

(主要な事業)

No.	主要な事業（網掛けは重点事業）	事業の概要	推進状況
14	☆地域団体・ボランティア等との連携・支援	身近な地域において、外国人住民との交流機会を拡充するため、自治会や支援ボランティア団体等と連携するとともに、その活動を支援します。	拡充
15	地域事業への参加促進	外国人住民の地域事業への参加促進を図り、地域住民との交流を深めます。	継続
16	地域リーダーの育成・支援	地域内の相互理解や地域活動への参画を促進するため、キーパーソンとなる人を育成・支援します。	継続

## 施策の方向4 多文化共生の仕組みづくり

多文化共生のまちづくりを推進する仕組みとして、外国人住民のまちづくりへの意見反映の仕組みづくりや、国や県、教育機関や団体との連携を図りながら課題の解決に取り組みます。

### (活動指標)

増加・定住化が進む外国人が生活していく上でのニーズを把握しまちづくりに生かしていくことが重要であることから、「外国人住民や留学生との意見交換の実施回数」を指標として設定します。

指 標	現状値 (H24)	H27	H30	出 典
外国人住民や留学生との意見交換の実施回数	1回	2回	4回	国際交流プラザ調べ

## 取り組むべき施策1 外国人住民の意見反映の仕組みづくり

外国人住民のニーズ把握や、海外経験や国際的な視点から意見を反映させるため、外国人住民の生活や意識に関する調査や、意見交換会の実施により、「生の声」をまちづくりに反映できる仕組みを構築します。

### (主要な事業)

No.	主要な事業（網掛けは重点事業）	事業の概要	推進状況
17	外国人住民意識調査の定期的実施	外国人住民の意識等を把握するため、計画期間の中間年次に調査を実施し、事業の実施に役立てます。	継続
18	外国人住民意見交換会の実施	外国人住民との意見交換を実施し、多文化共生のまちづくりに反映させていきます。	継続
19	留学生等との意見交換	優れたスキルや勉学意識を持った海外からの留学生等との意見交換を実施し、国際化のまちづくりに反映させていきます。	継続



## 取り組むべき施策2 関係機関との連携

外国人住民に関わる課題や施策については、法や制度の見直しにより、社会の仕組みが大きく変わる可能性があります。こうしたことから、国や県などの関係機関や共通する課題を持つ都市、研究機能を有する教育機関との連携を図り、課題の解決に取り組みます。

### (主要な事業)

No.	主要な事業（網掛けは重点事業）	事業の概要	推進状況
20	国県等の関係機関との連携	外国人住民の多様化する課題やニーズに対応するため、国や県などの関係機関との連携の仕組みを検討します。	継続
21	教育機関との連携	各種事業において宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター <sup>3</sup> や大学などの高等教育機関との連携を図ります。	継続

<sup>3</sup>多文化公共圏センター（CMPS：Center for the Multicultural Public Sphere）：多文化公共圏の理論的・実証的研究，地域貢献・連携，国内外との国際交流ネットワークの促進等の教育研究活動を推進することを目的として平成20年度、宇都宮大学国際学部開設された研究機関

## 基本目標Ⅱ 国際理解・国際交流のための環境づくり

### ○基本目標が達成された姿

民間・地域・市民が主体的かつ積極的に外国人住民・海外と交流し、国際理解・国際交流活動が活発に進んでいます。

### ○施策の基本方向

グローバル化が進み、多くの市民が海外を身近に感じ、旅行、訪問、ビジネス等も容易になる中、これまで以上に海外への理解や交流を深めていくことが求められています。

そのため、国際感覚を養い、交流機会の拡大を図る「国際理解の促進」、姉妹都市交流や互恵性ある都市交流を促進し、交流活動団体を支援する「国際交流の促進」に取り組んでいきます。

### ○成果指標

国際理解・国際交流の成果として、「『日本人と積極的に交流したい』と考える外国人住民の割合」を指標として設定します。

指 標	現状値 (H25)	H27	H30	出 典
「日本人と積極的に交流したい」と考える外国人住民の割合	23.7%	25%	30%	外国人住民意識調査

## 施策の方向1 国際理解の促進

日本人の国際感覚を養い、国際交流活動への参画を促進するため、国際感覚の醸成、交流機会の充実、国際理解教育を推進します。

(活動指標)

市民が主体的に異なる言葉や文化に関心を持ち、理解を深めるための機会の拡充の成果を示す「国際理解講座の開催主催者数」を指標として設定します。

指 標	現状値 (H24)	H27	H30	出 典
国際理解講座の開催主催者数	10団体	15団体	20団体	国際交流プラザ調べ

### 取り組むべき施策1 国際感覚の醸成

市民が世界情勢に関心を持ち、外国人住民や海外都市の市民に対して、言葉や文化の違いによる先入観を持つことなく接することができるよう、各種講座等による国際感覚の醸成を図るとともに、市民や職員への意識啓発に取り組みます。

(主要な事業)

No.	主要な事業（網掛けは重点事業）	事業の概要	推進状況
22	国際理解に関する講座の充実	市民の海外への関心を高め、活動への参画を図るため、多様な文化や価値観を学ぶための各種講座等を実施します。	継続
23	国際理解に関する意識啓発の推進	市民や職員の国際感覚を養うため、講演会、研修会、冊子等により国際理解に関する意識啓発を行います。	継続

### 取り組むべき施策2 交流機会の充実

外国人住民意識調査では、何らかの活動を通して日本人と交流したいという外国人の意見が多く寄せられました。こうしたことから、日本人と外国人住民の相互交流を促進するため、外国人住民も市民も気軽に参加でき、楽しみながら国際理解を深めることのできるイベントを充実します。

(主要な事業)

No.	主要な事業（網掛けは重点事業）	事業の概要	推進状況
24	イベントの充実	外国人住民や市民が気軽に参加でき、相互の国際理解に寄与するイベントを実施します。	継続

### 取り組むべき施策3 国際理解教育の推進

本市では、全中学校区にALT（外国語指導助手）を配置するとともに、小学1年生から会話科<sup>4</sup>を取り入れるなど、コミュニケーション能力を高める学習に取り組んでいます。小学生のうちから国際感覚を養い、コミュニケーション能力を身につけることができるよう、様々な国の言葉や文化を学ぶ国際理解教育を推進します。

(主要な事業)

No.	主要な事業（網掛けは重点事業）	事業の概要	推進状況
25	学校等での国際理解教育の推進	学校等における国際理解教育を推進し、子どもたちの国際感覚を養います。	継続

<sup>4</sup> 会話科：小中一貫教育の取組の1つで、本市独自のもの。日本語による豊かな表現力を育むための「ことばの時間」と英語によるコミュニケーション力を育むための「英会話の時間」がある。

## 施策の方向2 国際交流の促進

市民や国際交流活動団体の取組は、本市の国際化・多文化共生を支え、推進するための重要な要素です。そのため、市民活動の活性化の促進や、様々な分野での海外都市との交流をさらに推進できるよう様々な支援を行います。

### (活動指標)

市民の国際交流の機会を充実させるため、様々なボランティア団体の活動数を示す「市内の国際交流活動団体数」を指標として設定します。

指 標	現状値 (H24)	H27	H30	出 典
市内の国際交流活動団体数	71団体	72団体	75団体	国際交流プラザ調べ

## 取り組むべき施策1 互恵性ある国際交流の促進

本市には、3つの姉妹都市（1982年提携オークランド市：ニュージーランド、1989年提携オルレアン市：フランス共和国、1992年提携タルサ市：アメリカ合衆国）と友好都市（1984年提携チチハル市：中華人民共和国）、文化友好都市（1995年提携ピエトラサンタ市：イタリア共和国）があり、様々な分野で交流を行っています。

姉妹・文化友好都市との交流については、国際親善、市民主体の国際交流の考えに基づき事業を実施してきました。今後も市民主体の交流を基本として、相互の都市の発展につながる交流のあり方を検討し、テーマや目的を持った都市間、市民間の交流についても促進します。

### (主要な事業)

No.	主要な事業（網掛けは重点事業）	事業の概要	推進状況
26	姉妹都市との交流	相互の都市の発展に寄与する交流について検討します。	継続
27	テーマを持った交流の促進	文化やスポーツなどの具体的なテーマを通じた都市や市民の国際交流を促進します。	継続

## 取り組むべき施策2 国際交流活動の支援

市民が主体となった国際交流を促進するため、拠点施設である国際交流プラザなど、活動する場所の提供や、情報提供などボランティア活動の支援を積極的に行うとともに、海外で活躍する本市出身の市民との連携を図り、様々な分野における海外都市との交流を促進します。

(主要な事業)

No.	主要な事業（網掛けは重点事業）	事業の概要	推進状況
28	ボランティア活動の支援	国際理解・国際交流活動を行っているボランティアに、活動場所や情報提供等の支援を充実します。	継続
29	海外で活躍する市民との連携	本市出身や本市にゆかりのある人で、海外で活躍する人との連携を図ることで国際交流や本市PRの機会を充実します。	継続

## 取り組むべき施策3 国際交流活動団体の支援

本市の国際化の原動力である国際交流活動団体の活動を支援するため、各団体の中核的機能を有する宇都宮市国際交流協会との連携を強化するとともに、フェアトレード<sup>5</sup>の普及活動や外国人児童生徒に対する日本語学習支援活動など、多様なテーマで特色ある活動を実施している民間団体への支援を行います。

(主要な事業)

No.	主要な事業（網掛けは重点事業）	事業の概要	推進状況
30	中核団体の支援	国際交流団体の中核となる国際交流協会との連携強化を図り、活動への支援を行います。	継続
31	民間団体の支援	イベントや国際貢献等に対する活動に支援を行います。	継続

<sup>5</sup>フェアトレード：生産者に対して対価をきちんと支払う取引のこと。有機無農薬栽培などの付加価値のある生産物が「適正な価格」で取引され、消費者がこれらの商品を買うことでより多くの地球の貧困問題の解決や文化伝統、環境を守ることができる。

## 取り組むべき施策4 民間団体の連携促進

宇都宮市国際交流協会を核とし、各民間団体が協力できる体制の構築と、課題や情報を共有できるネットワークの形成を促進します。

(主要な事業)

No.	主要な事業（網掛けは重点事業）	事業の概要	推進状況
32	ボランティア、NPO、NGO等団体のネットワーク形成促進	各団体がそれぞれの特色や個性を生かし、協力できる体制の構築を促進します。	継続

## 基本目標Ⅲ 国際化にふさわしい都市機能の充実

### ○基本目標が達成された姿

国際都市としてのハード・ソフトが整い、まちづくりを担う人材があらゆる分野で活躍しているまちが実現しています。

### ○施策の基本方向

人・モノ・情報が世界規模で交流が進む現在、国内はもとより海外の人からも「宇都宮市に住んでみたい」と思われるような都市となるためには、利便性の高い都市環境、国際感覚豊かな人材など国際化にふさわしい機能を高めていくことが重要です。

そのため、情報の多言語化などの推進や、積極的な情報発信を図る「都市環境の充実」、都市の国際化・多文化共生社会を支える「国際感覚豊かな人材の発掘・支援」に取り組んでいきます。

### ○成果指標

暮らしやすく、利便性の高い都市環境が整った魅力あるまちであることを示す「『宇都宮市が暮らしやすい』と感じる外国人住民の割合」を指標として設定します。

指 標	現状値 (H25)	H27	H30	出 典
「宇都宮市が暮らしやすい」と感じる外国人住民の割合	82.2%	83%	85%	外国人住民意識調査



## 施策の方向1 都市環境の充実

世界に開かれ、人・モノ・情報が活発に行き交い、交流する都市を目指すため、誰にでも分かりやすい情報の提供や、都市の魅力の発信に取り組みます。

(活動指標)

利用しやすく、分かりやすい情報提供を図る「多言語や『やさしい日本語』を用いた行政情報・表示の種類」を指標として設定します。

指標	現状値 (H24)	H27	H30	出典
多言語を用いた行政情報・表示の種類	27種類	30種類	35種類	国際交流プラザ調べ
「やさしい日本語」を用いた行政情報の種類	—	5種類	10種類	国際交流プラザ調べ

### 取り組むべき施策1 分かりやすい情報提供の充実

本市に生活する人にも訪れる人にも分かりやすい、ピクトグラム<sup>6</sup>やルビを用いた公共サイン<sup>7</sup>や表記の多言語化の推進、パンフレットなどの各種の情報媒体のやさしい日本語や多言語による情報提供、善意通訳者<sup>8</sup>団体との連携に取り組みます。

(主要な事業)

No.	主要な事業（網掛けは重点事業）	事業の概要	推進状況
33	分かりやすいサイン・表記の推進	来訪者に分かりやすい案内板等の公共サインや表記の多言語化及び外国語表示が可能な受付番号発券機などの導入を推進します。	継続

<sup>6</sup> ピクトグラム：抽象化、単純化された絵で、視覚用語の一つ。誰にでもわかりやすい視覚的効果を目的とするもの。

<sup>7</sup> 公共サイン：行政機関により、道路上に設置され、管理される案内地図や施設誘導などの案内板

<sup>8</sup> 善意通訳者：ホスピタリティの精神に基づき、外国人旅行者ための情報提供や通訳・案内を行うボランティア

No.	主要な事業（網掛けは重点事業）	事業の概要	推進状況
34	各種情報の多言語化の推進	各種ツールやパンフレット等、本市の文化、経済、観光等を紹介する情報について、やさしい日本語や多言語による表記を推進します。	継続
35	善意通訳者団体との連携	来訪者の利便性及びおもてなしの向上のために、善意通訳者と連携した観光案内の充実を図ります。	継続

## 取り組むべき施策2 都市の魅力の発信

都市の活力が高まり、観光・ビジネスなどにおいて、活性化につながるコンベンションの誘致や、効果的な海外への情報発信に取り組めます。

（主要な事業）

No.	主要な事業（網掛けは重点事業）	事業の概要	推進状況
36	コンベンションの誘致	観光やビジネスなどで本市を訪れる来訪者を増やすため、国内外から人の集まるコンベンションを誘致します。	継続
37	海外への情報発信の充実	海外からの誘客を図るため、本市の地域資源や都市の魅力を効果的に発信します。	継続

## 施策の方向2 国際化社会に対応できる人材の育成

優れた国際感覚や語学能力を持つ人材を生かした国際交流活動を促進するため、多様な分野のリーダーとなる市民や留学生などを都市の国際化・多文化共生を支える人材として位置づけ、人材の発掘・支援、人材育成に取り組みます。

### (活動指標)

文化や習慣、価値観等の違いを理解し、国際的な視野を持って活躍している人の数を示す「国際理解講座の講師数」を指標として設定します。

指 標	現状値 (H24)	H27	H30	出 典
国際理解講座の講師数	32人	40人	50人	国際交流プラザ 調べ

## 取り組むべき施策1 国際感覚豊かな人材の発掘・支援

本市には、海外駐在経験や留学経験を有し、国際感覚や語学能力を持った市民や、海外からの留学生・技術者が数多くいます。こうした人材が今後の国際化・多文化共生を支える担い手として活躍できるよう、その発掘・支援や機会の充実に努めます。

### (主要な事業)

No.	主要な事業（網掛けは重点事業）	事業の概要	推進状況
38	国際経験・語学能力を有する人材の発掘・支援	国際経験、語学能力や知識を有する人材を発掘し、各種の施策展開や事業参加への促進を支援します。	継続
39	☆国際感覚豊かな人材が活躍できる機会の充実	豊かな国際経験を通して培った国際感覚を持つ人材が、その貴重な経験を生かし、能力を発揮できる機会を充実します。	拡充

## 取り組むべき施策2 国際化時代を担う人材の育成

市民が世界的な視野や国際感覚を身につけ、経済や文化、教育、市民活動等、様々な分野において、地域の国際化・多文化共生の担い手として活躍できる人材の育成に取り組めます。

(主要な事業)

No.	主要な事業（網掛けは重点事業）	事業の概要	推進状況
40	海外への派遣研修の実施	国際的視野や見識を養うため、姉妹・文化友好都市をはじめとする海外都市への派遣研修などを実施します。	継続
41	☆国際感覚を持ち、世界的な視野で活躍できる人材の育成	本市の国際化における様々な分野のリーダーとなる人材の育成のため、自国の文化や伝統への理解を深め、異なる文化や多様な価値観を理解する取組を充実します。	拡充

## 施策の方向3 国際協力の推進

国境を越えて顕在化する課題に対し、関係機関や本市の民間団体との連携を強化し、国際的課題への取組の充実、国際社会への貢献を推進します。

### (活動指標)

世界各国への人道支援などの活動により、国際社会に貢献している団体の数を示す、「市内の国際協力ボランティア団体数」を指標として設定します。

指標	現状値 (H24)	H27	H30	出典
市内の国際協力ボランティア団体数	22団体	23団体	25団体	国際交流プラザ調べ

### 取り組むべき施策1 国際的課題への取組の充実

国際的課題に対し、本市からの情報発信、国際関係機関・関係国の大使館等との連携強化により、課題の解決に取り組めます。

#### (主要な事業)

No.	主要な事業（網掛けは重点事業）	事業の概要	推進状況
42	政府系機関・国際機関との連携	自治体国際化協会 <sup>9</sup> などの政府系機関や関係国の大使館などと連携を強化します。	継続

### 取り組むべき施策2 国際社会への貢献

国際協力活動を促進するため、海外への人道支援や、開発途上国からの研修などを行うNGO等の国際協力団体に対し、ネットワーク化を図り、視察受入や研修などの活動支援や協力をを行います。

<sup>9</sup>自治体国際化協会：CLAIR（クリア）。Council of Local Autonomy International Relations  
地域の国際化を推進する地方自治体の共同組織として、昭和63年に設立。地方自治体の国際交流活動や海外活動の支援、地域における多文化共生に関する取組を支援。東京を本部に世界7都市に海外事務所を置く。栃木県国際課に栃木県支部がある。

(主要な事業)

No.	主要な事業（網掛けは重点事業）	事業の概要	推進状況
43	国際協力団体への支援・協力	海外被災地への物資援助や寄付など、NGO等の国際協力団体の活動に支援や協力を行います。	継続

## 第5章 計画の推進に向けて

## 第5章 計画の推進に向けて



## 1 計画の推進体制

### (1) 各主体との連携

本計画の着実な推進を図るため、外国人住民を含む市民のニーズを把握し、施策・事業の実施に当たっては、市民や民間団体・企業・教育機関など様々な団体との連携・協働により様々な事業に取り組みます。

また、国・県など行政機関と課題を共有し、連携を図りながら、事業を推進します。

### (2) 意見の反映

国際化・多文化共生の推進に関して、各主体との意見を交換する機会を適宜、設け、本計画の実施に生かしていきます。

## 2 計画の進行管理

### (1) 国際化推進委員会での進捗管理

国際化の推進は、市民生活の幅広い分野に関わる課題であることから、庁内関係部署からなる「国際化推進委員会」を設置し、計画の進捗や課題の検討を行います。

また、計画の進捗や課題の検討に当たっては、外国人住民からの意見聴取を行うなど、外国人住民の声を市政に反映させていきます。

### (2) 進捗状況の公表

設定した目標値を含め、計画の達成度、進捗度を把握し、中間年次に実施する意識調査結果とあわせて市民に公表します。

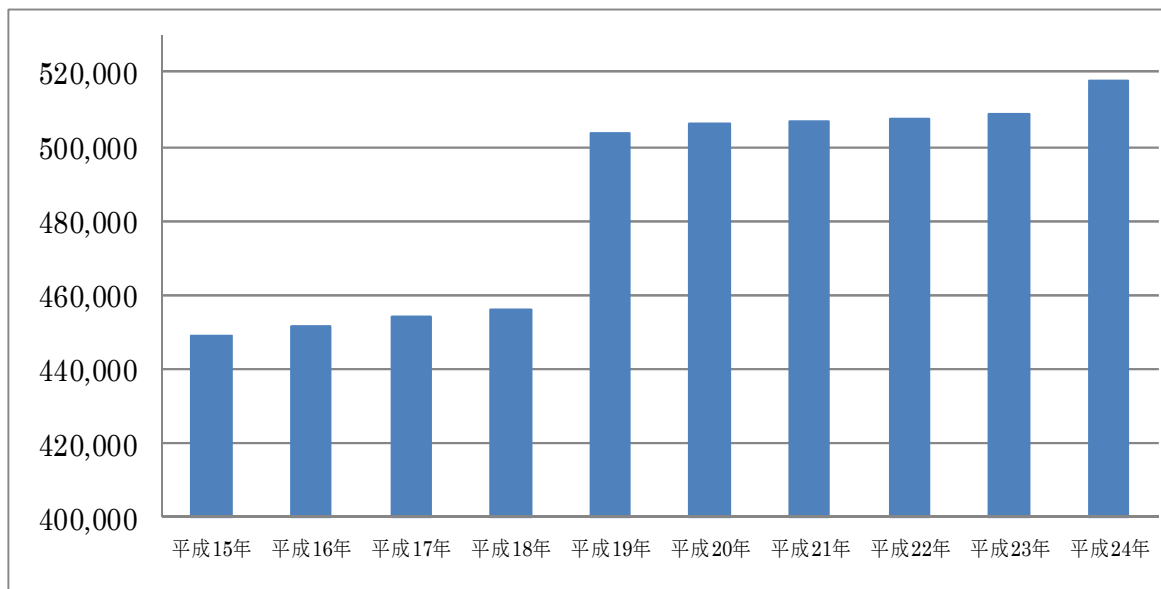


# 參 考 資 料

## 參考資料

## 参考資料1 計画策定にかかる基礎データ

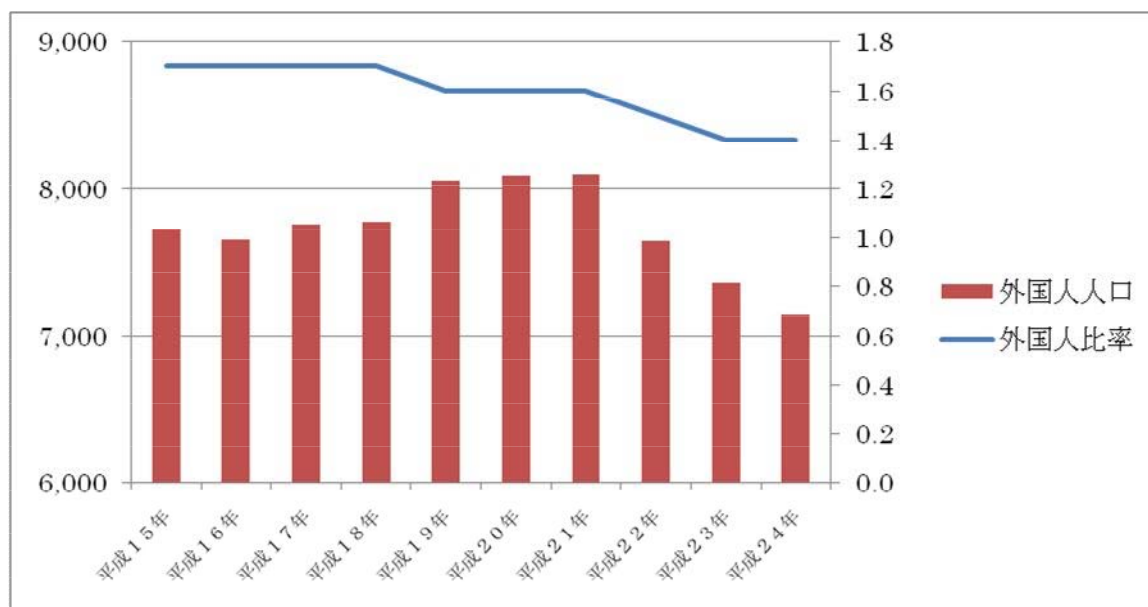
### (1) 総人口の推移



資料：住民基本台帳（各年12月末日現在）

(注) 住民基本台帳法の改正により、平成24年の総人口は、日本人及び外国人の合計である。

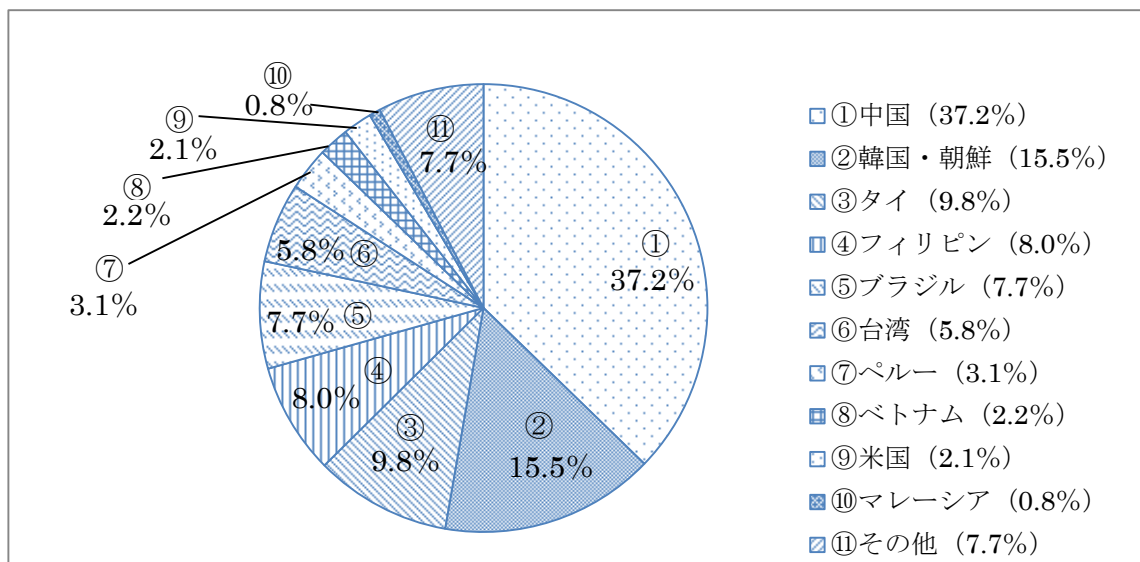
### (2) 外国人人口の推移



資料：外国人登録・住民基本台帳（各年12月末日現在）

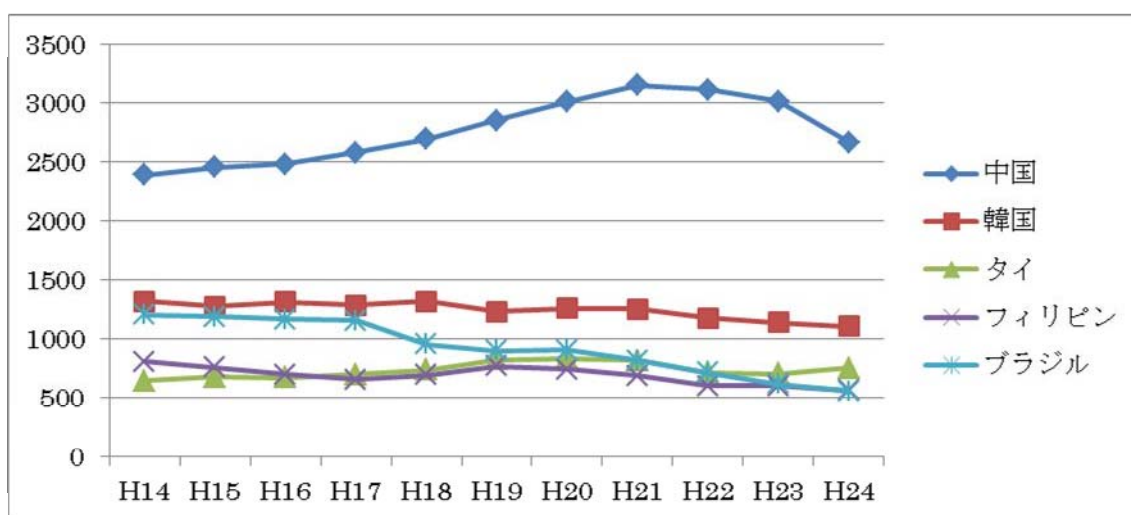
(注) 平成23年までは「外国人登録人口」、平成24年は「住民基本台帳人口（うち外国人人数）」である。

### (3) 平成 25 年における国及び地域別外国人人口比率



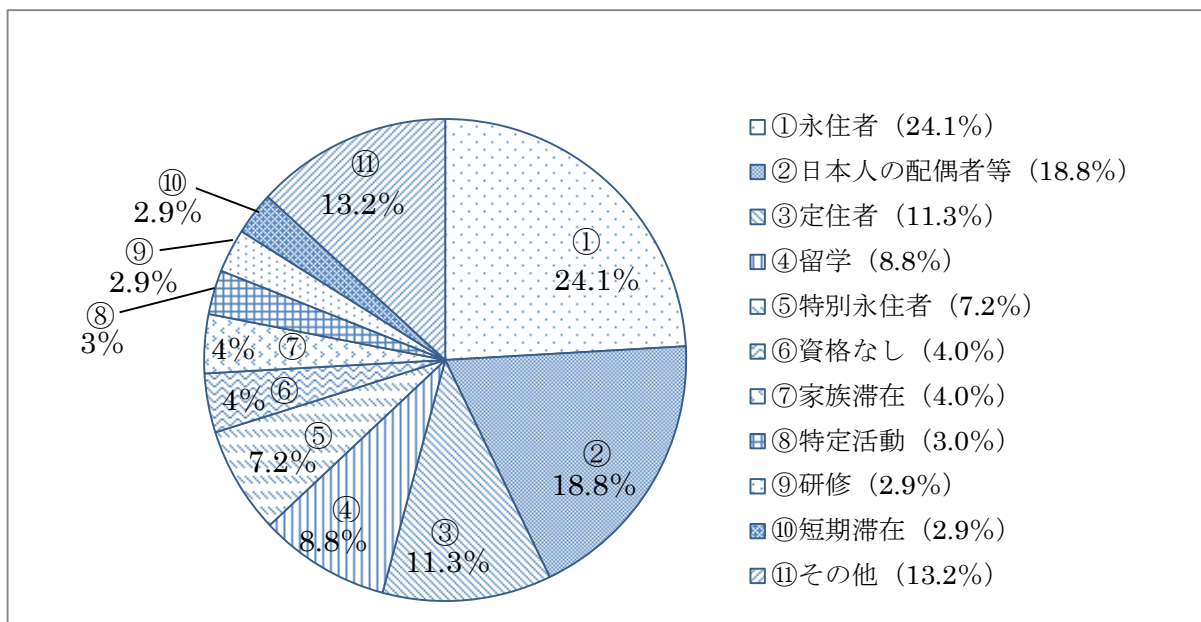
資料：住民基本台帳（平成 25 年 4 月末日現在）

### (4) 上位 5 か国における外国人人口の推移



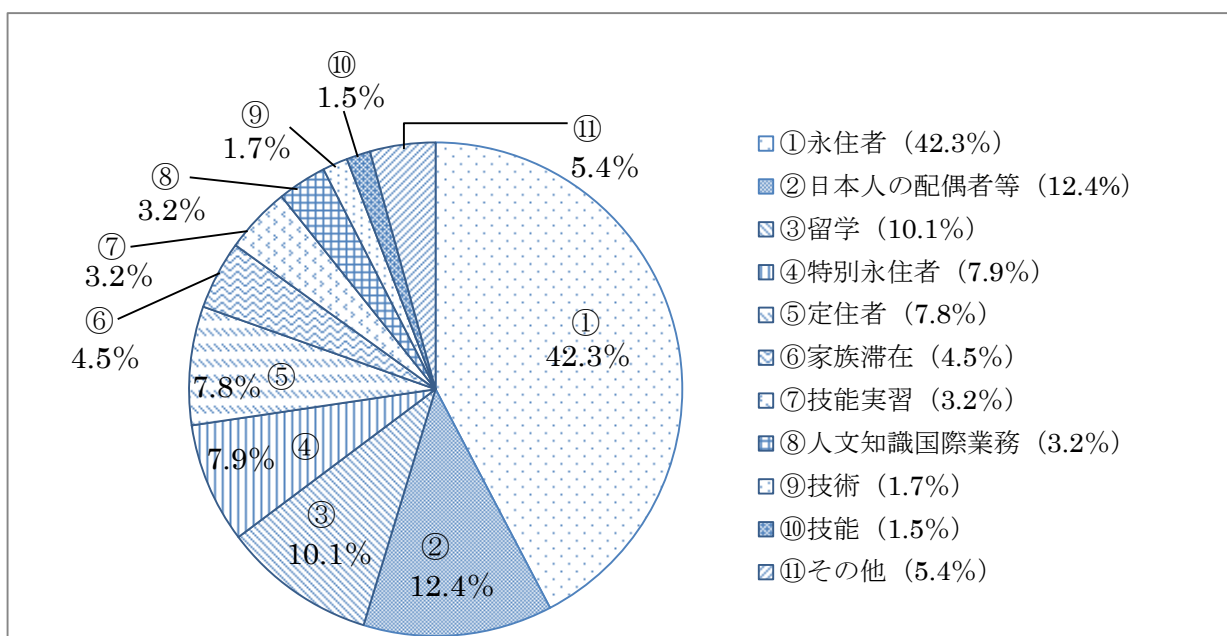
資料：外国人登録・住民基本台帳（各年 12 月末日現在）

(5) 在留資格別外国人人口比率  
《平成 20 年》



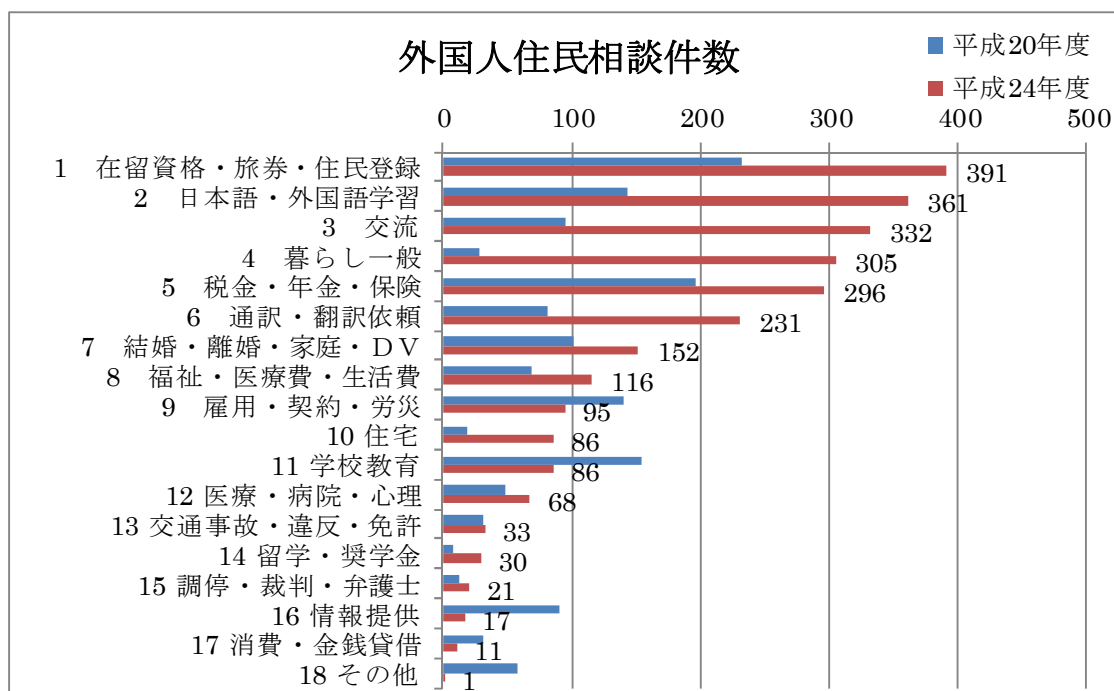
資料：外国人登録（平成 20 年 5 月現在）

《平成 25 年》



資料：住民基本台帳（平成 25 年 5 月現在）

(6) 外国人住民相談件数



出典：国際交流プラザ調べ

(7) 国及び地域別就学者数

	国籍名	小学校 合計	中学校 合計	小・中学校 合計
1	日本	30	20	50
2	中国	6	9	15
3	ブラジル	11	0	11
4	ペルー	9	1	10
5	タイ	6	4	10
6	フィリピン	3	3	6
7	パキスタン	3	1	4
8	インドネシア	1	0	1
9	台湾	1	0	1
10	ネパール	1	0	1
11	ベトナム	1	0	1
12	香港	1	0	1
13	ボリビア	1	0	1
合計		74	38	112

出典：市教育委員会調べ

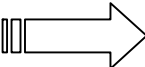


## 参考資料2 各指標の達成状況

### (1) 基本目標1

#### 【成果指標】

「宇都宮市にずっと住み続けたいと感じる在住外国人の割合」

H20		H25	H25 (目標値)
47.7%		44.5%	55%

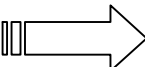
(出典：外国人住民意識調査)

- ・ H20の数値を下回る結果となった。

#### 【活動指標】

##### ○ 施策の方向1 相互理解の促進

「通訳ボランティア登録人数」

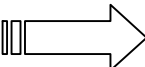
H20		H24	H25 (目標値)
—		59名	40名

(出典：国際交流プラザ調べ)

- ・ 目標値を超える人が登録している。

##### ○ 施策の方向2 在住外国人の生活環境の充実

「外国人相談窓口の認知度」

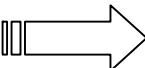
H20		H25	H25 (目標値)
10%		36.4%	55%

(出典：外国人住民意識調査)

- ・ 目標値には届かなかったが、認知度は着実に上がってきている。

##### ○ 施策の方向3 多文化共生の地域づくり

「日本人と親しく行き来している在住外国人の割合」

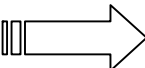
H20		H25	H25 (目標値)
10.4%		26.4%	30%

(出典：外国人住民意識調査)

- ・ 目標値には届かなかったが、着実に増加してきている。

○ 施策の方向4 多文化共生の仕組みづくり

「在住外国人や留学生との意見交換会の実施回数」

H20		H24	H25 (目標値)
—		1回	5回

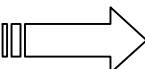
(出典：国際交流プラザ調べ)

- ・目標値には届かなかった。

(2) 基本目標Ⅱ

【成果指標】

「日本人と積極的に交流したいと考える在住外国人の割合」

H20		H25	H25 (目標値)
23.6%		23.7%	35%

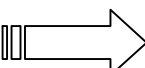
(出典：外国人住民意識調査)

- ・ほぼ横ばいの結果となり、目標値には届かなかった。

【活動指標】

○ 施策の方向1 国際理解の促進

「国際理解講座の参加者数」

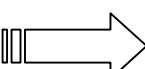
H20		H24	H25 (目標値)
50名		286名	150名

(出典：国際交流プラザ調べ)

- ・生涯学習、青少年育成の観点から、国際理解、国際交流のための取組は盛んに行われており、目標値を大きく上回った。

○ 施策の方向2 国際交流の促進

「市内の国際交流活動団体数」

H20		H24	H25 (目標値)
70団体		71団体	80団体

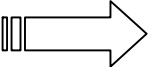
(出典：国際交流プラザ調べ)

- ・国際交流活動団体数は、ほぼ横ばいである。

### (3) 基本目標Ⅲ

#### 【成果指標】

「宇都宮市を「暮らしやすい」と感じる在住外国人の割合」

H20		H25	H25 (目標値)
60.8%		82.2%	70%

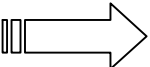
(出典：外国人住民意識調査)

- ・目標値を大きく上回る結果となった。

#### 【活動指標】

##### ○ 施策の方向1 都市環境の充実

「多言語化した行政情報・表示の種類」

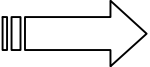
H20		H24	H25 (目標値)
18種類		27種類	30種類

(出典：国際交流プラザ調べ)

- ・着実に増えてきているが、目標値には届かなかった。

##### ○ 施策の方向2 国際感覚豊かな人材の発掘・支援

「市内に学術・研究・留学などの資格で滞在する在住外国人の数」

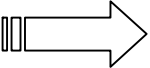
H20		H25	H25 (目標値)
1,226人		1,240人	1,300人

(出典：国際交流プラザ調べ)

- ・ほぼ横ばいの結果となり、目標値には届かなかった。

##### ○ 施策の方向3 国際協力の推進

「市内の国際協力団体数」

H20		H24	H25 (目標値)
22団体		22団体	30団体

(出典：国際交流プラザ調べ)

- ・横ばいの結果となり、目標値には届かなかった。

## 参考資料3 外国人住民意識調査 調査票

うつのみやし がいこくせきしみん あんけーとちょうさ きょうりよく ねが  
宇都宮市 外国籍市民アンケート調査 ご協力をお願い

宇都宮市での暮らしをよりよくするために、あなたのご意見をお聞かせください。

### 1 はじめに

このアンケート調査は、言葉や文化の違いを越えて、誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりの参考とするため、皆様からご意見をお聞きしたく、宇都宮市が実施するものです。

調査にあたっては、宇都宮市にお住まいの外国籍市民の中から2500名の方々を無作為に選ばせていただきました。2年前にもこの調査にご回答くださった方もいらっしゃるかもしれませんが、ご協力くださいますよう、お願いいたします。

- ・ この調査は、出入国管理や警察とは一切関係ありません。
- ・ お名前を書く必要はありません。
- ・ 頂いた回答は統計的に処理しますので、あなたの不利益や迷惑になることはありません。
- ・ アンケート用紙は、「日本語」と「〇〇語」の2種類が入っています。どちらかにご回答ください。
- ・ お答えいただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、平成25年〇月〇〇日までに郵便ポストに入れてください。切手を貼る必要はありません。

### 2 記入の方法

- ・ 回答に当たっては、選択肢の中から選んで番号に○をつけてください。
- ・ ふさわしい答えがない場合は「その他」に○を付け、( )の中に具体的に記入してください。
- ・ 一部自由にお答えいただく質問がありますので、そちらには率直なご意見をご記入ください。

\* この調査の問い合わせは下記へお願いいたします。

#### 【問い合わせ先】

うつのみやしやくしょ しみん ぶ こくさいこうりゆうぶらざ  
宇都宮市役所 市民まちづくり部 国際交流プラザ

t e l 028-616-1567 f a x 028-616-1568

e-mail : [u1820@city.utsunomiya.tochigi.jp](mailto:u1820@city.utsunomiya.tochigi.jp)

【宇都宮市 外国籍市民アンケート 調査票】

◆ あなたご自身について

質問1 あなたの国籍は次のうち、どちらにあたりますか？

1 中国・台湾	2 韓国・朝鮮	3 ブラジル	4 タイ
5 フィリピン	6 ペルー	7 アメリカ	8 ベトナム
9 カナダ	10 マレーシア	11 イラン	12 イギリス
13 スリランカ	14 バングラデシュ	15 インド	16 インドネシア
17 ロシア	18 オーストラリア	19 ネパール	20 無国籍
21 その他 ( )			

質問2 あなたの性別は次のどちらですか？

1 男性	2 女性
------	------

質問3 あなたの年齢は次のどれにあたりますか？

1 16歳～19歳	2 20歳～29歳	3 30歳～39歳
4 40歳～49歳	5 50歳～59歳	6 60歳～69歳
7 70歳以上		

質問4 あなたの在留資格は次のどれにあたりますか？

1 教授	2 芸術	3 宗教	4 報道
5 投資・経営	6 法律・会計業務	7 医療	8 研究
9 教育	10 技術	11 人文知識・国際業務	12 企業内転勤
13 興行	14 技能	15 技能実習	16 文化活動
17 短期滞在	18 留学	19 研修	20 家族滞在
21 特定活動	22 永住者	23 日本人の配偶者等	24 永住者の配偶者等
25 定住者	26 特別永住者	27 その他 ( )	

質問5 あなたの宇都宮市での生活年数は合わせて次のどれにあたりますか？

- |             |              |               |
|-------------|--------------|---------------|
| 1 6か月未満     | 2 6か月以上～1年未満 | 3 1年以上～3年未満   |
| 4 3年以上～5年未満 | 5 5年以上～10年未満 | 6 10年以上～20年未満 |
| 7 20年以上～    |              |               |

質問5-2 あなたは誰と一緒に暮らしていますか？

- |           |      |      |
|-----------|------|------|
| 1 一人      | 2 家族 | 3 友人 |
| 4 その他 ( ) |      |      |

◆ ことばについて

質問6 あなたは日本語をどの程度理解できますか？

- |                                       |
|---------------------------------------|
| 1 「読む」「書く」「聞く」「話す」のいずれにも問題がない         |
| 2 「聞く」「話す」ことは問題がないが、「読む」「書く」ことは不十分である |
| 3 「読む」「書く」ことは問題がないが、「聞く」「話す」ことは不十分である |
| 4 相手の言っていることが少しは分かり、自分の話も少しはできる       |
| 5 「読む」「書く」「聞く」「話す」ことはいずれもまったくできない     |

質問7 あなたは日本語を学習していますか？

- |                                       |
|---------------------------------------|
| 1 している                                |
| 2 していない                               |
| 3 「読む」「書く」「聞く」「話す」いずれも問題ないので学習する必要はない |

質問7-2 質問7で「1」と回答された方にお聞きします。主に日本語を学習している方法や場所を次の中から選んでください。(○はいくつでも)

- |                    |                  |                      |
|--------------------|------------------|----------------------|
| 1 大学・日本語学校         | 2 ボランティアや支援団体の教室 | 3 職場                 |
| 4 家族に習っている         | 5 友人・知人に習っている    | 6 テレビ・ラジオ・インターネットの講座 |
| 7 本や新聞・雑誌を読んで学んでいる | 8 その他 ( )        |                      |

◆ 宇都宮市での生活について

◇ 情報・相談について

質問8 あなたは生活に必要な情報をどこから入手していますか？（〇はいくつでも）

- |                   |              |
|-------------------|--------------|
| 1 家族・親戚           | 2 外国出身の知人・友人 |
| 3 日本人の知人・友人       | 4 職場・学校      |
| 5 同国出身者の団体        | 6 ボランティア団体   |
| 7 母語の新聞・雑誌・サイトなど  | 8 市役所の窓口や広報紙 |
| 9 日本語の新聞・雑誌・サイトなど | 10 大使館・領事館   |
| 11 入手する方法がない      | 12 その他（ ）    |

質問9 あなたが特に必要と考えている情報は次のうちどれですか？（〇は3つまで）

- |                         |                       |
|-------------------------|-----------------------|
| 1 健康保険・医療・福祉の情報         | 2 子育て・教育の情報           |
| 3 ごみの出し方などのルールや生活に関する情報 | 4 防災・災害に関する情報         |
| 5 夏祭りや文化祭その他の地域のイベントや情報 | 6 案内・看板にふりがな・ローマ字をつける |
| 7 日本語学習の情報              | 8 日本人と交流する機会の情報       |
| 9 通訳・相談サービスの情報          | 10 その他（ ）             |

質問10 外国籍市民のための宇都宮市の行政サービスのうち、あなたが知っているものは次のうちどれですか？（〇はいくつでも）

- |                    |                        |
|--------------------|------------------------|
| 1 「暮らしの便利帳」による情報提供 | 2 外国人相談窓口              |
| 3 通訳ボランティア制度       | 4 国際交流プラザでの交流会「カフェサロン」 |
| 5 外国人向け情報誌「おーい！」   | 6 その他（ ）               |
| 7 知らない             |                        |

質問10-2 質問10で「1～6」に○をつけた方にお伺いします。あなたが利用したことがあるものを次のうちから選んでください。(○はいくつでも)

- |                    |                            |
|--------------------|----------------------------|
| 1 「暮らしの便利帳」による情報提供 | 2 外国人相談窓口                  |
| 3 通訳ボランティア制度       | 4 国際交流プラザでの交流会<br>「カフェサロン」 |
| 5 外国人向け情報誌「おーい！」   | 6 その他 ( )                  |

質問11 あなたが困ったときに相談している相手について、次のうちから選んでください。(○はいくつでも)

- |               |                 |               |
|---------------|-----------------|---------------|
| 1 家族・親戚       | 2 友人・知人 (日本人以外) | 3 友人・知人 (日本人) |
| 4 職場の同僚・学校の仲間 | 5 ボランティア団体      | 6 県や市の相談窓口    |
| 7 同国出身者の団体    | 8 近所の人          | 9 学校の先生       |
| 10 相談する相手がない  | 11 その他 ( )      |               |

◇ 医療について

質問12 あなた、またはご家族が病院に行ったときに困ったことはありますか？次の中から選んでください。(○はいくつでも)

- |                      |                 |
|----------------------|-----------------|
| 1 うまく症状を説明できなかった     | 2 受付の手続がわからなかった |
| 3 病気や治療・薬の説明がわからなかった | 4 健康保険に入っていなかった |
| 5 診療を拒否された           | 6 困ったことはない      |
| 7 その他 ( )            |                 |

質問12-2 質問12で「1～5」に回答された方にお伺いします。そのとき、どのように対応しましたか？(○はいくつでも)

- |               |                      |
|---------------|----------------------|
| 1 身振り手振りで説明した | 2 家族、友人や知人に一緒に来てもらった |
| 3 別な病院に行った    | 4 診療を受けることをあきらめた     |
| 5 特に何もしなかった   | 6 帰宅してから家族や友人、知人に聞いた |
| 7 その他 ( )     |                      |



◇仕事について

質問13 あなたの職業は次のどれですか？(○は1つ) 2つ以上働いている場合は、主な方をお答えください。\*この質問に答えることであなたが不利益になるようなことはありません。

1 教授・教師	2 研究所・工場などの技術者
3 土木作業・建設業	4 レストランなどでの調理
5 通訳・翻訳・貿易等の業務	6 接客・サービス業
7 一般事務	8 工場での製造業務
9 自営業	10 技能実習生
11 仕事はしていない	12 仕事を探しているが見つからない
13 その他 ( )	

質問13-2 質問13で「1～8」のいずれかにお答えの方にお聞きします。  
その仕事にはどのような立場で働いていますか？(○は1つ)

1 会社の役員	2 会社に直接雇用
3 派遣会社から現場に派遣(派遣社員)	4 請負業者に雇用され、工場や建設工事現場で働いている
5 パート・アルバイト(学生)	6 パート・アルバイト(学生以外)
7 わからない	8 その他 ( )

質問14 あなたは仕事や雇用について困っていることがありますか？  
(○はいくつでも)

1 自分の能力や技能を生かせない	2 職場での日本語がわからない
3 給料が安い・待遇が悪い	4 働きたいが仕事が見つからない
5 今の仕事をいつまで続けられるかわからない	6 特に困っていることはない
7 その他 ( )	

質問15 3年前と比べて、あなたは生活が楽になったと感じますか、苦しくなったと感じますか？

1 楽になった	2 苦しくなった
3 やや楽になった	4 やや苦しくなった
5 どちらともいえない	6 3年前は日本にいなかった
7 その他 ( )	

◇ 災害について

質問 16 あなたは日頃から、災害に備えた用意をしていますか？

- |          |           |
|----------|-----------|
| 1 用意している | 2 用意していない |
|----------|-----------|

質問 16-2 質問 16 で「1」と答えた方にお伺いします。それはどのようなことでしたか？（○はいくつでも）

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1 避難場所・連絡方法の確認  | 2 非常用の食糧・水の用意  |
| 3 消火器・懐中電灯などの用意 | 4 非常用連絡先リストの作成 |
| 5 その他（          | ）              |

質問 17 災害が起きたときに、あなたはどのような支援を望みますか？次の中から選んでください。（○は3つまで）

- |                                |                                  |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 1 避難場所のわかりやすい表示                | 2 日本人とのコミュニケーションのための会話帳・用語集などの提供 |
| 3 大使館や領事館への連絡支援                | 4 母語での災害情報提供（ラジオ・インターネット情報など）    |
| 5 食事や就寝の時間など避難所の生活ルールを多言語で知らせる | 6 仮設住宅申込や資金貸付などの援助策に関する情報提供      |
| 7 母語による相談窓口の開設                 | 8 わからない                          |
| 9 その他（                         | ）                                |

◆ 日本人との交流について

質問 18 あなたは周りの日本人とどのような付き合いをされていますか？次の中から選んでください。（○は1つ）

- |              |               |
|--------------|---------------|
| 1 親しく行き来している | 2 世間話をする      |
| 3 あいさつをする程度  | 4 付き合いはほとんどない |

質問19 質問18で「1・2」と答えた方にお伺いします。その日本人と付き合うようになったきっかけ、話すようになったきっかけはどのようなことでしたか？次の中から選んでください。(○はいくつでも)

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1 家が近所だった              | 2 職場や仕事と同じだった   |
| 3 子どもや家族を通して付き合うようになった | 4 趣味のサークルで知り合った |
| 5 日本語教室で知り合った          |                 |
| 6 その他 ( )              |                 |

質問20 地域社会で生活していく上で、日本人との交流についてあなたはどうか考えますか？次の中からもっとも近いものを選んでください。(○は1つ)

- |                              |                          |
|------------------------------|--------------------------|
| 1 日本人と一緒に、地域活動を行って積極的に交流をしたい | 2 お互いの言葉や文化を教えあう活動をしたい   |
| 3 困ったときに相談できるくらい親しく付き合いたい    | 4 家族と一緒に気軽に地域のイベントに参加したい |
| 5 顔と名前がわかっていて、あいさつを交わす程度でよい  | 6 特に交流は望まない              |
| 7 その他 ( )                    |                          |

質問21 あなたは今後どのような地域活動やイベント、ボランティア活動に参加してみたいですか？次の中から選んでください。(○はいくつでも)

- |                          |                       |
|--------------------------|-----------------------|
| 1 夏祭りなどの地域のイベント          | 2 子ども会・PTAなどの活動       |
| 3 同国出身者主催のイベント           | 4 学校や会社のイベント          |
| 5 国際交流団体が主催するイベント        | 6 母語と日本語を教えあうボランティア活動 |
| 7 ごみ拾いなど環境美化に関するボランティア活動 | 8 災害復旧のボランティア活動       |
| 9 その他 ( )                |                       |

◆ 今後の定住意向について

質問 2 2 あなたは宇都宮市に住み続けたいと思いますか？次の中から選んでください。  
 (○は1つ)

- |                     |                       |
|---------------------|-----------------------|
| 1 ずっと住み続けたい (10年以上) | 2 当分住み続けたい (5年～10年程度) |
| 3 市外に引っ越したい         | 4 海外に引っ越したい           |
| 5 母国に帰国したい          | 6 わからない               |

質問 2 2-2 質問 2 2で「1」と「2」に回答した方にお伺いします。  
 その理由は何ですか？(○はいくつでも)

- |                                     |                                |
|-------------------------------------|--------------------------------|
| 1 宇都宮市が暮らしやすいから                     | 2 会社・仕事があるから                   |
| 3 家族が「宇都宮市は暮らしやすい」と言っているから          | 4 自分が宇都宮市で生まれた、または宇都宮市で育っているから |
| 5 自分が通う学校があり、宇都宮市で仕事を見つけないかと思っているから | 6 子どもの学校が宇都宮市にあるから             |
| 7 その他 ( )                           |                                |

質問 2 3 あなたにとって宇都宮市は暮らしやすいところですか？(○は1つ)

- |             |              |
|-------------|--------------|
| 1 とても暮らしやすい | 2 まあまあ暮らしやすい |
| 3 やや暮らしにくい  | 4 非常に暮らしにくい  |
| 5 どちらでもない   | 6 わからない      |

質問 2 3-2 質問 2 3で「1・2」と答えた方にお伺いします。あなたが宇都宮市を暮らしやすいと思うところはどこですか？次の中から選んでください。  
 (○はいくつでも)

- |                    |                               |
|--------------------|-------------------------------|
| 1 買い物など日常生活が便利     | 2 豊かな自然環境に恵まれている              |
| 3 東京に近い            | 4 福祉サービスや公共施設などの行政サービスが充実している |
| 5 公共交通が整っている       | 6 道路網が整っている                   |
| 7 公園やレジャーの場が豊富     | 8 わからない                       |
| 9 その他 ご自由にご記入ください。 |                               |
-

質問23-3 質問23で「3・4」と答えた方にお伺いします。あなたが宇都宮市を暮らしにくいと思うところはどこですか？次の中から選んでください。（〇はいくつでも）

1 買い物などの日常生活があまり便利ではない	2 食料品や日用品など品物の値段が高い
3 働くところが少ない	4 公共交通があまり便利ではない
5 まちの治安や交通事故が心配である	6 わからない
7 その他 ご自由にご記入ください。	

◆ 生活全般で困ったこと・不安に感じていること

宇都宮市で生活していく上で困ったことや不便を感じたことがあったら、自由にご記入ください。

◆ さいごに

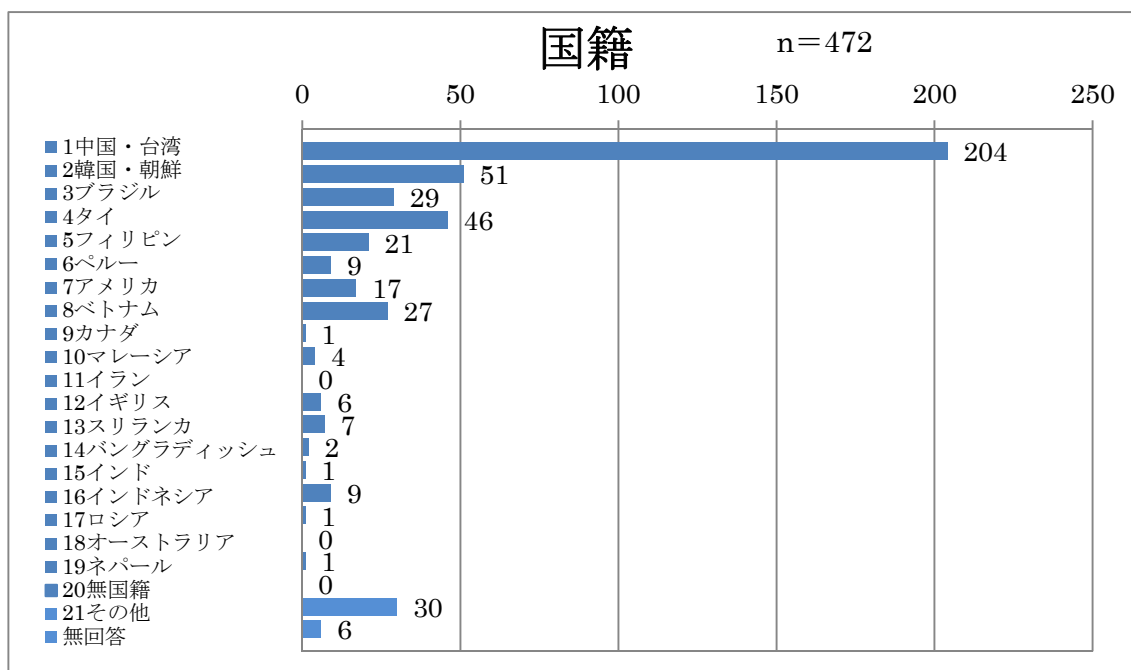
宇都宮市をもっと暮らしやすいまちにするため、日本人と相互に理解を深めるためにはどんなことが大切だと思いますか？あなたの率直なご意見をお聞かせください。

ご協力くださいまして、どうもありがとうございました。

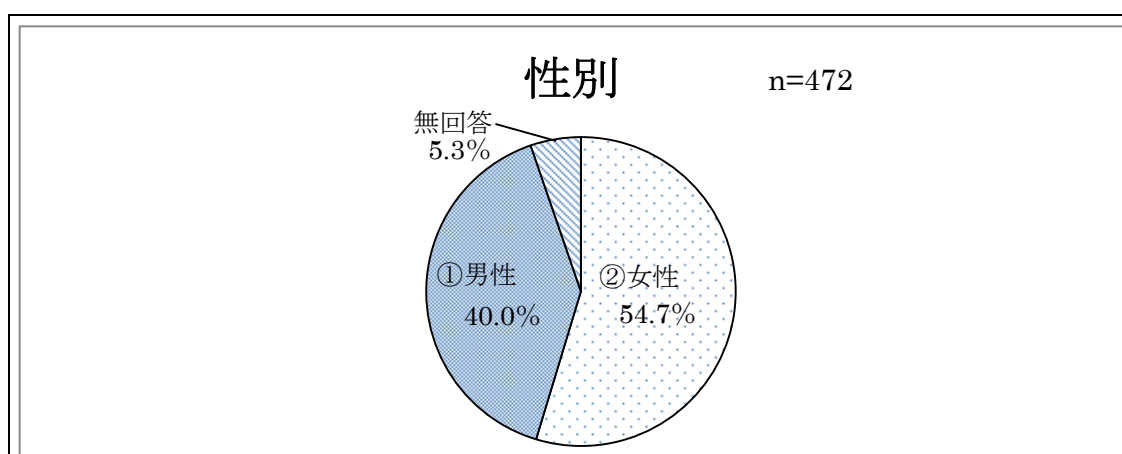
## 参考資料4 外国人住民意識調査 結果

《集計結果》

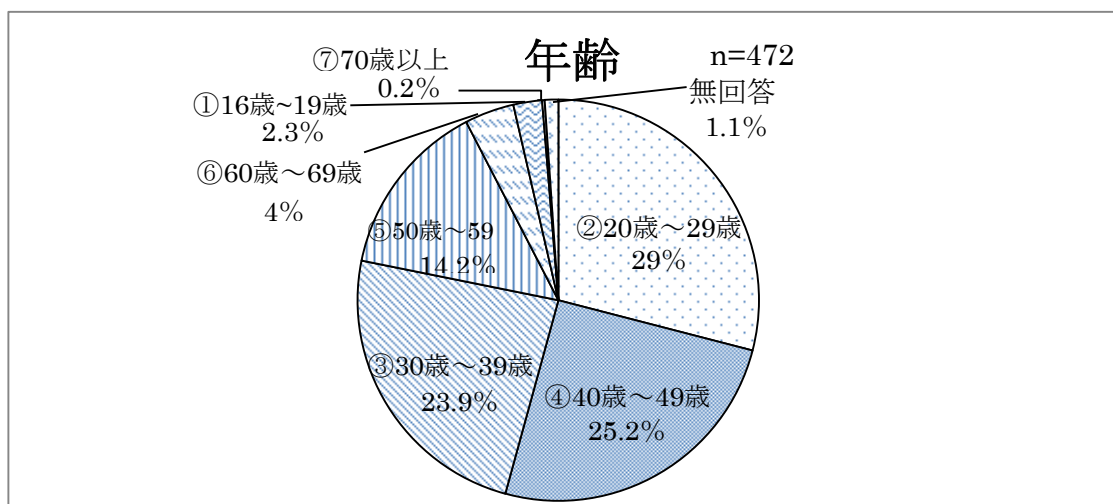
質問1	あなたの国籍は次のうち、どちらにあたりますか？	回答数	構成比
1	中国・台湾	204	43.2%
2	韓国・朝鮮	51	10.8%
3	ブラジル	29	6.1%
4	タイ	46	9.7%
5	フィリピン	21	4.4%
6	ペルー	9	1.9%
7	アメリカ	17	3.6%
8	ベトナム	27	5.7%
9	カナダ	1	0.2%
10	マレーシア	4	0.8%
11	イラン	—	0.0%
12	イギリス	6	1.3%
13	スリランカ	7	1.5%
14	バングラデシュ	2	0.4%
15	インド	1	0.2%
16	インドネシア	9	1.9%
17	ロシア	1	0.2%
18	オーストラリア	—	0.0%
19	ネパール	1	0.2%
20	無国籍	—	0.0%
21	その他	30	6.4%
	無回答	6	1.3%
合計		472	100.0%



質問2	あなたの性別は次のどちらですか？	回答数	構成比
1	男性	189	40.0%
2	女性	258	54.7%
	無回答	25	5.3%
合計		472	100.0%



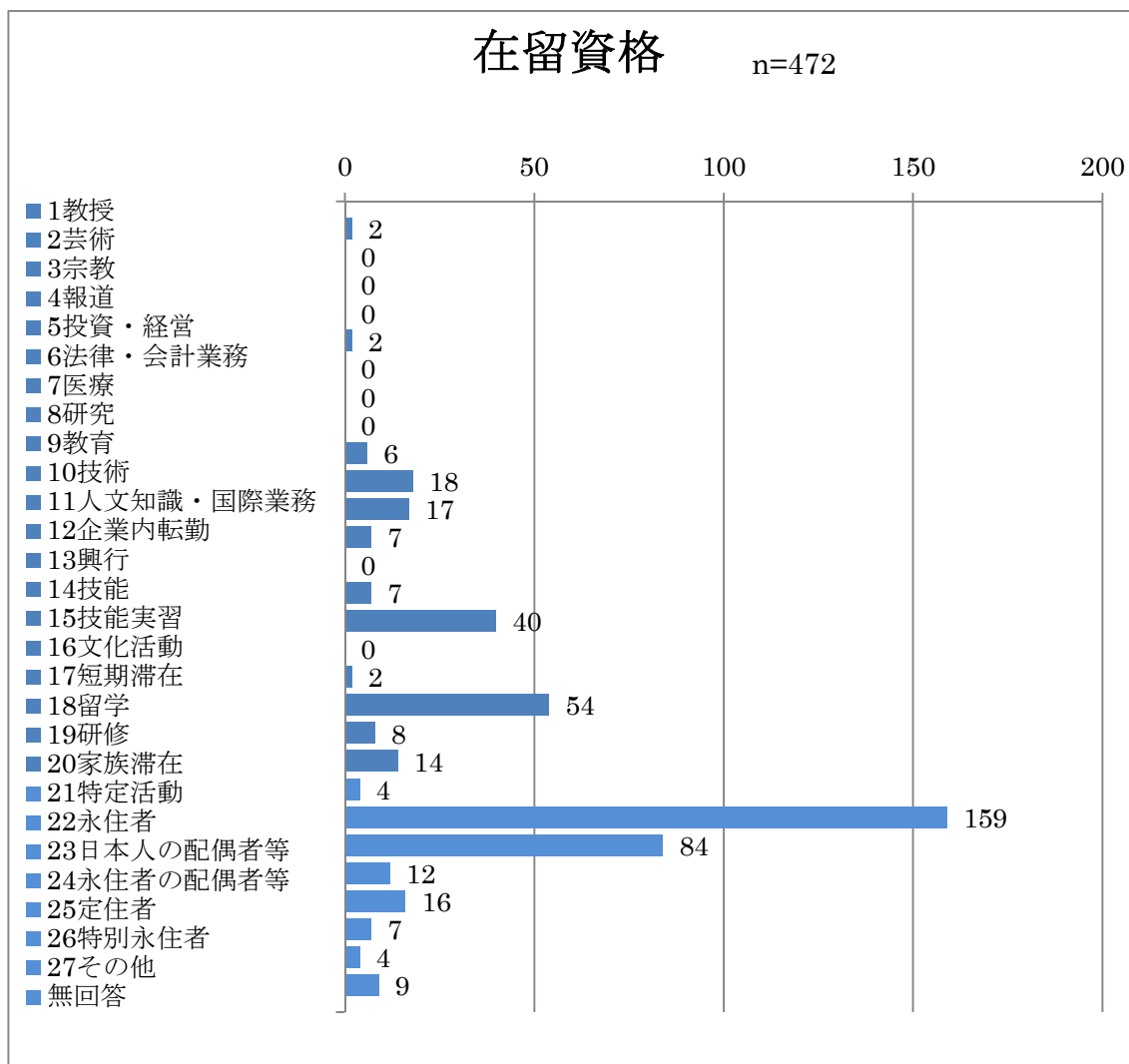
質問3	あなたの年齢は次のどれにあたりますか？	回答数	構成比
1	16～19 歳	11	2.3%
2	20～29 歳	137	29.0%
3	30～39 歳	113	23.9%
4	40～49 歳	119	25.2%
5	50～59 歳	67	14.2%
6	60～69 歳	19	4.0%
7	70 歳以上	1	0.2%
	無回答	5	1.1%
合計		472	100.0%





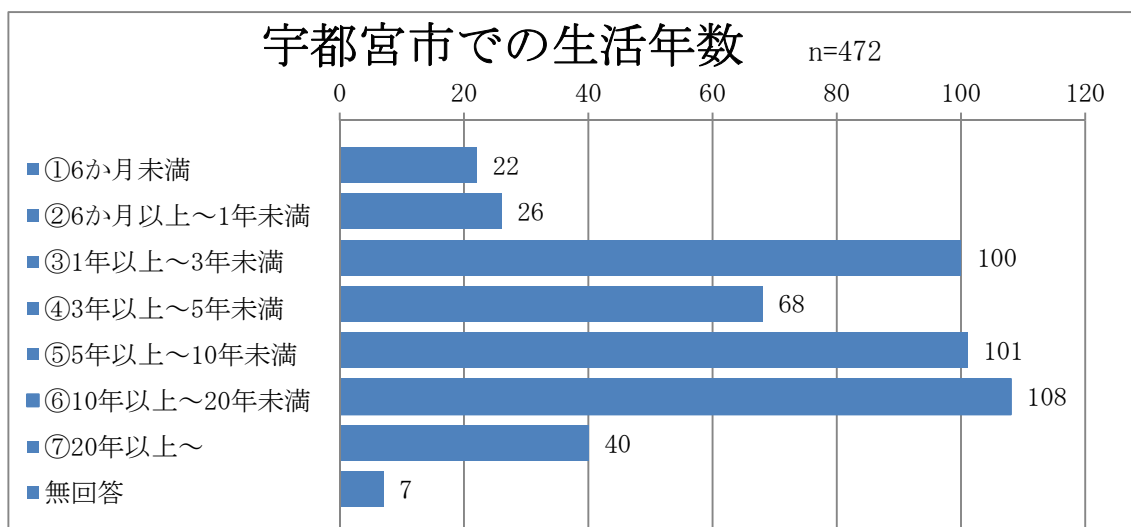
質問4	あなたの在留資格は次のどれにあたりますか？	回答数	構成比
1	教授	2	0.4%
2	芸術	—	0.0%
3	宗教	—	0.0%
4	報道	—	0.0%
5	投資・経営	2	0.4%
6	法律・会計業務	—	0.0%
7	医療	—	0.0%
8	研究	—	0.0%
9	教育	6	1.3%
10	技術	18	3.8%
11	人文知識・国際業務	17	3.6%
12	企業内転勤	7	1.5%
13	興行	—	0.0%
14	技能	7	1.5%
15	技能実習	40	8.5%
16	文化活動	—	0.0%
17	短期滞在	2	0.4%
18	留学	54	11.4%
19	研修	8	1.7%
20	家族滞在	14	3.0%
21	特定活動	4	0.8%
22	永住者	159	33.7%
23	日本人の配偶者等	84	17.8%
24	永住者の配偶者等	12	2.5%
25	定住者	16	3.4%
26	特別永住者	7	1.5%
27	その他	4	0.8%
	無回答	9	1.9%
合計		472	100.0%

・「永住者」「日本人の配偶者等」で過半数を占めた。次いで、「留学」「技能実習」と続く。



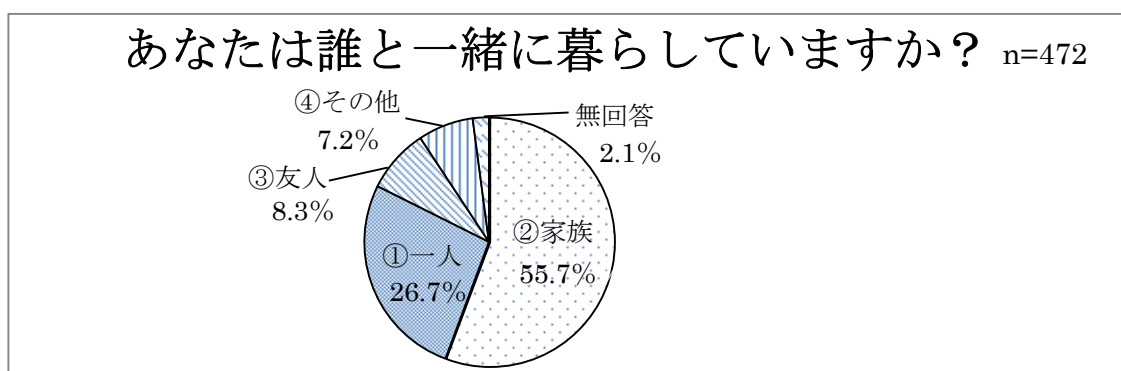
質問5	あなたの宇都宮市での生活年数は合わせて次のどのくらいですか？	回答数	構成比
1	6か月未満	22	4.7%
2	6か月以上～1年未満	26	5.5%
3	1年以上～3年未満	100	21.2%
4	3年以上～5年未満	68	14.4%
5	5年以上～10年未満	101	21.4%
6	10年以上～20年未満	108	22.9%
7	20年以上～	40	8.5%
	無回答	7	1.5%
合計		472	100.0%

・ 1年以上生活しているとの回答が9割近くを占めた。



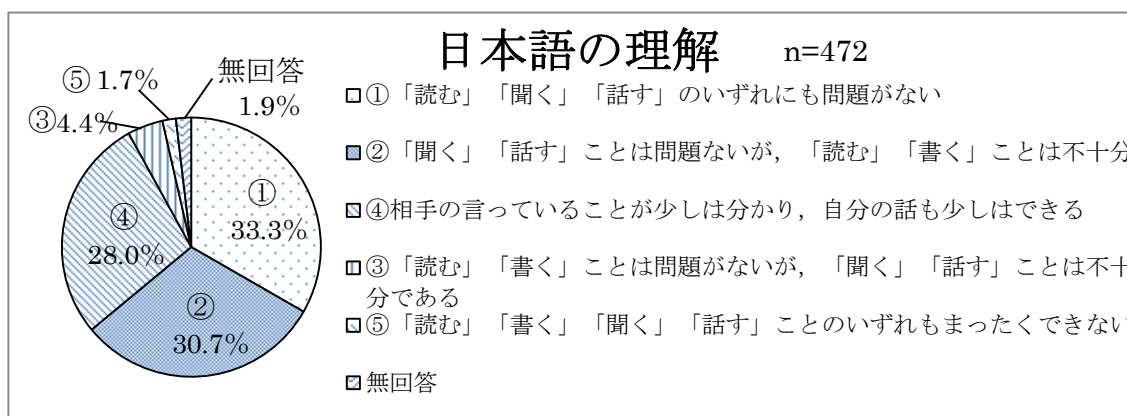
質問5-2 あなたは誰と一緒に暮らしていますか？		回答数	構成比
1	一人	126	26.7%
2	家族	263	55.7%
3	友人	39	8.3%
4	その他	34	7.2%
	無回答	10	2.1%
合計		472	100.0%

・家族と暮らしているとの回答が過半数を占めた。



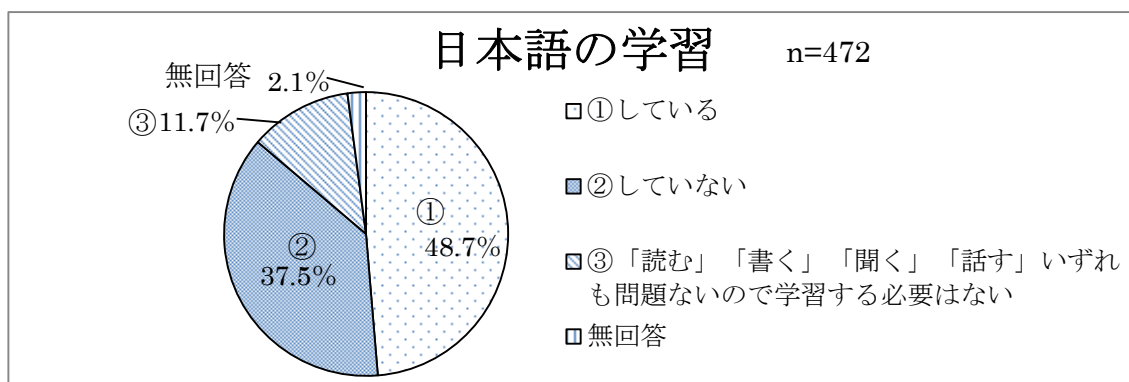
質問6	あなたは日本語をどの程度理解できますか？	回答数	構成比
1	「読む」「書く」「聞く」「話す」のいずれにも問題がない	157	33.3%
2	「聞く」「話す」ことは問題がないが、「読む」「書く」ことは不十分である	145	30.7%
3	「読む」「書く」ことは問題がないが、「聞く」「話す」ことは不十分である	21	4.4%
4	相手の言っていることが少しは分かり、自分の話も少しはできる	132	28.0%
5	「読む」「書く」「聞く」「話す」ことのいずれもまったくできない	8	1.7%
	無回答	9	1.9%
合計		472	100.0%

・「聞く」「話す」ことについては、6割以上(64%)が問題ないと回答した。一方、「相手の言っていることが少しわかり、自分の話も少しはできる」、「読む」「書く」「聞く」「話す」ことのいずれもまったくできない」という回答が約3割(29.7%)を占めた。

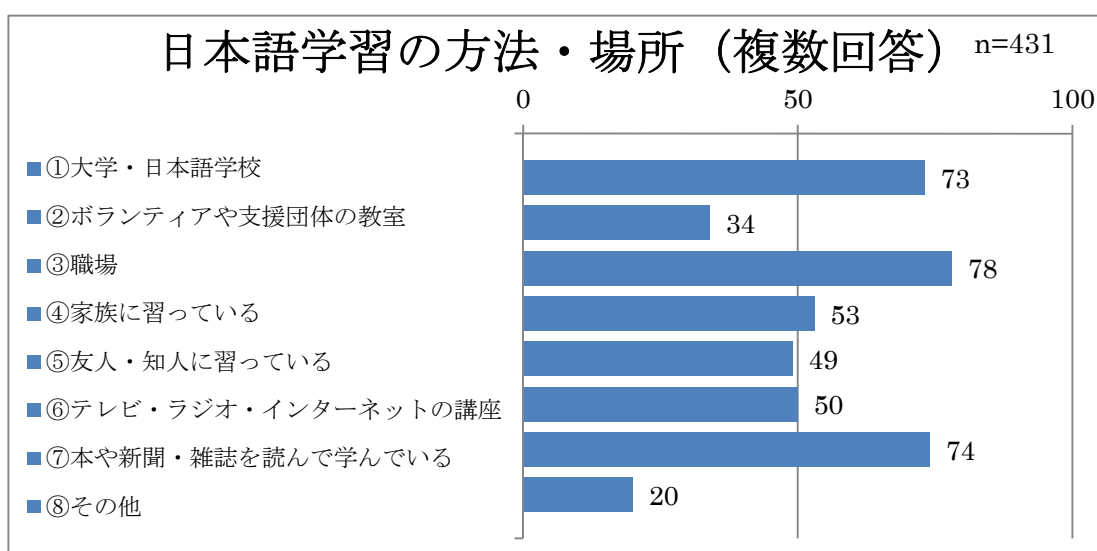


質問7	あなたは日本語を学習していますか？	回答数	構成比
1	している	230	48.7%
2	していない	177	37.5%
3	「読む」「書く」「聞く」「話す」いずれも問題ないので学習する必要はない	55	11.7%
	無回答	10	2.1%
合計		472	100.0%

・日本語を学習していると回答した人が48.7%と最も多く、学習する必要はないと回答した人も約1割いた。

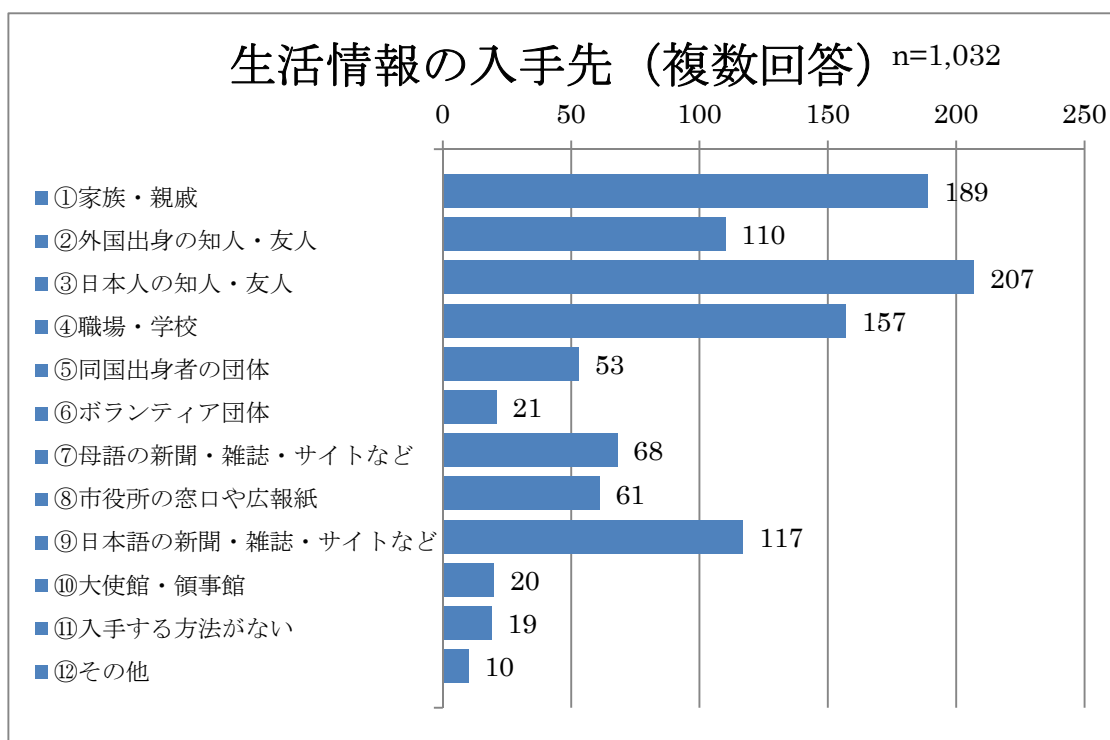


質問7-2	質問7で「1」と回答された方にお聞きします。主に日本語を学習している方法や場所を次の中から選んでください(複数回答)。	回答数
1	大学・日本語学校	73
2	ボランティアや支援団体の教室	34
3	職場	78
4	家族に習っている	53
5	友人・知人に習っている	49
6	テレビ・ラジオ・インターネットの講座	50
7	本や新聞・雑誌を読んで学んでいる	74
8	その他	20
合計		431



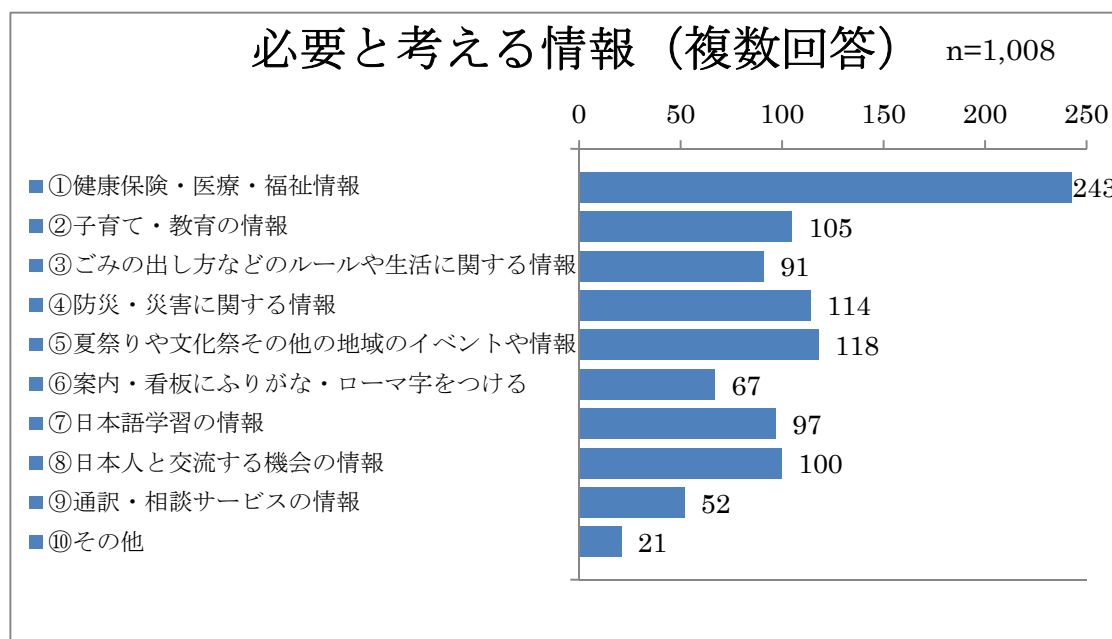
質問8	あなたは生活に必要な情報をどこから入手していますか？(複数回答)	回答数
1	家族・親戚	189
2	外国出身の知人・友人	110
3	日本人の知人・友人	207
4	職場・学校	157
5	同国出身者の団体	53
6	ボランティア団体	21
7	母語の新聞・雑誌・サイトなど	68
8	市役所の窓口や広報紙	61
9	日本語の新聞・雑誌・サイトなど	117
10	大使館・領事館	20
11	入手する方法がない	19
12	その他	10
合計		1,032

・情報の入手先は「日本人の知人・友人」が最も多く、次いで「家族・親戚」、「職場・学校」と続く。



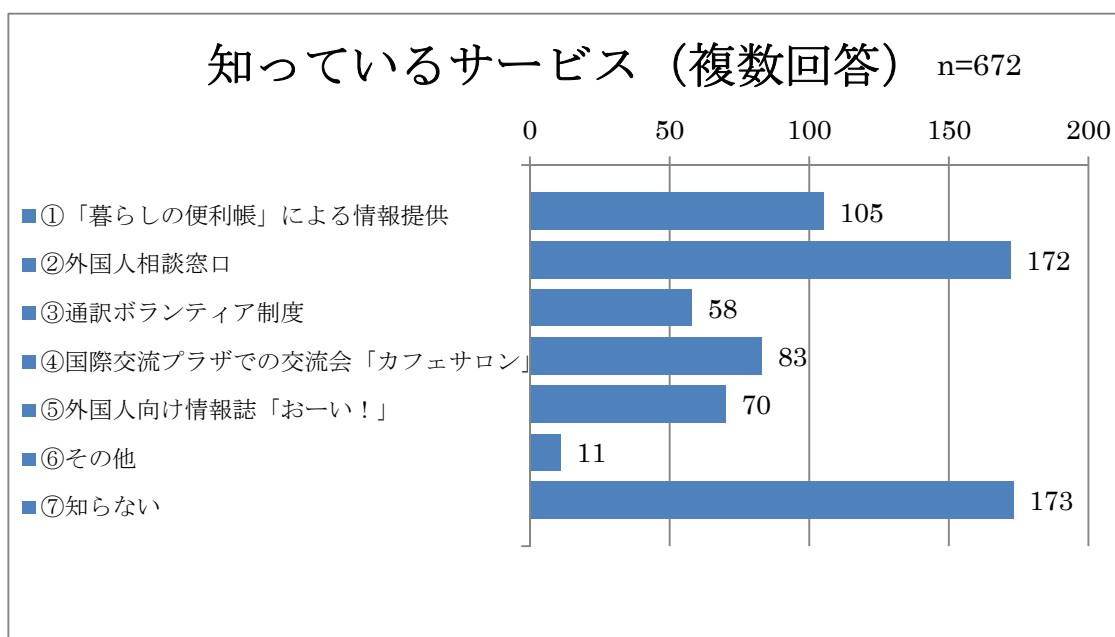
質問9	あなたが特に必要と考えている情報は次のうちどれですか？(3つ選択)	回答数
1	健康保険・医療・福祉の情報	243
2	子育て・教育の情報	105
3	ごみの出し方などのルールや生活に関する情報	91
4	防災・災害に関する情報	114
5	夏祭りや文化祭その他の地域のイベントや情報	118
6	案内・看板にふりがな・ローマ字をつける	67
7	日本語学習の情報	97
8	日本人と交流する機会の情報	100
9	通訳・相談サービスの情報	52
10	その他	21
合計		1,008

・「健康保険・医療・福祉の情報」(51.5%)が最も多く、「夏祭りや文化祭その他の地域のイベントや情報」(25%)、「防災・災害に関する情報」(24.2%)、「子育て・教育の情報」(22.2%)と続く。



質問10	外国籍市民のための宇都宮市の行政サービスのうち、あなたが知っているものは次のうちどれですか？(複数回答)	回答数
1	「暮らしの便利帳」による情報提供	105
2	外国人相談窓口	172
3	通訳ボランティア制度	58
4	国際交流プラザでの交流会「カフェサロン」	83
5	外国人向け情報誌「おーい！」	70
6	その他	11
7	知らない	173
合計		672

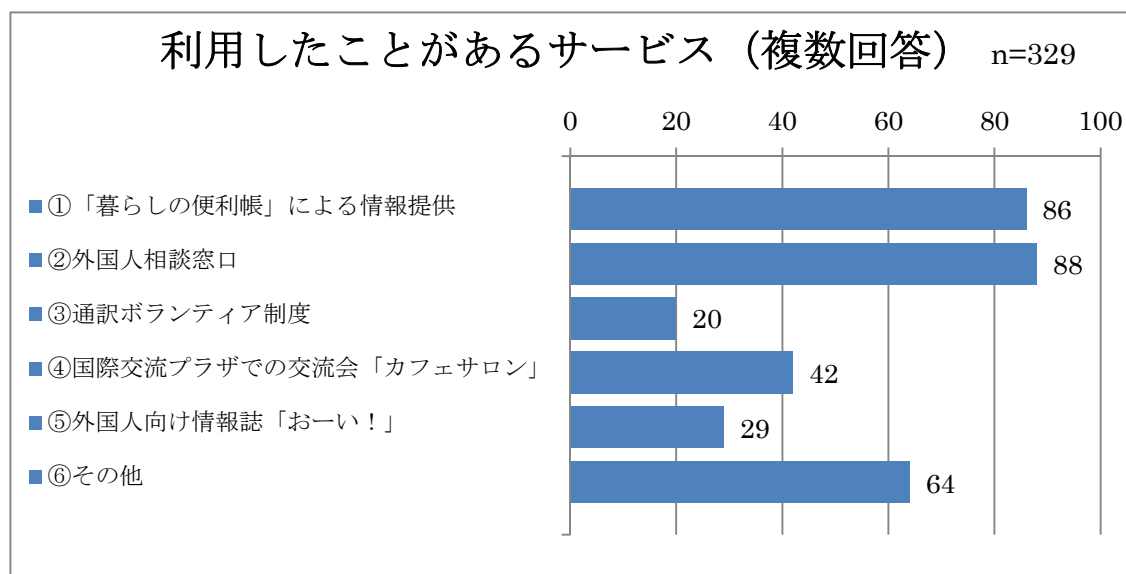
・「外国人相談窓口」(36.4%)が最も多く、「暮らしの便利帳」(22.2%)、「カフェサロン」(17.6%)と続く。一方、すべて「知らない」と回答した人も173人(36.7%)いる。





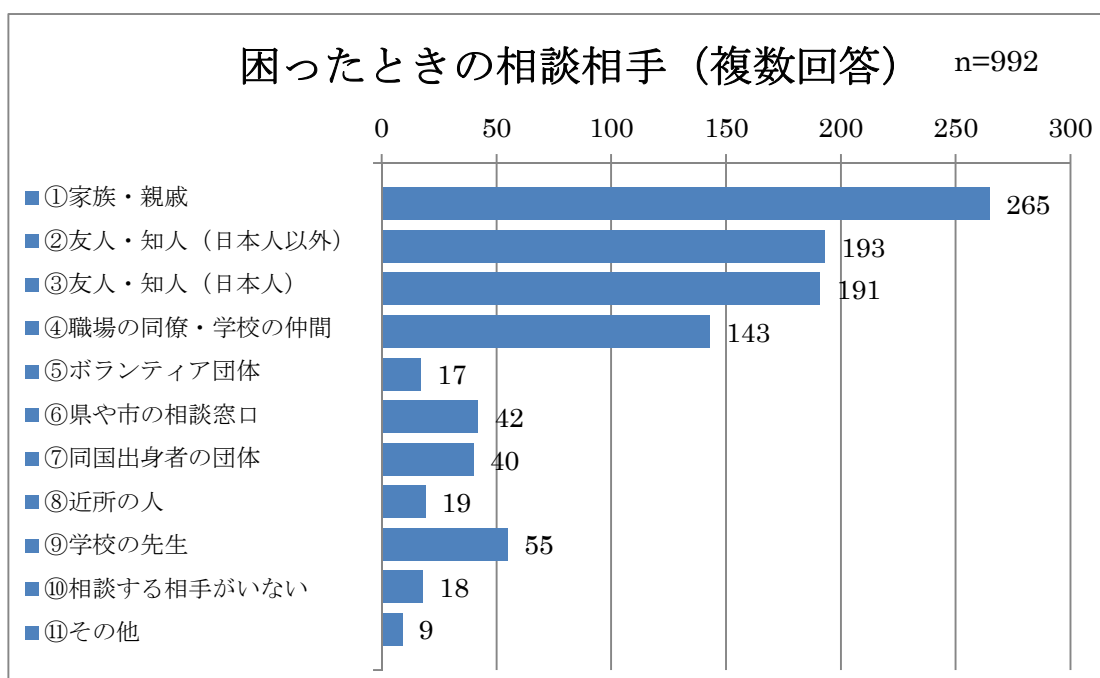
質問10ー 2	質問10で「1～6」に○をつけた方にお伺いします。あなたが利用 したことがあるものを次のうちから選んでください(複数回答)。	回答数
1	「暮らしの便利帳」による情報提供	86
2	外国人相談窓口	88
3	通訳ボランティア制度	20
4	国際交流プラザでの交流会「カフェサロン」	42
5	外国人向け情報誌「おーい！」	29
6	その他	64
合計		329

・利用したことがあるサービスについては、「外国人相談窓口」、「暮らしの便利帳」が上位を占めた。



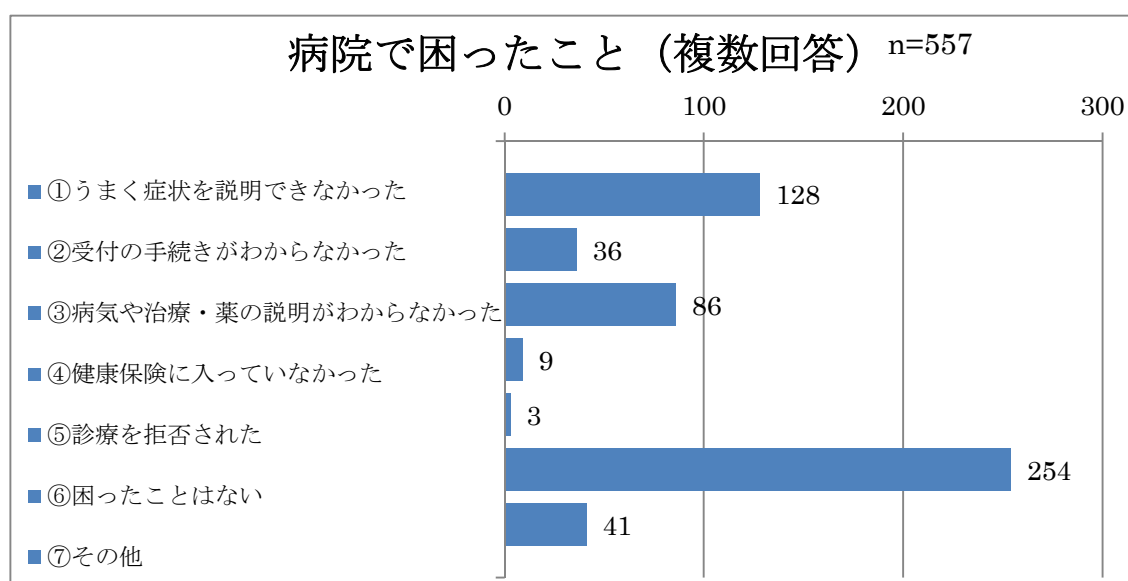
質問11	あなたが困ったときに相談している相手について、次のうちから選んでください(複数回答)。	回答数
1	家族・親戚	265
2	友人・知人(日本人以外)	193
3	友人・知人(日本人)	191
4	職場の同僚・学校の仲間	143
5	ボランティア団体	17
6	県や市の相談窓口	42
7	同国出身者の団体	40
8	近所の人	19
9	学校の先生	55
10	相談する相手がない	18
11	その他	9
合計		992

・「家族・親戚」が最も回答数が多く、「友人・知人(日本人以外)」、「友人・知人(日本人)」、「職場の同僚・学校の仲間」と続く。



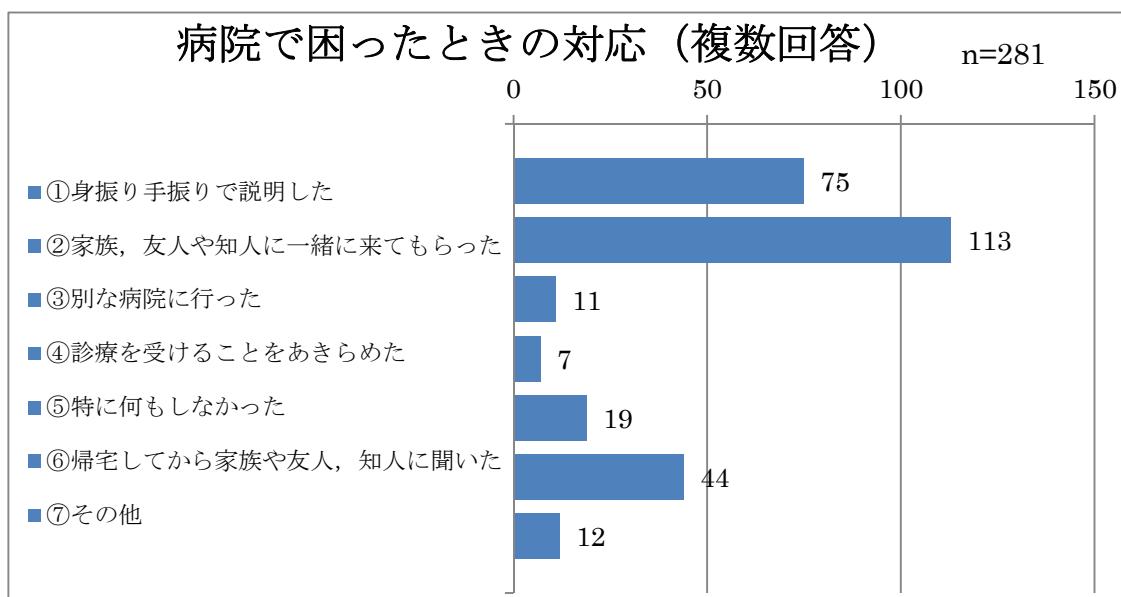
質問12	あなた, またはご家族が病院に行ったときに困ったことはありますか? 次の中から選んでください(複数回答)。	回答数
1	うまく症状を説明できなかった	128
2	受付の手続きがわからなかった	36
3	病気や治療・薬の説明がわからなかった	86
4	健康保険に入っていないかった	9
5	診療を拒否された	3
6	困ったことはない	254
7	その他	41
合計		557

・「困ったことはない」と回答した人が最も多かったが、「うまく症状を説明できなかった」と回答した人が128人いた。「診療を拒否された」と回答した人は3人であった。



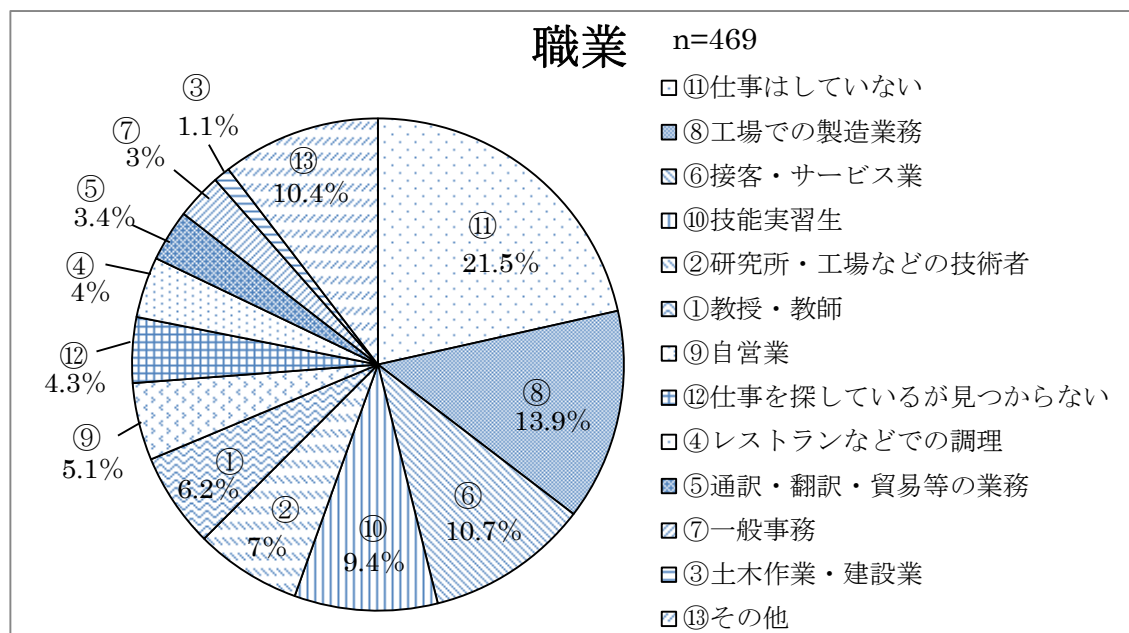
質問12-2	質問12で「1～5」に回答された方にお伺いします。そのとき、どのように対応しましたか？（複数回答）	回答数
1	身振り手振りで説明した	75
2	家族、友人や知人に一緒に来てもらった	113
3	別な病院に行った	11
4	診療を受けることをあきらめた	7
5	特に何もしなかった	19
6	帰宅してから家族や友人、知人に聞いた	44
7	その他	12
合計		281

・病院で困った時の対応としては、「家族、友人と一緒に来てもらった」が最も多く、次いで「身振り手振りで説明した」と続く。



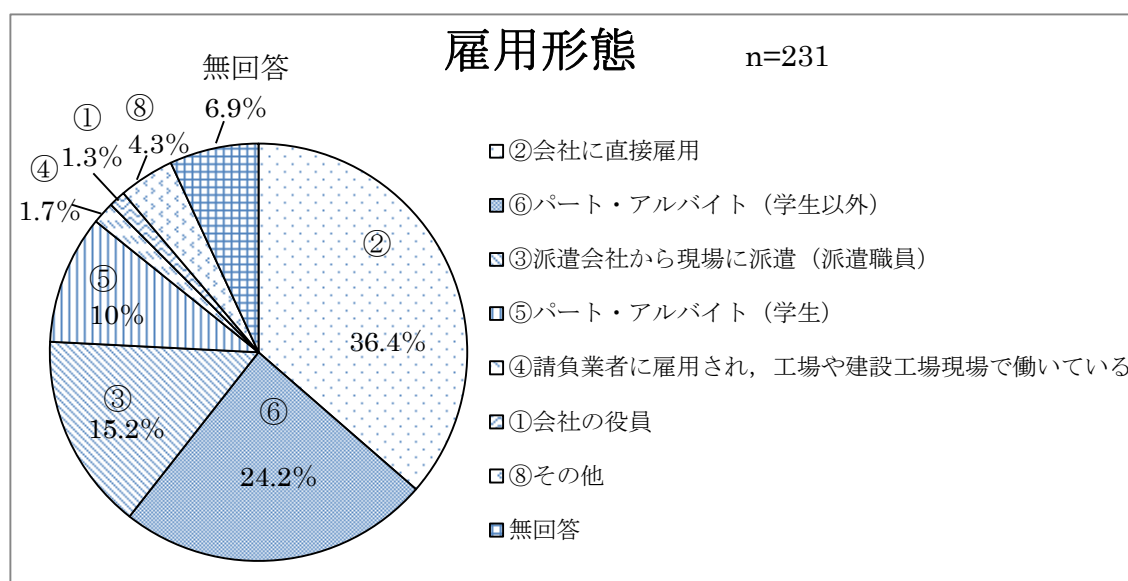
質問13	あなたの職業は次のどれですか？	回答数	構成比
1	教授・教師	29	6.2%
2	研究所・工場などの技術者	33	7.0%
3	土木作業・建設業	5	1.1%
4	レストランなどでの調理	19	4.0%
5	通訳・翻訳・貿易等の業務	16	3.4%
6	接客・サービス業	50	10.7%
7	一般事務	14	3.0%
8	工場での製造業務	65	13.9%
9	自営業	24	5.1%
10	技能実習生	44	9.4%
11	仕事はしていない	101	21.5%
12	仕事を探しているが見つからない	20	4.3%
13	その他	49	10.4%
合計		472	100.0%

・「仕事をしていない」が21.4%と最も多く、「工場での製造業務」、「接客・サービス業」と続く。  
 「仕事を探しているが見つからない」も4.2%あった。



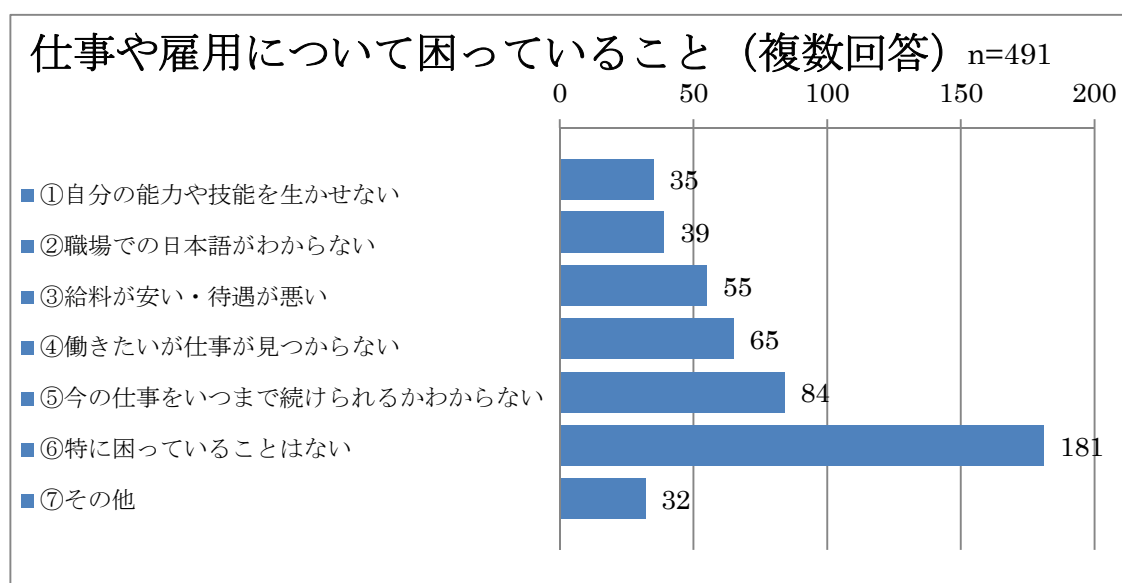
質問13-2	質問13で「1～8」のいずれかにお答えの方にお聞きします。その仕事にはどのような立場で働いていますか？	回答数	構成比
1	会社の役員	3	1.3%
2	会社に直接雇用	84	36.4%
3	派遣会社から現場に派遣(派遣社員)	35	15.2%
4	請負業者に雇用され、工場や建設工事現場で働いている	4	1.7%
5	パート・アルバイト(学生)	23	10.0%
6	パート・アルバイト(学生以外)	56	24.2%
7	わからない	—	0.0%
8	その他	10	4.3%
	無回答	16	6.9%
合計		231	100.0%

・「会社に直接雇用」が 84 件、36.4%を占め、次いで、「パート・アルバイト(学生以外)」が 24.2%と続く。派遣・請負を合計すると約 17%となった。

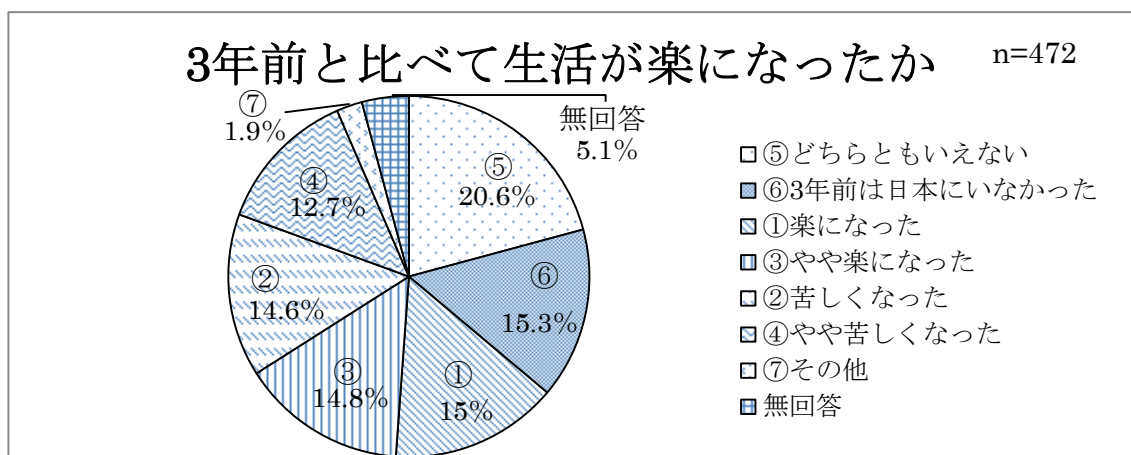


質問14	あなたは仕事や雇用について困っていることがありますか？ (複数回答)	回答数
1	自分の能力や技能を生かせない	35
2	職場での日本語がわからない	39
3	給料が安い・待遇が悪い	55
4	働きたいが仕事が見つからない	65
5	今の仕事をいつまで続けられるかわからない	84
6	特に困っていることはない	181
7	その他	32
合計		491

・「特に困っていることはない」が最も多い。一方、「今の仕事をいつまで続けられるかわからない」、「働きたいが仕事が見つからない」など、雇用・就労に関する不安を感じているとの回答も多い。



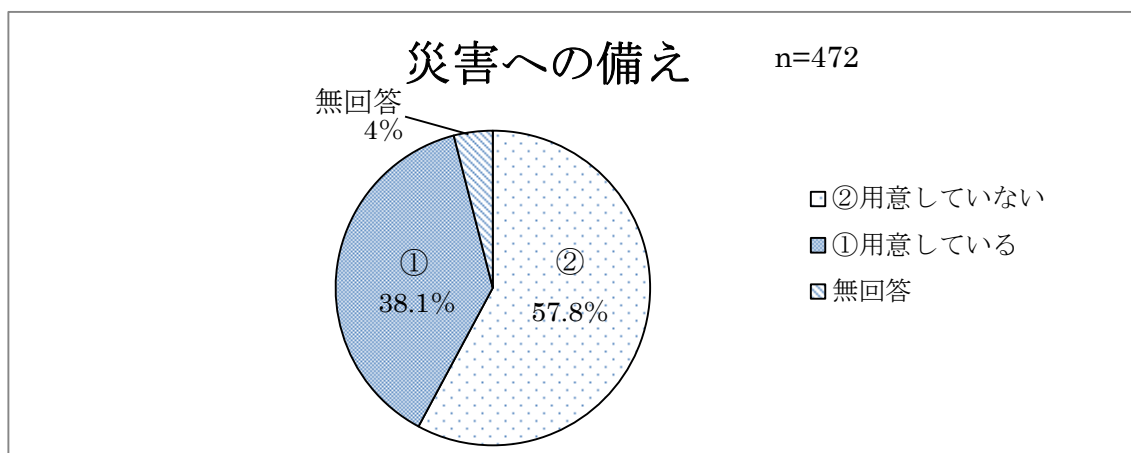
質問15	3年前と比べて、あなたは生活が楽になったと感じますか、苦しくなったと感じますか？	回答数	構成比
1	楽になった	71	15.0%
2	苦しくなった	69	14.6%
3	やや楽になった	70	14.8%
4	やや苦しくなった	60	12.7%
5	どちらともいえない	97	20.6%
6	3年前は日本にいなかった	72	15.3%
7	その他	9	1.9%
	無回答	24	5.1%
合計		472	100.0%



質問16	あなたは日頃から、災害に備えた用意をしていますか？	回答数	構成比
1	用意している	180	38.1%
2	用意していない	273	57.8%
	無回答	19	4.0%
合計		472	100.0%

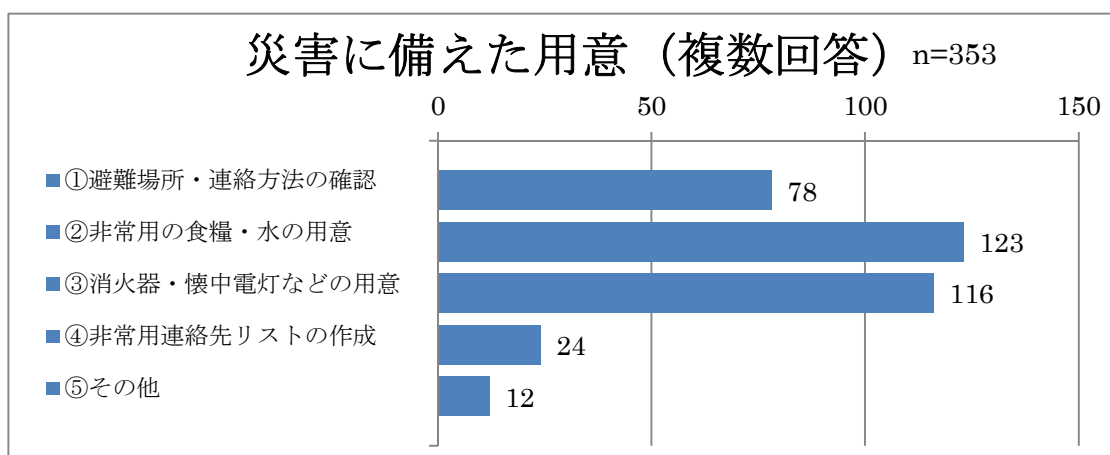
・「用意していない」が約6割を占めた。





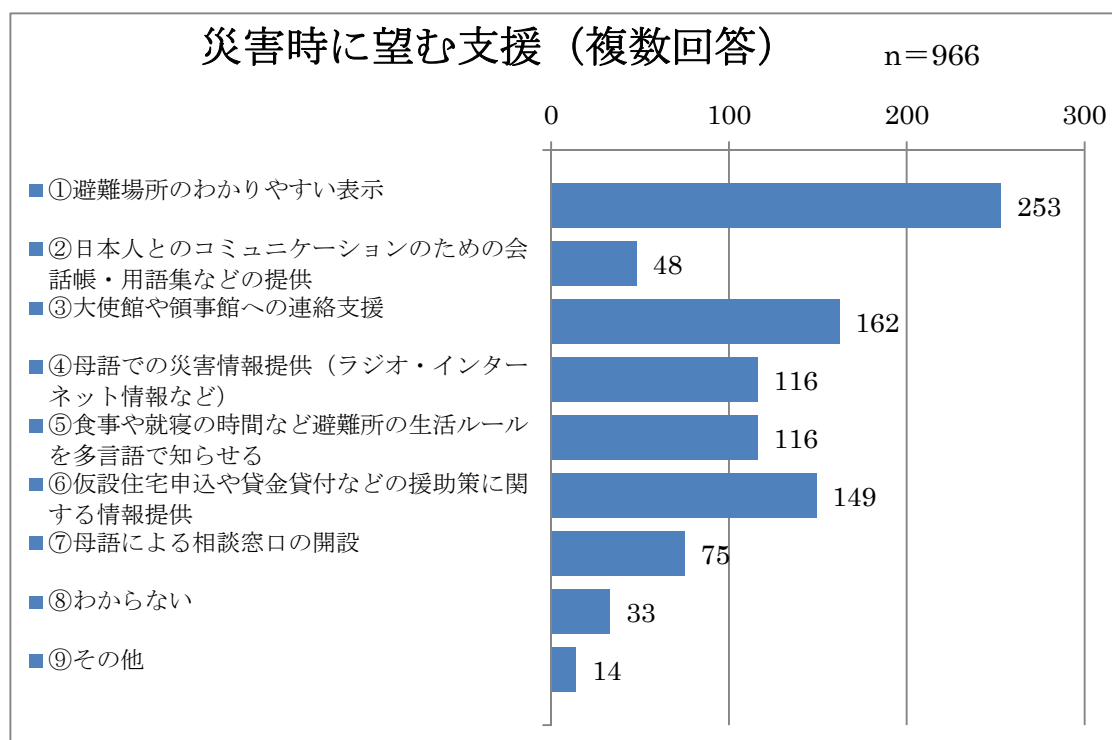
質問16-2	質問16で「1」と答えた方にお伺いします。それはどのようなことでしたか？(複数回答)	回答数
1	避難場所・連絡方法の確認	78
2	非常用の食糧・水の用意	123
3	消火器・懐中電灯などの用意	116
4	非常用連絡先リストの作成	24
5	その他	12
合計		353

・具体的な災害への備えは、「非常用の食糧・水の用意」と「消火器・懐中電灯などの用意」が多い。避難場所・連絡方法を確認していた人も78人いる。



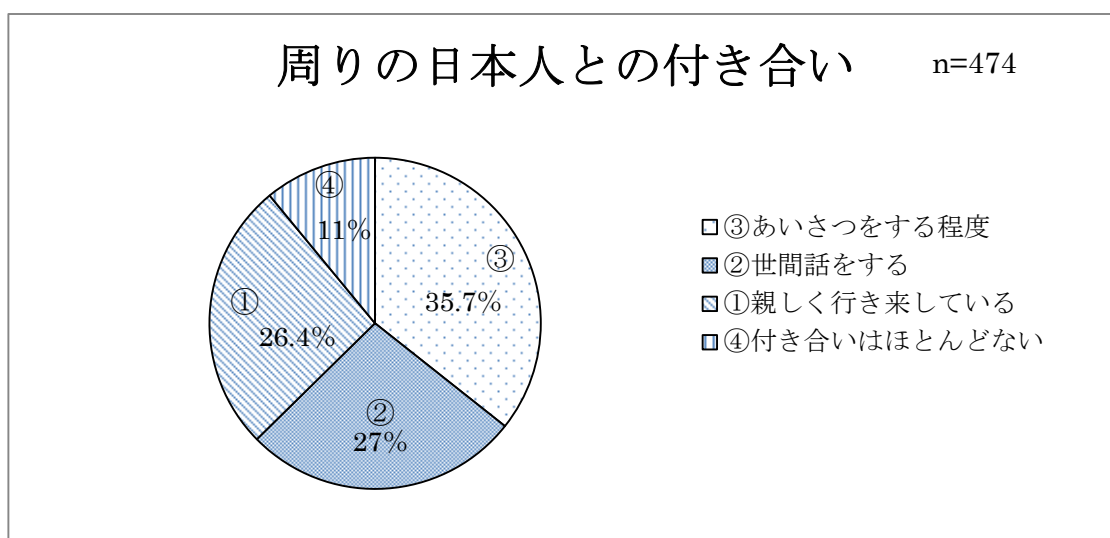
質問17	災害が起きたときに、あなたはどのような支援を望みますか？次の中から選んでください。(3つ選択)	回答数
1	避難場所のわかりやすい表示	253
2	日本人とのコミュニケーションのための会話帳・用語集などの提供	48
3	大使館や領事館への連絡支援	162
4	母語での災害情報提供(ラジオ・インターネット情報など)	116
5	食事や就寝の時間など避難所の生活ルールを多言語で知らせる	116
6	仮設住宅申込や資金貸付などの援助策に関する情報提供	149
7	母語による相談窓口の開設	75
8	わからない	33
9	その他	14
合計		966

・希望する支援策については、「避難場所のわかりやすい表示」が最も多く、「大使館や領事館への連絡支援」や「仮設住宅申込や資金貸付などの援助策に関する情報」と続く。



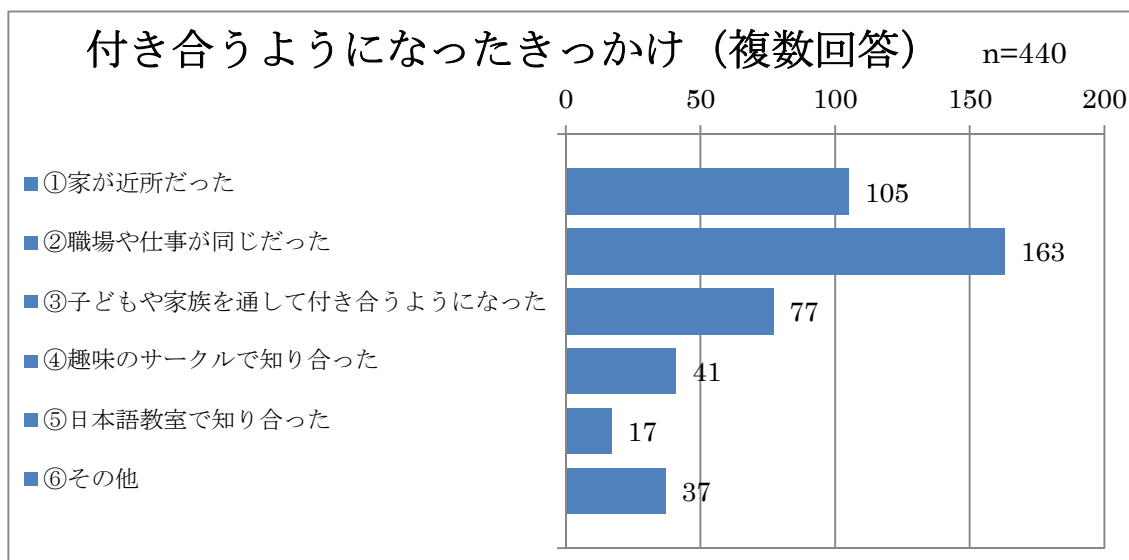
質問18	あなたは周りの日本人とどのような付き合いをされていますか？次の中から選んでください。	回答数	構成比
1	親しく行き来している	125	26.4%
2	世間話をする	128	27.0%
3	あいさつをする程度	169	35.7%
4	付き合いはほとんどない	52	11.0%
	無回答		0.0%
合計		474	100.0%

・日ごろの日本人との付き合いについては、「あいさつをする程度」が169件、35.7%を占め、次に「世間話をする」、「親しく行き来している」と続く。



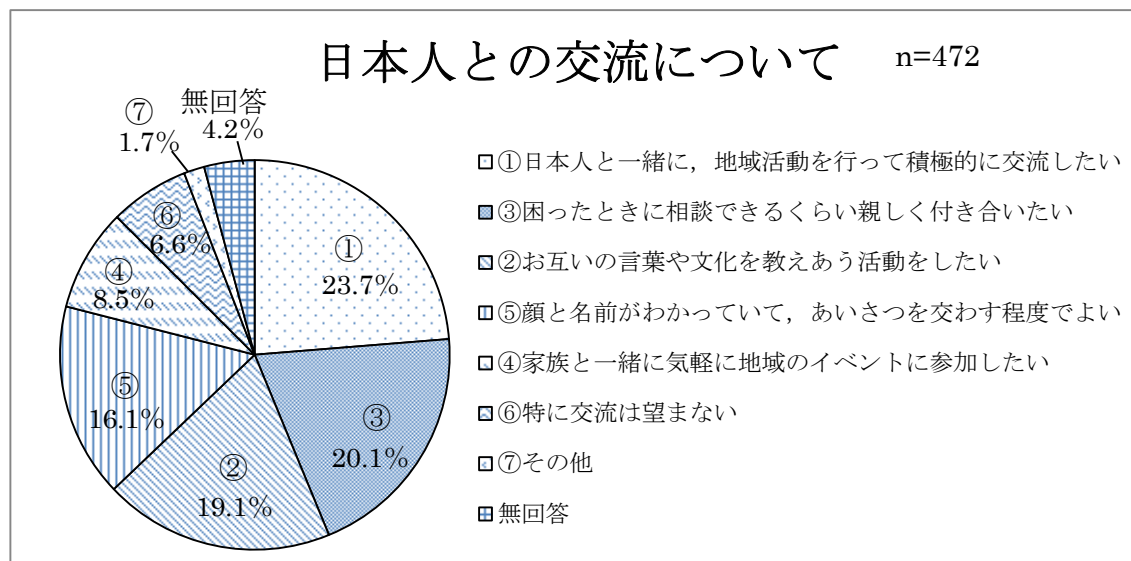
質問18で「1・2」と答えた方にお伺いします。その日本人と付き合いようになったきっかけ、話すようになったきっかけはどのようなことでしたか？次の中から選んでください(複数回答)。		回答数
1	家が近所だった	105
2	職場や仕事と同じだった	163
3	子どもや家族を通して付き合いようになった	77
4	趣味のサークルで知り合った	41
5	日本語教室で知り合った	17
6	その他	37
合計		440

・付き合いきっかけは、「職場や仕事と同じ」が最も多く、次いで「家が近所だった」と続く。



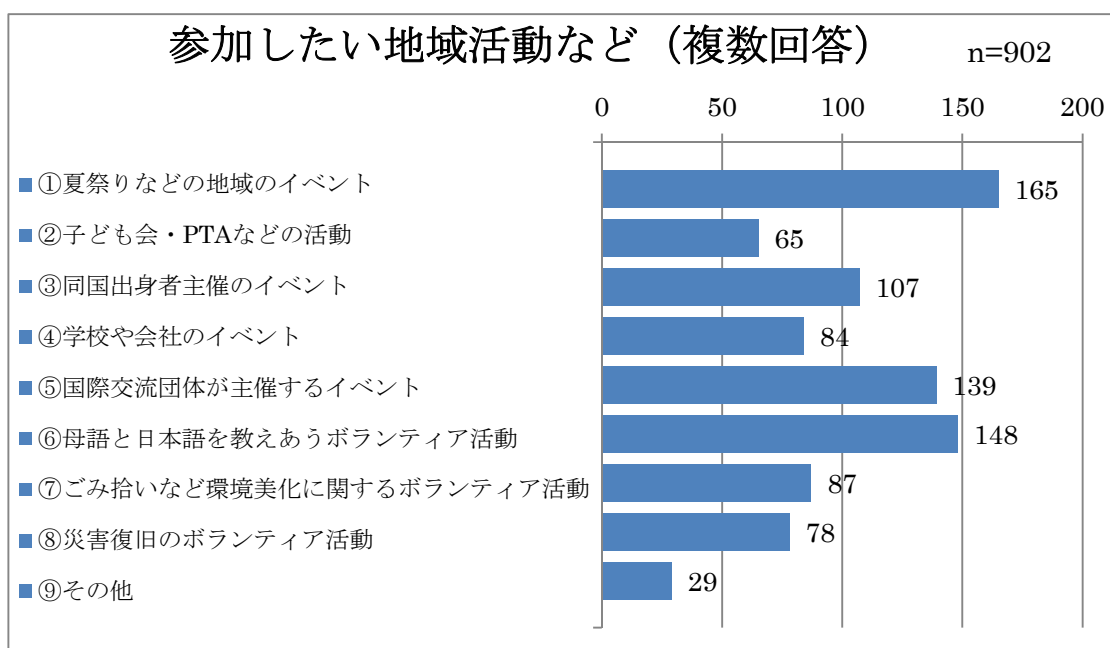
質問20	地域社会で生活していく上で、日本人との交流についてあなたはどのように考えますか？次の中からもっとも近いものを選んでください。	回答数	構成比
1	日本人と一緒に、地域活動を行って積極的に交流をしたい	112	23.7%
2	お互いの言葉や文化を教えあう活動をしたい	90	19.1%
3	困ったときに相談できるくらい親しく付き合いたい	95	20.1%
4	家族と一緒に気軽に地域のイベントに参加したい	40	8.5%
5	顔と名前がわかっていて、あいさつを交わす程度でよい	76	16.1%
6	特に交流は望まない	31	6.6%
7	その他	8	1.7%
	無回答	20	4.2%
合計		472	100.0%

- ・日本人との交流意向は、「日本人と一緒に、地域活動を行って積極的に交流をしたい」が最も多く、次いで、「困ったときに相談できるくらい親しく付き合いたい」、「お互いの言葉や文化を教えあう活動をしたい」と続く。「顔と名前がわかっていて、あいさつを交わす程度でよい」、「特に交流は望まない」という回答も約2割あった。



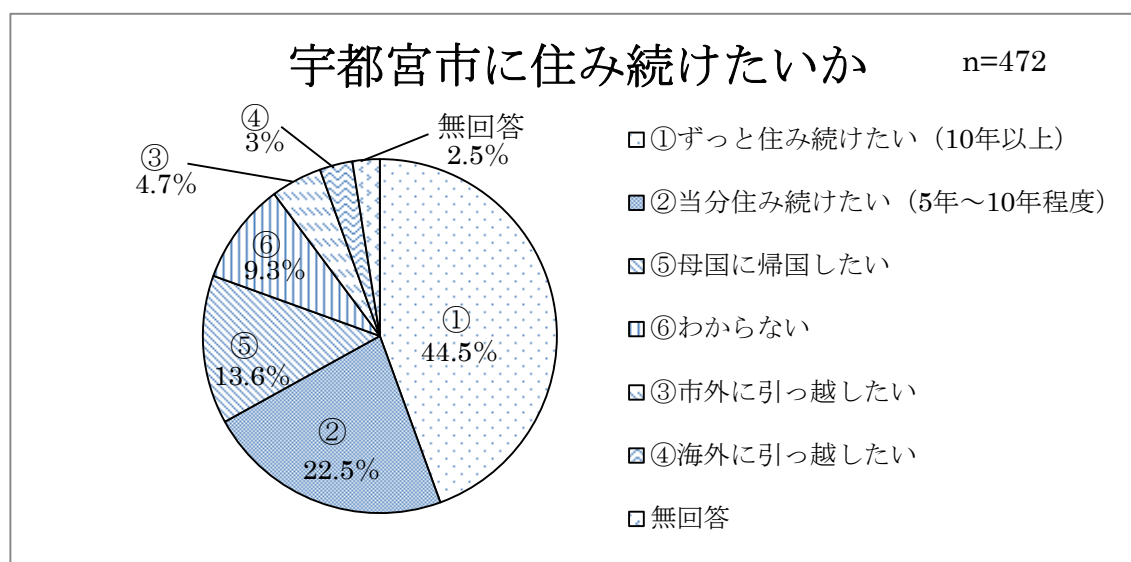
質問21	あなたは今後どのような地域活動やイベント、ボランティア活動に参加してみたいですか？次の中から選んでください(複数回答)。	回答数
1	夏祭りなどの地域のイベント	165
2	子ども会・PTAなどの活動	65
3	同国出身者主催のイベント	107
4	学校や会社のイベント	84
5	国際交流団体が主催するイベント	139
6	母語と日本語を教えあうボランティア活動	148
7	ごみ拾いなど環境美化に関するボランティア活動	87
8	災害復旧のボランティア活動	78
9	その他	29
合計		902

・参加してみたい活動については、「夏祭りなどの地域のイベント」が最も多く、「母語と日本語を教えあうボランティア活動」、「国際交流団体が主催するイベント」、「同国出身者主催のイベント」と続く。



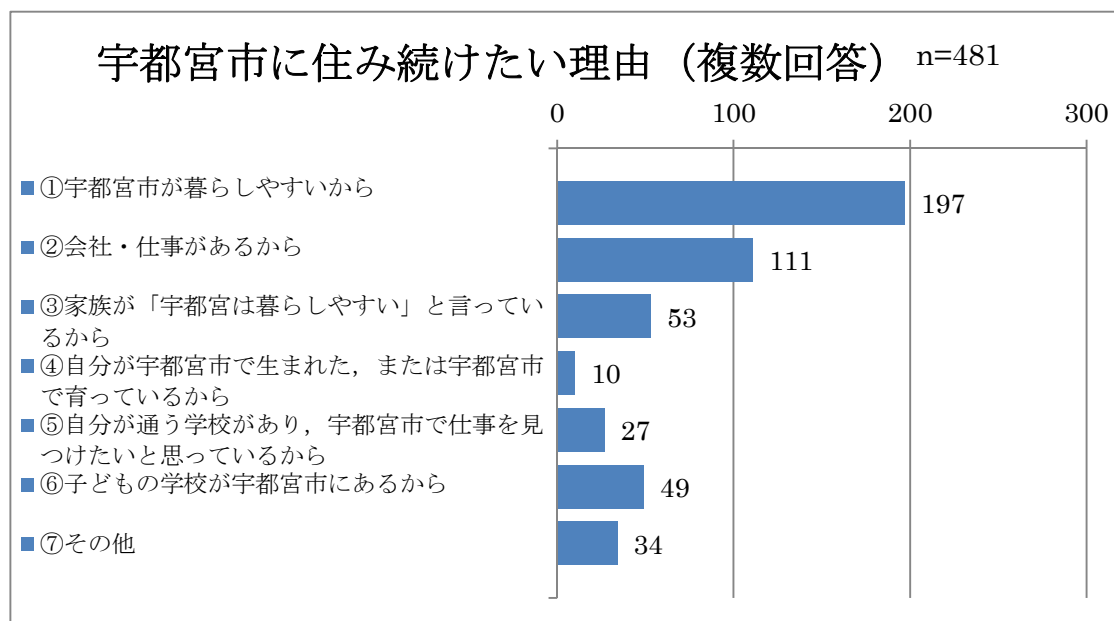
質問22	あなたは宇都宮市に住み続けたいと思いますか？ 次の中から選んでください。	回答数	構成比
1	ずっと住み続けたい(10年以上)	210	44.5%
2	当分住み続けたい(5年～10年程度)	106	22.5%
3	市外に引っ越したい	22	4.7%
4	海外に引っ越したい	14	3.0%
5	母国に帰国したい	64	13.6%
6	わからない	44	9.3%
	無回答	12	2.5%
合計		472	100.0%

・今後の定住意向については、「ずっと住み続けたい」が210件と約半数を占めた。これに「当分住み続けたい」が106件、22.5%と合わせると約7割が定住意向を示している。



質問22 -2	質問22で「1」と「2」に回答した方にお伺いします。その理由は何ですか？(複数回答)	回答数
1	宇都宮市が暮らしやすいから	197
2	会社・仕事があるから	111
3	家族が「宇都宮市は暮らしやすい」と言っているから	53
4	自分が宇都宮市で生まれた, または宇都宮市で育っているから	10
5	自分が通う学校があり, 宇都宮市で仕事を見つけないと思っ ているから	27
6	子どもの学校が宇都宮市にあるから	49
7	その他	34
合計		481

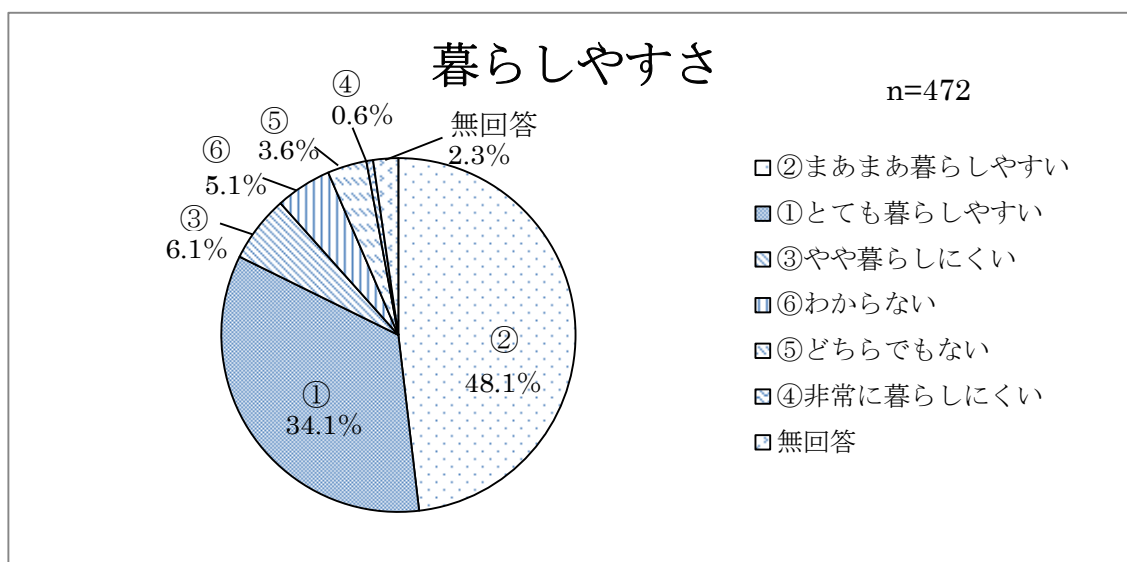
・「住み続けたい」理由については、「宇都宮市が暮らしやすいから」が最も多く、次に、「会社・仕事があるから」と続く。





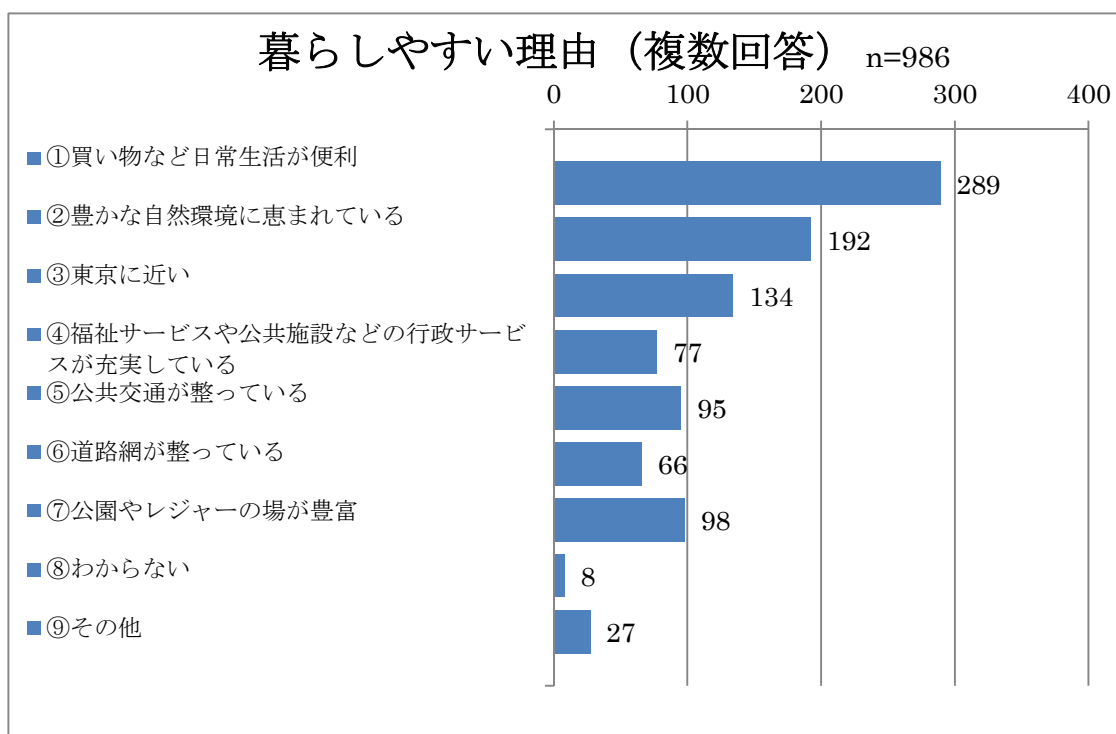
質問23	あなたにとって宇都宮市は暮らしやすいところですか？	回答数	構成比
1	とても暮らしやすい	161	34.1%
2	まあまあ暮らしやすい	227	48.1%
3	やや暮らしにくい	29	6.1%
4	非常に暮らしにくい	3	0.6%
5	どちらでもない	17	3.6%
6	わからない	24	5.1%
	無回答	11	2.3%
合計		472	100.0%

・暮らしやすさについては、「とても暮らしやすい」、「まあまあ暮らしやすい」との回答が合わせて388件、8割(82.2%)を超えた。



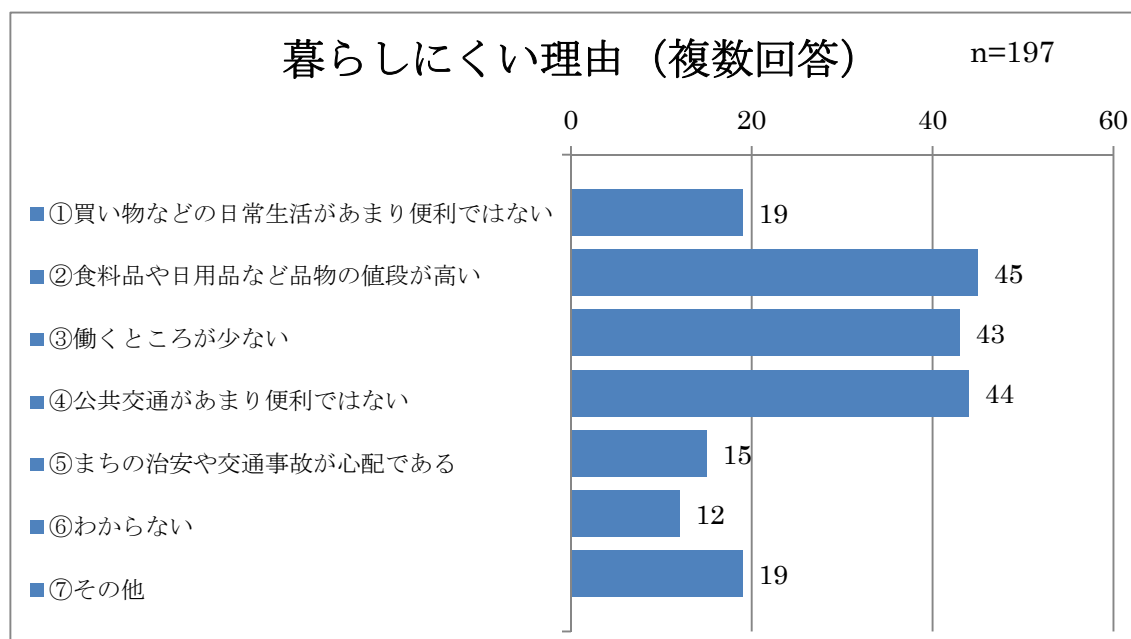
質問23 -2	質問23で「1・2」と答えた方にお伺いします。あなたが宇都宮市を暮らしやすいと思うところはどこですか？(複数回答)	回答数
1	買い物など日常生活が便利	289
2	豊かな自然環境に恵まれている	192
3	東京に近い	134
4	福祉サービスや公共施設などの行政サービスが充実している	77
5	公共交通が整っている	95
6	道路網が整っている	66
7	公園やレジャーの場が豊富	98
8	わからない	8
9	その他	27
合計		986

・暮らしやすいと思う理由は、「買い物など日常生活が便利」が最も多く、次に、「豊かな自然環境に恵まれている」が続く。「東京に近い」との回答も3割を超えている。



質問23－ 3	質問23で「3・4」と答えた方にお伺いします。あなたが宇都宮市を暮らしにくいと思うところはどこですか？（複数回答）	回答数
1	買い物などの日常生活があまり便利ではない	19
2	食料品や日用品など品物の値段が高い	45
3	働くところが少ない	43
4	公共交通があまり便利ではない	44
5	まちの治安や交通事故が心配である	15
6	わからない	12
7	その他	19
合計		197

・暮らしにくい理由としては、「公共交通があまり便利ではない」が最も多く、次いで、「働くところが少ない」と続く。



◆ 自由回答

アンケートの各設問中「その他」に記入されたうち、複数寄せられた意見を掲げる。

(1) 質問9 特に必要と考えている情報について

- ・ 雇用，仕事に関する情報
- ・ 外国人同士の交流に関する情報

(2) 質問12 病院で困ったことについて

- ・ 医療費が高い，払えない

(3) 質問14 仕事や雇用について困ったことについて

- ・ 仕事が少ない
- ・ 給料が安い

(4) 質問17 災害時に望む支援について

- ・ 災害時は，役所や病院などは24時間対応すべき
- ・ お金がほしい

(5) 質問19 日本人と付き合うきっかけ

- ・ 家族や親戚の友人
- ・ 学校，職場などの友人

(6) 質問22-2 宇都宮に住み続けたい理由

- ・ 家を建てたから
- ・ 家族，親戚が住んでいるから
- ・ 会社，仕事があるから

(7) 質問23-2 宇都宮が暮らしやすい理由

- ・ 自然が豊か
- ・ 自然災害が少ない
- ・ 人がやさしい

(8) 質問23-3 宇都宮が暮らしにくい理由

- ・ 働く場所が少ない
- ・ 車がないと生活が不便
- ・ 運転マナーが悪い

(9) 自由意見 生活で困っていること

- ・ 公共交通が不便。車がないと生活できない。
- ・ 働く場所が少ない。就職が難しい。
- ・ 家賃が高い
- ・ 税金が高い
- ・ 道も狭く，交通マナーが悪い

(10) 自由意見 相互理解のために必要なこと

- ・ 外国人と日本人の交流の機会を増やす

- お互いにそれぞれの文化と違いを理解し、尊重しあう
- 日本人が外国人のことを理解し、偏見や差別につながらないようにする
- 日本語をもっと学習する